聖淨漸頓（般舟讃三右）

アルヒハ禪念シテ、座シテ思量セヨトオシフ。種種ノ法門ミナ解脱スト。

又云ク。萬劫、功ヲ修セムコト、マコトニツキカタシ、一時ニ煩惱モ、タヒチタヒマシワル、若シ娑婆ニシテ法忍ヲ證セムコトヲ待ハ、六道ニシテ恒沙ノ劫ニモ未タ期アラシ。門門不同ナルヲ漸教トナツク、萬劫苦行シテ无生ヲ證ス、畢命ヲ期トシテ、モハラ念佛スヘシ、須臾ニ命チタフレハ佛ケ迎ヘ將キテマシマス。一食ノトキナホヒマアリ（間）、イカンカ萬劫ニ貪瞋セサラム、貪瞋ハ人天ヲウクル路ヲサフ（鄣）、三惡四趣ノ内ニ身ヲ安スト抄要。

淨土易往（般舟讃廿三右）

又云ク。定散倶ニ回シテ寶國ニイレ、即チ是レ如來ノ異ノ方便ナリ、韋提ハ即チ是レ女人ノ相、貪瞋具足ノ凡夫ノクラキナリト已上。

不實機相（論註上六右）

論註ニ曰ク。二種ノ功德ノ相アリ。一ニハ有漏ノ心ヨリ生シテ、法性ニ順セス。イハユル凡夫人天ノ諸善、人天ノ果報、モシハ因モシハ果、皆是レ顚倒ス、皆是レ虛僞ナリ、カルカユヘニ不實ノ功德トナツクト已上。

聖淨難易（安樂集上廿八右）

安樂集ニ云ク。大集經ノ月藏分ヲ引テ言ハク。我カ末法ノトキノ中ニ億億ノ衆生、行ヲ起シ、道ヲ修セムニ、イマタ一人モ得ルモノアラシト。（大集經五十五「玄四ノ五十四右」）

聖道難證（安樂集下十八右）

當今ハ末法ナリ、コレ五濁惡世ニハ唯淨土ノ一門アリテ通入スヘキ路ナリト。

又云ク。イマタ一萬劫ヲミタサルコノカタハ、ツネニイマタ火宅ヲマヌカレス、轉倒墜墮スルカユヘニ、オノオノ用功ハイタリテオモク、獲報ハ僞ナリト已上。

（眞假）三經眞假

シカルニイマ、大本ニ據ニ、眞實方便之願ヲ超發ス、亦觀經ニハ方便眞實之敎ヲ顯彰ス、小本ニハ唯眞門ヲ開イテ方便ノ善ナシ。是ヲモテ、三經ノ眞實ハ、選擇本願ヲ宗トスルナリ。

觀經方便

復三經ノ方便ハ、即チ是レ、モロモロノ善根ヲ修スルヲ要トスルナリ。此ニ依テ方便之願ヲ按スルニ、假アリ眞アリ、亦行アリ信アリ。願トイフハ即チ是レ臨終現前之願ナリ。

要門之敎

行トイフハ即チ是レ修諸功德ノ善ナリ。信トイフハ即チ是レ至心發願欲生ノ心ナリ。此ノ願ノ行信ニ依テ、淨土ノ要門方便權假ヲ顯開ス。

要門之行

此ノ要門ヨリ、正助雜ノ三行ヲイタセリ。此ノ正助ノ中ニ就テ專修アリ、雜

要門之信

要門之證
觀經眞實

三經眞實

△樂 ラク反 コノム反

（玄義分三右）

修アリ。機ニ就テ二種アリ、一ニハ定機、二ニハ散機ナリ。又二種ノ三心アリ、亦二種ノ往生アリ。二種ノ三心トイフハ、一ニハ定ノ三心、二ニハ散ノ三心ナリ。定散ノ心トイフハ、卽チ自利各別ノ心ナリ。二種ノ往生トイフハ、一ニハ卽往生、二ニハ便往生ナリ。便往生トイフハ、卽チ是レ胎生邊地、雙樹林下ノ往生ナリ。卽往生トイフハ、卽チ是レ報土化生ナリ。亦此ノ經ニ眞實アリ、斯レ乃チ金剛ノ眞心ヲ開イテ、攝取不捨ヲアラハサムトス。シカレハ、濁世能化ノ釋迦善逝、至心信樂之願心ヲ宣說シタマフ、報土ノ眞因ハ、信樂ヲ正トスルカユヘナリ。是ヲモテ、大經ニハ信樂トノタマヘリ、如來ノ誓願疑蓋マシハルコトナキカユヘニ信トノタマヘルナリ。觀經ニハ深心トトケリ、諸機ノ淺信ニ對セルカユヘニ深トノタマヘルナリ。小本ニハ一心トノタマヘリ、二行マシハルコトナキカユヘニ、一トノタマヘルナリ。復一心ニ就テ深アリ淺アリ。深トイフハ利他眞實ノ心是レナリ、淺トイフハ定散自利ノ心是レナリ。

宗師ノコヽロニ依ルニ、心ニヨリテ勝行ヲ起セリ、門、八萬四千ニア

定散難成
觀法難成

△稱 カナフ反
△凝 コラシ反
△廢 ハイ反 ステヽ反
（定善義廿一右）

（定善義廿四右）

門餘釋
一代教判

聖道門

淨土門

マレリ、漸頓則チオノオノ所宜ニカナイテ、緣ニシタカフ者、則チミナ解脫ヲカウフレリト云ヘリ。シカルニ常沒ノ凡愚、定心修シカタシ、息慮凝心ノユヘニ。散心行シカタシ、廢惡修善ノユヘニ。是ヲモテ、立相住心ナヲ成シカタキカユヘニ、（縱）タトイ千年（ノ）壽ヲツクストモ、法眼イマタカツテヒラケシト言ヘリ。イカニイハンヤ、无相離念マコトニエカタシ。カルカユヘニ、如來懸ニ末代罪濁ノ凡夫ヲシロシメス、立相住心尙ヲウルコトアタハスト。イカニイハンヤ、相ヲハナレテ事ヲモトメンハ、術通ナキ人ノ、空ニ居テ舍ヲ立テンカコトキナリト言ヘリ。門餘ト言フハ、門ハ卽チ八萬四千ノ假門ナリ、餘ハ則チ本願一乘海ナリ。

凡ソ一代ノ敎ニ就テ、此ノ界ノ中ニシテ入聖得果スルヲ、聖道門トナツク、難行道ト云ヘリ。此ノ門ノ中ニ就テ、大小漸頓、一乘二乘三乘、權實顯蜜、竪出竪超アリ。則チ是レ自力、利他敎化他（マヽ）、方便權門ノ道路ナリ。安養淨刹ニシテ入聖證果スルヲ、淨土門トナツク、易行道ト云ヘリ。此ノ門ノ中ニ就テ、横出横超、假眞漸頓、助正雜行、雜修專修アル

正助雜釋
横超釋
雜行釋
雜行之體
雜行修相

ナリ。正トイフハ五種ノ正行ナリ。助トイフハ名號ヲ除テ、己外ノ五種（マヽ）（四）是レナリ。雜行トイフハ、正助ヲ除キテ己外ヲ、コトコトク雜行トナツク。此レ乃チ横出漸敎、定散三福、三輩九品、自力假門ナリ。横超トイフハ、本願ヲ憶念シテ、自力ノ心ヲハナル丶、是レヲ横超他力トナツクルナリ。斯レ卽チ專ノ中ノ專、頓ノ中ノ頓、眞ノ中ノ眞、乘ノ中ノ一乘ナリ、斯レ乃チ眞宗ナリ。己ニ眞實行ノ中ニアラハシオハンヌ。

夫レ雜行雜修、ソノ言ハヒトツニシテ、ソノコ丶ロコレ異ナリ。雜ノ言ニオイテ、萬行ヲ攝入ス。五正行ニ對シテ、五種ノ雜行アリ。雜ノ言ハ、人天菩薩等ノ解行雜セルカユヘニ雜ト曰ヘリ。モトヨリ往生ノ因種ニアラス、廻心回向ノ善ナリ、カルカユヘニ淨土ノ雜行ト曰フナリ。復雜行ニ就テ、專行アリ、專心アリ、復雜行アリ、雜心アリ。專行トイフハ、モハラ一善ヲ修ス、カルカユヘニ專行ト曰フ。專心トイフハ、回向ヲモハラニスルカユヘニ專心ト曰ヘリ。雜行雜心トイフハ諸善兼（ケン）（カネテ）行スルカユヘニ雜心ト曰フ、定散心雜スルカユヘニ雜心ト曰フナリ。

正助釋
專修專心
雜修雜心
雜行異名

亦正助ニ就テ、專修アリ、雜修アリ。此ノ雜修ニ就テ、專心アリ雜心アリ。專修ニ就テ二種アリ、一ニハ唯佛名ヲ稱ス、二ニハ五專アリ。此ノ行業ニ就テ專心アリ雜心アリ。五專トイフハ、一ニハ專禮、二ニハ專讀、三ニハ專觀、四ニハ專名（稱）、五ニハ專讃嘆ナリ、コレヲ五ノ專修トナツク。專修、其ノ言ハヒトツニシテ、其ノコ丶ロ、コレ異ナリ。卽チ是レ定專修ナリ、復散專修ナリ。專心トイフハ、五正行ヲモハラニシテ、二心ナキカユヘニ專心ト曰フ。卽チ是レ定專心ナリ、復是レ散專心ナリ。雜修トイフハ、助正兼行スルカユヘニ雜修ト曰フ。雜心トイフハ、定散ノ心雜スルカユヘニ雜心ト曰フナリ。シルヘシ。

凡ソ淨土ノ一切諸行ニオイテ、綽和尙ハ萬行ト云ヒ、導和尙ハ雜行ト稱ス。感禪師ハ諸行ト云ヘリ。信和尙ハ感師ニ依レリ、空聖人ハ導和尙ニ依リタマフナリ。經家ニヨリテ師釋ヲヒラクニ、雜行ノ中ノ雜行雜心、雜行專心、專行雜心ナリ、亦正行ノ中ノ專修專心、專修雜心、雜修雜心ハ、此レミナ、邊地胎宮懈慢界ノ業因ナリ。カルカユヘニ極樂ニ生スト

（結示）

大觀三心小經一心一異

眞門之敎

眞門之行

眞門之信　廿願也

眞門之證

准知隱顯

小經顯說

△勵レイ反　ハケマス反

イヘトモ、三寶ヲミタテマツラス、佛心ノ光明、餘ノ雜業ノ行者ヲ照攝セサルナリ。假令ノ誓願、マコトニユヘアルカナ。假門ノ敎、忻慕(ネカイシタフ)ノ釋、是レイヨイヨアキラカナリ。

二經ノ三心、顯ノ義ニ依レハ異ナリ、彰(アラハス)ノ義ニ依レハ一ナリ。三心一異ノ義、コタヘオハリヌト。

又問。大本ト觀經ノ三心ト、小本ノ一心ト、一異イカンソヤ。答。イマ方便眞門ノ誓願ニ就テ、行アリ信アリ、亦眞實アリ方便アリ。願トイフハ卽チ植(シキ)(ウヘル)諸德本ノ願是レナリ。行トイフハ此ニ二種アリ。一ニハ善本、二ニハ德本ナリ。信トイフハ、卽チ至心囘向欲生ノ心是レナリ。機ニ就テ定アリ散アリ。往生トイフハ此レ難思往生是レナリ。佛トイフハ卽チ化身ナリ。土トイフハ卽チ疑城(ミヤコ)胎宮是レナリ。觀經ニ准知(シユン)(ナスラフ)スルニ、此ノ經ニ亦顯彰隱蜜ノ義アルヘシ。顯トイフハ、經家ハ、一切諸行ノ少善ヲ嫌貶(ケンペン)(キラフオトシム)シテ、善本德本ノ眞門ヲ開示(シメス)シ、自利ノ一心ヲハケマシテ、難思ノ往生ヲスヽム。是ヲモテ經ニハ多善根多功德多福德因緣トトキ、釋ニ

小經隱彰

執持釋

一心釋

無問自說經

列祖弘傳

三經大綱

（法事讃下廿左）

（法事讃下廿左）

ハ九品トモニ囘シテ不退ヲエヨトイヘリ。アルヒハ無過念佛往西方三念五念佛來迎ト云ヘリ。此レハ是レ此ノ經ノ顯ノ義ヲシメスナリ、此レ乃チ眞門ノ中ノ方便ナリ。彰トイフハ、眞實難信ノ法ヲアラハス。斯レ乃チ不可思議ノ願海ヲ光闡(ヒラク)シテ、无导ノ大信心海ニ歸セシメムトオホス。マコトニス丶メ(勸)、既テニ恒沙ノス丶メナレハ、信モ亦恒沙ノ信ナリ、カルカユヘニ甚難(ハナハタカタシ)ト言ヘルナリ。釋ニタヽチニ彌陀ノ弘誓ノオモレルニヨ(爲)テ、凡夫(ヲシテ)念スレハ卽チ生セシムルコトヲイタスト云ヘリ。斯レハ是レ隱彰ノ義ヲヒラクナリ。經ニ執持トノタマヘリ、亦一心トノタマヘリ。執ノ言ハ、心堅牢(ラウ)(カタクカタシ)ニシテ移轉(イ)(ウツリウツル)セサルコトヲアラハスナリ、持ノ言ハ不散不失ニナツクルナリ。一ノ言ハ无二ニナツクルノミコトナリ、心ノ言ハ眞實ニナツクルナリ。斯ノ經ハ、大乘修多羅ノ中ノ无問自說經ナリ。シカレハ、如來世ニ興出シタマフユヘハ、恒沙ノ諸佛證護(マモル)ノ正意、唯斯レニアルナリ。是ヲモテ、四依弘經ノ大士、三朝(テウ)浄土ノ宗師、眞宗念佛ヲ開キテ、濁世ノ邪僞(イツハル)ヲミチヒク。三經ノ大綱(カウ)(ツナ)、顯彰隱蜜ノ義アリトイ

信心最要

ヘトモ、信心ヲ彰シテ能入トス。カルカユヘニ經ノハシメニ如是ト稱ス。如是ノ義ハ則チ善ク信スル相ナリ。イマ三經ヲ按スルニ、ミナモテ金剛ノ眞心ヲ最要トセリ。眞心ハ卽チ是レ大信心ナリ。大信心ハ希有最勝眞妙淸淨ナリ。何ヲモテノユヘニ、大信心海ハハナハタモテイリカタシ、佛力ヨリ發起スルカユヘニ。眞實ノ樂邦(ハウ・クニ)(八)ハナハタモテ往キヤスシ、願力ニヨテ卽チ生スルカユヘナリ。イマ將サニ一心一異ノ義ヲ談セムトス、(籍)當ニ此ノコヽロナルヘシトナリ。三經一心ノ義コタヘオハリヌ。

〔眞門釋〕〔總明〕眞門行信

夫レ濁世ノ道俗、スミヤカニ圓修至德ノ眞門ニ入リテ、難思往生ヲネカフヘシ。眞門ノ方便ニ就テ、善本アリ德本アリ。復定專心アリ、復散專心アリ、復定散雜心アリ。

雜心釋

雜心トイフハ、大小凡聖、一切善惡、オノオノ助正間雜ノ心ヲモテ名號ヲ稱念ス。マコトニ、敎ハ頓ニシテ根ハ漸機ナリ、行ハ專ニシテ心ハ間雜ス、カルカユヘニ雜心ト曰フナリ。

專心釋

定散ノ專心ハ、罪福ヲ信スル心ヲモテ本願力ヲ願求ス、是ヲ自力ノ專心トナツクルナリ。

善本釋

△嘉 カ反 ヨシ反

善本トイフハ如來ノ嘉(カ・ヨシ)名ナリ。此ノ嘉名ハ、萬善圓備(ヒ・ソナハル、ツフサナリ)セリ、一切善法ノ本ナリ、カルカユヘニ善本ト曰フナリ。

德本釋

△備 ソナヘル ヒ反 ツフサニ反

德本トイフハ如來ノ德號ナリ。此ノ德號ハ、一聲稱念スルニ、至德成滿シ、衆禍(クワ・ワサワイ)ミナ轉ス、十方三世ノ德號ノ本ナリ、カルカユヘニ德本ト曰フナリ。

眞門興由

△故 モト反 コトサラニ反

△化 クエ反 メクム反

シカレハ則チ釋迦牟尼佛ハ、功德藏ヲ開演(エン)シテ、十方濁世ヲ觀化(メクム)シタマフ。阿彌陀如來ハ本ト果遂(ハタシトケム)ノチカヒヲ發シテ、諸有ノ群生海ヲ悲引シタマヘリ。

二十願名

此果遂之願者廿願也

ステニシテ悲願イマス、植(ウヱル)諸德本ノ願トナツク、復係(カク)念定生ノ願トナツク、復不果遂者ノ願トナツク、亦至心囘向ノ願トナツクヘキナリ。

〔引證〕(正引)(經說)二十願文

(大經上十四右)

是ヲモテ大經ノ願ニノタマハク。タトヒワレ佛ヲエタラムニ、十方ノ衆生、我カ名號ヲ聞キテ、念ヲ我カ國ニカケテ、モロモロノ德本ヲウヘテ、心ヲ至シ囘向シテ、我國ニ生セムトオモハム、果遂セスハ正覺ヲトラシト。

機情失

(大經下十九右)

又ノタマハク。此ノ諸智ニ於テ、疑惑シテ信セス、シカルニナホ罪福ヲ信シテ、善本ヲ修習シテ、其ノ國ニ生セムト願セム。此ノモロモロノ衆生、彼ノ宮殿ニ生セムト。

果遂益（大經下四左）

異譯二十願文（如來會上十二右）（平等覺經二ノ十九右）

付屬持名（觀經廿八右）

又ノタマハク。若シ人善本ナケレハ、此ノ經ヲキクコトヲエス、清淨ニ戒ヲタモテルモノ、乃シ正法ヲキクコトヲエムト巳上。

無量壽如來會ニノタマハク。若シワレ成佛セムニ、无量國ノナカノ所有ノ衆生、我カ名ヲ説カムヲ聞キテ、モテオノレカ善根トシテ、極樂ニ回向セム、若シムマレスハ菩提ヲトラシト巳上。

平等覺經ニノタマハク。是ノ功德アルニアラサル人ハ、是ノ經ノ名ヲキクコトヲエス、唯清淨ニ戒ヲタモテルモノ、乃シ還リテ斯ノ正法ヲキク。悪ト憍慢ト蔽ト懈怠トハ、モテ此ノ法ヲ信スルコトカタシ。宿世ノ時ニ佛ヲ見タテマツレルモノ、タノミテ(樂)世尊ノ教ヲ聽聞セム。人ノ命希レニウヘシ。佛ハ世ニマシマセトモハナハタマウアヒカタシ、信慧有(リ)テ致ルヘカラス、若シ聞見セハ精進シテモトメヨト巳上。

觀經ニノタマハク。佛阿難ニツケタマハク、ナンチヨク、是ノ語ヲタモテ、是ノ語ヲタモテトイフハ、卽チ是レ无量壽佛ノ名ヲタモテトナリト巳上。

念佛諸善廢立（小經四左）

（師釋）（定善義廿七右）

念佛廣讚（大經上十三左）

念佛得生（小經四左、五右）

「一日七日」ヨリ「アラハシオハリヌ」マテハ、ノ文、坂東本ニナシ。（觀經正宗分）

諸佛勸讚（散善義四左）（小經五右）

阿彌陀經ニノタマハク。少善根福德ノ因緣ヲモテ、彼ノ國ニ生スルコトヲウヘカラス。阿彌陀佛ヲ説クヲキヽテ、名號ヲ執持セヨ。巳上

光明寺和尙ノ云ク。自餘ノ衆行是レ善トナツクトイヘトモ、若シ念佛ニタクラフレハ、マタク(全)比校ニアラサルナリ。是ノ故ニ諸經ノ中ニ、處處ニヒロク念佛ノ功能ヲ讚(メ)タリ。无量壽經ノ四十八願ノ中ノコトキ、唯彌陀ノ名號ヲ專念シテ生スルコトヲ得トアカス。又彌陀經ノ中ノコトシ。（キハ一日七日彌陀ノ名號ヲ專心シテ生スルコトヲウ。マタ十方恒沙ノ諸佛證誠ムナシカラサルナリ。マタコノ經ノ定散ノ文ノ中ニハ、タヽ名號ヲ專念シテ生スルコトヲウト標ス。コノ例ヒトツニアラス。ヒロク念佛三昧ヲアラハシオハリヌ。）

又云ク。又決定シテ、彌陀經ノ中ニ、十方恒沙ノ諸佛、一切凡夫ヲ證勸シテ、決定シテ生スルコトヲ得ト深信セヨ。乃至諸佛ハ言行相ヒ違失シタマハス。タトヒ釋迦、指テ一切凡夫ヲ勸メテ、此ノ一身ヲ盡シテ、專念專修シテ、捨命已後サタメテ彼ノ國ニ生ルヽモノハ、卽チ十方ノ

「凡夫ヲス、メテ「悉ヨリ」マデノ括弧内ノ文字ハ坂東本ニナシ。

（小經四左）

諸佛證誠

（小經五右）

諸佛、悉クミナオナシク讚メ、オナシク勸メ、オナシク證シタマフ。何ヲモテノユヘニ、同體大悲ノユヘニ。一佛ノ所化ハ即チ是レ一切佛ノ化ナリ、一切佛ノ化ハ即チ是レ一佛ノ所化ナリ。即チ彌陀經ノ中ニトカク。乃至又一切ノ（凡夫ヲス、メテ、一日七日一心ニシテ、彌陀ノ名號ヲ專念スレハ、サタメテ、往生ヲウト。ツキシモノ文ニノタマハク。十方ニオノ〳〵、恒河沙等ノ諸佛マシ〳〵テ、オナシク釋迦ヲホメタマハク、ヨク五濁惡時、惡世界、惡衆生）惡煩惱、惡邪无信ノ盛ナルトキニオイテ、彌陀ノ名號ヲ指讚シテ、衆生ヲ勸勵シテ稱念セシムレハ、カナラス往生ヲウト。即チ其ノ證ナリ。又十方佛等、衆生ノ釋迦一佛ノ所説ヲ信セサラムコトヲオソレテ（恐畏）、即チ共ニ、同心同時ニ各舌相ヲイタシテ、アマネク三千世界ニオホフテ、誠實ノ言ヲ説キタマハク。ナンタチ衆生、ミナ是ノ釋迦ノ所説、所讚、所證ヲ信スヘシ。一切凡夫、罪福ノ多少、時節ノ久近ヲ問ハス、但能ク上ミ百年ヲ盡シ、シモ一日七日ニイタルマテ、一心ニ彌陀ノ名號ヲ專念スレハ、サタメテ往生ヲ得ルコト、カナラスウ

（散善義廿五左）

稱名要益

（散善義廿一左）

專稱佛名

（法事讚下十三右）

念佛選說

（法事讚下廿四左）

タカヒナキナリ。是ノ故ニ一佛ノ所説(ヲ)ハ、一切佛オナシク、其ノ事ヲ證成（マヽ）シタマフナリ。此ヲ人ニ就テ信ヲ立ツトナツクルナリ。抄要

又云ク。シカルニ佛願ノ意ヲノソムニ、唯正念ヲ勸メ、ミナヲ稱セシム。往生ノ義、疾（トキ）キコトハ、雜散ノ業ニハオナシカラス。此ノ經オヨヒ、諸部（フ）ノ中ニ、處處ニヒロク嘆スルカコトキハ、勸メテミナヲ稱セシムルヲ、將ニ要益トセムトスルナリ。シルヘシト。

又云ク。佛告阿難汝好持是語ヨリ已下ハ、正シク彌陀ノ名號ヲ付囑シテ、遐（カ）（ハルカニ）代ニ流通スルコトヲ明ス。上ヨリコノカタ、定散兩門ノ益ヲ説クトイヘトモ、佛ノ本願ノコ、ロヲノソマムニハ、衆生ヲシテ一向ニモハラ、彌陀佛ノミナヲ稱スルニ在リト。

又云ク。極樂ハ无爲涅槃ノ界ナリ、隨緣ノ雜善オソラクハ生シカタシ、カルカユヘニ、如來、要法ヲ選ヒテ、オシエテ彌陀ヲ念セシメテ、モハラニシテ復モハラナラシメタマヘリト。

又云ク。劫ツキムトホツスルトキ五濁サカリナリ、衆生邪見ニシテハ

念佛難信

念佛最勝　（法事讃下卷）

（般舟讃三卷）

眞門勸勵　△覓モトム反　△比日コノコロ

ナハタ信シカタシ、モハラニシテモハラナレト指授シテ、西路ニ歸セシメシニ、他ノタメニ破壞セラレテ、還リテモトノコトシ。曠劫ヨリコノカタ、常ニカクノコトシ、是レ今生ニ始メテミツカラサトルニアラス、正シクヨキ（好）強縁ニ遇ハサルニ由テ、輪囘シテ得度シカタカラシムルコトヲ致スト。

又云ク種種ノ法門ミナ解脱スレトモ、念佛シテ西方ニ往クニスキタルハナシ。上一形ヲツクシ、十念三念五念ニイタルマテ、佛來迎シタマフ。タヽチニ彌陀ノ弘誓カサナレルヲモテ（篇）、凡夫念スレハ、即チ生セシムルコトヲイタスト。

又云ク。一切（ノ）如來、方便ヲマウケタマフコト亦今日ノ釋迦尊ニオナシ、機ニ隨ヒテ法ヲトクニ、ミナ益ヲカウフル。オノ〳〵悟解ヲエテ眞門ニ入レト。乃至佛敎多門ニシテ八萬四ナリ、正シク衆生ノ機不同ナルカタメナリ、安身常住ノトコロヲ△覓メムトオモハヽ、マツ要行ヲモトメテ眞門ニイレト。

專雜得失　（禮讃五卷）　智解師禮懺儀文之光明寺禮讃也

餘行少善　（小經義疏廿九右）

念佛多善　△遲チ反オソシ反

襄陽石經文　△冥符ミヤウフカナイカナフ　（石刻小經）

又云ク。爾コノコロ、ミツカラ諸方ノ道俗ヲ見聞スルニ、解行不同ニシテ專修ニ異アリ。但、コヽロヲモハラニシテ作サシムレハ、十ハ即チ十ナカラ生ス。雜ヲ修スルハ至心ナラサレハ、千カ中ニヒトリモナシト已上。

元照律師ノ彌陀經ノ義疏ニ云ク。如來、持名ノ功スクレタルコトヲアカサムト欲ス。マツ餘善ヲ貶シテ少善根トス、イハユル布施、持戒、立寺、造像、禮誦、座禪、懺念苦行、一切福業、モシ正信ナケレハ、囘向願求スルニ、ミナ少善トス。往生ノ因ニアラス。モシ此ノ經ニ依テ名號ヲ執持セハ、決定シテ往生セム。即チ知リヌ、稱名ハ是レ多善根多福德ナリト。ムカシ此ノ△解ヲ作シ、人ナホ△遲疑シキ。チカク襄陽ノ石碑ノ經ノ本文ヲ得テ、理△冥符セリ、始メテ深信ヲイタク。彼レニ云ク。善男子善女人、阿彌陀佛ヲ説クヲ聞キテ、一心ニシテミタレス、名號ヲ專稱セヨ。稱名ヲモテノユヘニ、諸罪消滅ス。即チ是レ多功德、多善根、多福因縁ナリト已上。

執持釋（小經疏卅三左）

弘願難信（別引）（經說）（大經下卅三左）

善知識梵行因（北本涅槃經卅六「盈六ノ七十二左」）（南本涅槃經卅二「盈八ノ十一左」）

邪見惡行因

孤山ノ疏ニ云ク。執持名號トイフハ、執ハ謂ク執受ナリ、持ハ謂ク住持ナリ。信力ノユヘニ執受、心ニ在リ、念力ノユヘニ住持シテ忘レスト巳上。

大本ニノタマハク。如來ノ興世、マウアヒカタク、ミタテマツリカタシ。諸佛ノ經道、エカタク、キ、カタシ。菩薩ノ勝法諸波羅蜜、キクコトヲウルコト亦カタシ。善知識ニ遇ヒ、法ヲキ、能ク行スルコト、此亦難シトス。若シ斯ノ經ヲ聞キテ信樂受持スルコト、難ノ中ノ難、此レニスキテ難ハナケム。是ノユヘニ、ワカ法、カクノコトクナシキ、カクノコトク說ク、カクノコトクオシフ。當ニ信順シテ、法ノコトク修行スヘシト巳上。

涅槃經ニノタマハク。經ノ中ニトクカコトシ、一切梵行ノ因ハ善知識ナリ、一切梵行ノ因无量ナリトイヘトモ、善知識ヲトケハ則チステニ攝盡シヌ。我カ所說ノコトシ、一切惡行ハ邪見ナリ、一切惡行ノ因、无量ナリトイヘトモ、若シ邪見ヲ說ケハ則チ己ニ攝盡シヌ。アルヒハトカク、

信心菩提因（北本涅槃經卅六「盈六ノ七十三左」）（南本涅槃經卅二「盈八ノ十二左」）

信不具足

信求對　△推スイ反　モトメ反

聞思對

人法對

正對對

信不具足過失

阿耨多羅三藐三菩提ハ信心ヲ因トス、是レ菩提ノ因復タ无量ナリトイヘトモ、若シ信心ヲトケハ則チ己ニ攝盡シヌト。

又ノタマハク。善男子、信ニ二種アリ、一ニハ信、二ニハ求ナリ。カクノコトキノ人、復信アリトイヘトモ、推求ニアタハス、是ノ故ニナツケテ信不具足トス。信ニ復二種アリ、一ニハ聞ヨリ生ス、二ニハ思ヨリ生ス。是ノ人ノ信心、聞ヨリシテ生シテ、思ヨリ生セス、コノユヘニナツケテ信不具足トス。復二種アリ、一ニハ道アルコトヲ信ス、二ニハ得者ヲ信ス。是ノ人ノ信心、唯道アルコトヲ信シテ、スヘテ得道ノ人アルコトヲ信セス、是レヲナツケテ信不具足トス。復二種アリ、一ニハ信正、二ニハ信邪ナリ。因果アリ、佛法僧アリト言ハム、是ヲ信正トナツク。因果三寶ノ性異ナルコト无シト言ヒテ、モロモロノ邪語富蘭那等ヲ信スル、コレヲ信邪トナツク。是ノ人佛法僧寶ヲ信ストイヘトモ、三寶同一性相ヲ信セス。因果ヲ信ストイヘトモ、得者ヲ信セス。是ノユヘニナツケテ信不具足トス。是ノ人不具足信ヲ成就スト。乃至。善男子、四ノ善

善因惡果

二種涅槃

常ノ字阪東本ニナシ

△禁キム反　イマシム反

△習シウ反　ナラフ反

事アリ、惡果ヲ獲得セム。ナンラオカ四トスル。一ニハ勝他ノタメノユヘニ、經典ヲ讀誦ス、二ニハ利養ノタメノユヘニ、禁戒ヲ受持セム、三ニハ他屬ノタメノユヘニ、シカウシテ布施ヲ行セム、四ニハ非想非非想處ノタメノユヘニ、繫念思惟セム。是ノ四ノ善事、惡果報ヲエム。モシ人カクノコトキノ四事ヲ修習セム、是ヲ沒シテ、沒シオハリテ、還リテ出ツ、出テオハリテ還リテ沒ストナツク。ナンカユヘソ沒トナツクル、三有ヲ樂フカユヘニ。ナンカユヘソ出トナツクル、明ヲ見ルヲモテノユヘニ。明ハ卽チ是レ戒施定ヲ聞クナリ。ナニヲモテノユヘニ還リテ出沒スルヤ、邪見ヲ增長シ、憍慢ヲ生スルカユヘニ。是ノ故ニ我レ經ノ中ニ於テ偈ヲトカク。若シ衆生アリテ、諸有ヲネカフテ、有ノタメニ善惡ノ業ヲ造作スル、是ノ人ハ涅槃道ヲ迷失スルナリ、是レヲ蹔出還復沒トナツク。黑闇生死海ヲ行シテ、解脫ヲ得トイヘトモ、煩惱ヲ雜スルハ、是ノ人還リテ惡果報ヲウク、是レヲ蹔出還復沒トナツクト。如來ニ則チ二種ノ涅槃アリ、一ニハ有爲、二ニハ无爲ナリ。有爲涅槃ハ无常ナリ、

戒不具足

聞不具足

「ユヘニ」ノ三字坂東本ニナシ。

善知識德相

三種善語

△益ヤク反　マス反

△讀トク反　コヽロヘヨムナリ

△誦シユ反　ウカヘヨムナリ反

（北本涅槃經三十五「盈六ノ三十左」）

（南本涅槃經三十三「盈八ノ三十左」）

△呵カ反　セメ反

△責シヤク反　セム反

樂我淨ハ无爲涅槃ナリ。常人アリテ深ク是ノ二種ノ戒、倶ニ因果アリト信セム、コノユヘニナツケテ戒トス。戒不具足、是ノ人ハ信戒ノ二事ヲ具セス、所樂多聞ニシテ亦不具足ナリ。イカナルオカ、ナツケテ聞不具足トスル。如來ノ所說ハ十二部經ナリ、唯六部ヲ信シテ未タ六部ヲ信セス、是ノ故ニナツケテ聞不具足トス。復、是ノ六部ノ經ヲ受持ストイヘトモ、讀誦ニアタハスシテ、他ノタメニ解說スルハ、利益スルトコロナケム、是ノ故ニナツケテ聞不具足トス。又復コノ六部ノ經ヲ受ケオハリテ、論議ノタメノユヘニ、勝他ノタメノユヘニ、利養ノタメノユヘニ、諸有ノタメノユヘニ、持讀誦說セム、是ノユヘニナツケテ聞不具足トスト略抄。

又ノタマハク。善男子、第一眞實ノ善知識ハ、イハユル菩薩(ト)諸佛ナリ。世尊ナニヲモテノユヘニ。常ニ三種ノ善調御ヲモテノユヘナリ。ナンラオカ三トスル。一ニハ畢竟軟語、二ニハ畢竟呵責、三ニハ軟語呵責ナリ。是ノ義ヲモテノユヘニ、菩薩(ト)諸佛ハ即チ是レ眞實ノ善知

應病與藥

能度苦海

△軟 ナン反 ヤワラカナリ反

△授 シュ反 サツク反

識ナリ。復、次ニ善男子、佛オヨヒ菩薩ヲ大醫トスルカユヘニ、善知識トナツク。ナニヲモテノユヘニ、病ヲシリテクスリヲシル、病ニ應シテ藥ヲサツクルカユヘニ。タトヘハ良醫ノ善キ八種ノ術ノコトシ。先ツ病相ヲ觀ス、相ニ三種アリ。ナンラヲカ三トスル、謂ク風熱水ナリ。風病ノ人ニハ之ニ蘇油ヲサツク、熱病ノ人ニハ之ニ石蜜ヲサツク、水病ノ人ニハ之ニ薑湯ヲサツク。病根ヲシルヲモテ、藥ヲサツクルニ差スルコトヲウ、カルカユヘニ良醫トナツク。佛オヨヒ菩薩(モ)亦復カクノコトシ。モロモロノ凡夫ノ病ヲシルニ三種アリ。一ニハ貪欲、二ニハ瞋恚、三ニハ愚癡ナリ。貪欲ノ病ニハオシヘテ骨相ヲ觀セシム、瞋恚ノ病ニハ慈悲相ヲ觀セシム、愚癡ノ病ニハ十二縁相ヲ觀セシム。是ノ義ヲモテノユヘニ、諸佛菩薩ヲ善知識トナツク。善男子、タトヘハ船師ノ善ク人ヲ度ス(ル)カユヘニ大船師トナツクルカコトシ。諸佛菩薩モマタ復カクノコトシ、モロモロノ衆生ヲシテ生死ノ大海ヲ度ス。是ノ義ヲモテノユヘニ善知識トナツクト抄出。

善知識恩徳

(師釋)知恩報徳

彌陀恩

釋迦恩

(唐譯華厳經十七 天四ノ八十左)

△灑 シャ反 ソヽク反

(唐譯華厳經六十 天三ノ九十二右)

(般舟讃九右)

△忤 ク反 タカフ反

華厳經ニノタマハク、ナンチ善知識ヲ念スルニ、ワレヲ生スル(コト)父母ノコトシ、ワレヲヤシナフ(コト)乳母ノコトシ、菩提分ヲ增長ス。衆疾ヲ醫療スルカコトシ、天ノ甘露ヲ灑クカコトシ、日ノ正道ヲ示メスカコトシ、月ノ淨輪ヲ轉スルカコトシ。

又ノタマハク。如來大慈悲、世間ニ出現シテ、普クモロモロノ衆生ノタメニ、无上法輪ヲ轉シタマフ。如來无數劫ニ、勤苦セシコトハ衆生ノタメナリ、イカンカモロモロノ世間、能ク大師ノ恩ヲ報セムト。已上

光明寺ノ和尚ノ云ク。唯ウラムラクハ、衆生ノウタカフマシキヲウタカフコトヲ。淨土對面シテ相ヒタカハス(忤ク)、彌陀ノ攝ト不攝トヲ論スルコトナカレ、コヽロ專心ニシテ回スルト回セサルニ在リ。アルヒハイハク。ケフヨリ佛果ニイタルマテ、長劫ニ佛ヲホメテ、慈恩ヲ報セム、彌陀ノ弘誓ノチカラヲカウフラスハ、何ノトキ何ノ劫ニカ娑婆ヲイテム。イカンシテカ今日寶國ニイタルコトヲ期セム、マコトニ是レ娑婆本師ノチカラナリ、若シ本師知識ノ勸メニアラスハ、彌陀ノ淨土イカンシテカ入ラ

(禮讃十右)

ム、淨土ニ生スルコトヲ得テ、慈恩ヲ報セヨト。

化他報恩

弘字智昇法師懺儀文也

マタ云ク。佛世ハナハタマウアヒカタシ、人、信慧アルコトカタシ、タマ〳〵希有ノ法ヲキクコト、此復モトモカタシトス。自ラ信シ人ヲオシヘテ信スルコト、難ノ中ニ、ウタ、マタカタシ、大慈弘クアマネク化スルハ、マコトニ佛恩ヲ報スルニ成ルト。

(法事讃下廿右)

又云ク。イサイナム、他郷ニハト、マルヘカラス、佛ニシタカフテ本家ニ歸セヨ、本國ニ還リヌレハ、一切ノ行願自然ニ成ス。悲喜マシワリナカル、フカクミツカラハカルニ、釋迦佛ノ開悟ニ因ラスハ、彌陀ノ名願何ノ時ニカ聞カム、佛ノ慈恩ヲニナフテモ、マコトニ報シカタシト。

(法事讃下廿二右)

又云ク。十方六道、同シク此レ輪回シテキワナシ、循循トシテ愛波ニシツミ、シカウシテ苦海ニシツム。佛道人身得カタクシテ今已ニエタリ、淨土キ、カタクシテ今已ニキケリ、信心發シカタクシテ今已ニオコセリト已上。

【結示】

(禮讃三左)

マコトニシリヌ、專修ニシテ雜心ナルモノハ、大慶喜心ヲ獲ス。カルカユヘニ宗師ハ、彼ノ佛恩ヲ念報スルコトナシ、業行ヲ作ストイヘトモ、心ニ輕慢ヲ生ス、常ニ名利ト相應スルカユヘニ、人我オノツカラ覆ホテ、同行善知識ニ親近セサルカユヘニ、コノミテ雜縁ニチカツキテ、往生ノ正行ヲ自鄣鄣他スルカユヘニト云ヘリ。

眞門四失

悲嘆述懐

カナシキカナ、垢鄣ノ凡愚、无際ヨリコノカタ、助正間雜シ、定散心雜スルカユヘニ、出離其ノ期ナシ。ミツカラ流轉輪回ヲハカルニ、微塵劫ヲ越過スレトモ、佛願力ニ歸シカタク、大信海ニ入リカタシ。マコトニ傷嗟スヘシ、フカク悲歎スヘシ。

△度 タク反 ハカル反 ワタル反 ト反

△傷 シヤウ反 イタム反 ナケキ反

△嗟 サス反 ナケク反

自力念佛失

凡ソ大小聖人、一切善人、本ノ願嘉號ヲモテ、オノレカ善根トスルカユヘニ、信ヲ生スルコトアタハス、佛智ヲサトラス、彼ノ因ヲ建立セルコトヲ了知スルコト能ハサルカユヘニ、報土ニ入ルコトナキナリ。

三願轉入

△愚 ク反 オロカナリ反

△禿 トク反 カフロ反 ナルモノナリ反

△特 マコト反

是ヲモテ、愚禿釋ノ鸞、論主ノ解義ヲアフキ、宗師ノ勸化ニ依テ、ヒサシク萬行諸善ノ假門ヲ出テ、永ク雙樹林下ノ往生ヲハナル、善本德本ノ眞門ニ回入シテ、ヒトヘニ難思往生ノ心ヲオコシキ。然ルニ今マコトニ、方便ノ眞門ヲ出テ、選擇ノ願海ニ轉入セリ、スミヤカニ難思往生

知恩造書

△遂スイ反 トケムト反
△良マコトニ反
△謝シヤ反 ムクウ反
△撫ヒロフテ反

ノ心ヲハナレテ、難思議往生ヲトケントオモフ。果遂ノ誓、マコトニ（良）ユヘアルカナ。コヽニヒサシク、願海ニ入テフカク、佛恩ヲ知レリ。至德ヲ報謝ノタメニ、眞宗ノ簡要ヲヒロフテ、恒常ニ不可思議ノ德海ヲ稱念ス。イヨイヨ斯ヲ喜愛シ、コトニ斯ヲ頂戴スルナリ。

〔結釋〕聖淨通塞

△全セム反 マタク反
△乖ソムク反 クエ反

マコトニ（信）シリヌ、聖道ノ諸教ハ、在世正法ノタメニシテ、マタク像末法滅ノ時機ニアラス、已ニ、時ヲ失シ機ニソムケルナリ。淨土眞宗ハ、在世、正法、像末、法滅、濁惡ノ群萠、ヒトシク悲引シタマフヲヤ。是ヲモテ、經家ニヨリテ師釋ヲヒラキタルニ、

說人差別

說人ノ差別ヲ辨セハ、凡ソ諸經ノ起說、五種ニスキス。一ニハ佛說、二ニハ聖弟子說、三ニハ天仙說、四ニハ鬼神說、五ニハ變化說ナリ。シカレハ、四種ノ所說ハ信用ニタラス、斯ノ三經ハ則チ大聖ノ自說ナリ。

四依釋

（大論九「往一ノ六十二右」）

大論ニ四依ヲ釋シテ云ク。涅槃ニ入リナムトセシトキ、モロモロノ比丘ニ語リタマハク。今日ヨリ、法ニ依テ人ニ依ラサルヘシ、義ニ依テ語ニヨラサルヘシ、智ニ依テ識ニヨラサルヘシ、了義經ニ依テ不了義ニ

△看ミル反 カン反
△視シ反 ミル反
△識シキ反 サトル反
△籌チウ反 ハカライ反
△書シヨ反 フミ反

ヨラサルヘシト。法ニヨルトイフハ、法ニ十二部アリ、此ノ法ニシタカフヘシ、人ニシタカフヘカラス。義ニヨルトイフハ、義ノ中ニ好惡、罪福、虛實ヲアラソフコトナシ、カルカユヘニ、語ハ已ニ義ヲエタリ、義ハ語ニアラサルナリ。人、指ヲモテ月ヲオシフ、モテ、我ヲ示教ス、指ヲ看視シテシカウシテ月ヲミサルカコトシ。人カタリテ言ハム、ワレ指ヲモテ月ヲオシフ、汝ヲシテ之ヲ知ラシム、汝ナンソ指ヲミテシカウシテ月ヲミサルヤト。此レ亦カクノコトシ、語ハ義ノ指トス 語ハ義ニアラサルナリ。此ヲモテノユヘニ、語ニヨルヘカラス。智ニヨルトイフハ、智能ク善惡ヲ籌量シ分別ス、識ハ常ニ樂ヲモトム、正要ニ入ラス、是ノユヘニ不應依識ト言ヘリ。了義經ニ依ルトイフハ、一切智人イマス、佛第一ナリ、一切諸經書ノ中ニ、佛法第一ナリ、一切衆ノ中ニ、比丘僧第一ナリ。无佛世ノ衆生ヲ、佛、此ヲ重罪トシタマヘリ、見佛ノ善根ヲウヘサル人ナリト已上。

シカレハ、末代ノ道俗、善ク四依ヲ知リテ法ヲ修スヘキナリト。

【因論】
【聖淨眞假】（安樂集下九右）
【二門通塞】
聖道難證（瓔珞經上「列一ノ十三右」）
聖道時機不相應（安樂集上二左）
貫木求火譬（坐禪三昧經下「昃六ノ廿二」）

シカルニ正眞ノ敎意ニヨ（リ）テ古德ノ傳説ヲヒラク、聖道淨土ノ眞假ヲ顯開シテ、邪僞異執ノ外敎ヲ敎誡ス、如來涅槃ノ時代ヲ勘決シテ、正像末法ノ旨際ヲ開示ス。

是ヲモテ玄忠寺ノ綽和尙ノ云ク。シカルニ修道ノ身、相續シテ絕ヘスシテ、一萬劫ヲヘテ、始テ不退ノクラキヲ證ス。當今ノ凡夫ハ、現ニ、信想輕毛トナツク、亦假名ト曰ヘリ、亦不定聚トナツク、亦外ノ凡夫トナツク、末タ火宅ヲ出テス。ナニヲモテ知ルコトヲ得ムト。菩薩瓔珞經ニ據テ、ツフサニ入道行位ヲ辨スルニ、法爾ナルカユヘニ、難行道トナツクト。

又云ク。敎興ノ所由ヲ明シテ、時ニ約シ、機ニカフラシメテ、淨土ニ歡歸スルコトアラハ、若シ機ト敎ト時ト乖ケハ、修シカタク入リカタシ。正法念經ニノタマハク（云）。行者、一心ニ道ヲモトメムトキ、常ニ當ニ時ト方便トヲ觀察スヘシ。若シ時ヲエサレハ方便ナシ、是ヲナツケテ失トス、利トナツケス。何トナラハ、ウルホエル木ヲキリテ、モテ火（攢）

折薪求求譬
五箇五百年説（大集經五十五「玄四ノ五十四右」）
△隱カクレ反
△滯タイシテ反　トヾマル反
△訟シウ反　ウタウ反
淨土時機相應
衆經住滅（安樂集下十六右）

ヲモトメムニ、火得ヘカラス、時ニアラサルカユヘニ。若シ乾タル薪ヲオリテ、モテ水ヲモトムルニ、水ウヘカラス、智ナキカコトキノユヘニト。

大集ノ月藏經ニノタマハク（云）。佛滅度ノ後ノ第一ノ五百年ニハ、我カモロモロノ弟子、慧ヲマナフコト堅固ナルコトヲエム。第二ノ五百年ニハ、定ヲマナフコト堅固ナルコトヲエム。第三ノ五百年ニハ、多聞讀誦ヲマナフコト堅固ナルコトヲエム。第四ノ五百年ニハ、塔寺ヲ造立シ、福ヲ修シ、懺悔スルコト堅固ナルコトヲエム。第五ノ五百年ニハ、白法△隱△滯シテ、オホク諍△訟アラム、スコシキ善法アリテ堅固ナルコトヲエム。今ノ時ノ衆生ヲ計ルニ、卽チ佛、世ヲサリタマヒテノチノ第四ノ五百年ニアタレリ、正シク是レ懺悔シ、福ヲ修シ、佛ノ名號ヲ稱スヘキ時ノモノナリ。一念、阿彌陀佛ヲ稱スルニ、卽チ能ク八十億劫ノ生死ノ罪ヲ除却セム。一念ステニシカナリ、イハムヤ常念ヲ修スルハ、卽チ是レ恒ニ懺悔スル人ナリ。

又云ク。經ノ住滅ヲ辨セハ、謂ク、釋迦牟尼佛一代、正法五百年、像

唯一通路 （安樂集上卅八右）（大集經五十五「玄四ノ五十二右」）

三時開遮 年時勘決 △勘 カムカフル反

元仁者 後堀川院 諱茂仁 聖代也

二王化風

法一千年、末法一萬年ニハ、衆生減シ、盡キ諸經コトコトク滅セム。如來、痛燒ノ衆生ヲ悲哀シテ、コトニ此ノ經ヲトヽメテ止住セムコト百年ナラムト。

又云ク。大集經ニノタマハク(云)。我カ末法ノ時ノ中ノ億億ノ衆生、行ヲオコシ道ヲ修セムニ、イマタ一人モ得ルモノアラシト。當今末法ニシテ是レ五濁惡世ナリ、唯淨土ノ一門アリテ通入スヘキ路ナリト。已上 シカレハ、穢惡濁世ノ群生、末代ノ旨際ヲシラス、僧尼ノ威儀ヲソシル。今ノ時ノ道俗已レカ分ヲ思量セヨ。

三時教ヲ按スレハ、如來般涅槃ノ時代ヲ勘フルニ、周ノ第五ノ主穆王五十一年壬申ニ當レリ。其ノ壬申ヨリ、我カ元仁元年甲申ニイタルマテ、二千一百八十三歳ナリ。又賢劫經、仁王經、涅槃等ノ説ニヨルニ、巳ニモテ、末法ニイリテ六百八十三歳ナリ。

末法燈明記最澄製作ヲ披閲スルニ、曰ク。夫レ一如ニ範衞シテ、モテ化ヲ流スモノハ、法王、四海ニ光宅シテ、モテ風ニ乘スルモノハ仁王ナリ、シ

眞俗相資 （末法燈明記一右） △牙 タカヒニ反 △違 タカヒ反 △遑 イトマ反

王法嚴制

時機差別 △減 ケン反 オトロフ反 △整 タヽ、サム反 シヤウ反

三時分際 （上生經疏上十五右） △惟 ナスラウ反 （北本涅槃經六「盈五ノ九十二右」）

カレハ則チ、仁王法王、タカヒニアラワシテ、物ヲ開シ、眞諦俗諦タカヒニ因リテ教ヲヒロム。コノユヘニ玄籍宇ノ内ニミチ、嘉猷天下ニミテリ。コヽニ愚僧等、率シテ天網ニイリ、フシテ嚴科ヲアフク、イマタ寧處ニイトマアラス。シカルニ法ニ三時アリ、人亦三品ナリ。化制ノムネ、時ニヨリテ興讃ス、毀讃ノ文、人ニシタカ(ヒ)テ取捨ス。夫レ三石ノ運、減衰オナシカラス、後五ノ機、慧悟又異ナリ。アニ一途ニ據テスクハムヤ、一理ニ就テ整ムヤ。カルカユヘニ正像末ノ旨際ヲツハヒラカニシテ、コヽロミニ破持僧ノ事ヲアラハサム。中ニオイテ三アリ。初ニハ正像末ヲ決ス、次ニ破持僧ノ事ヲサタム、後ニ教ヲアケテ比例ス。

初ニ正像末ヲ決スルニ、諸説ヲ出タスコトオナシカラス、シハラク一説ヲ述セム。大乘基ニ賢劫經ヲ引テ言ハク。佛涅槃ノ後、正法五百年、像法一千年ナラム、コノ千五百年ノ後、釋迦ノ法滅盡セムト。末法ヲ言ハス。餘ノ所説ニナスラフルニ、尼、八敬ニシタカハスシテ、懈怠ナルカユヘニ、法、更増セス。カルカユヘニ彼ニヨラス。又涅槃經ニ、末法

佛滅後行相變遷

ノ中ニ於テ十二萬ノ大菩薩衆マシ〳〵テ法ヲタモチテ滅セスト。此ハ上位ニ據ルカユヘニ亦オナシカラス。（南本涅槃經十六「盈ノ九十二左」）問。若シシカラハ千五百年ノ内ノ行事イカンソヤ。答。大術經ニ依ルニ、佛涅槃ノ後ノハシメノ五百年ニハ、大迦葉等ノ七賢聖僧、次第ニ正法ヲタモチテ滅セス。五百年ノ後、正法滅盡セムト。六百年ニ至リテ後、九十五種ノ外道キオヒオコラム。馬鳴世ニ出テ、モロモロノ外道ヲ伏セム。七百年ノ中ニ、龍樹世ニ出テ、邪見ノハタホコヲクタカム。八百年ニ於テ、比丘縱逸ニシテ、僅ニ一二、道果ヲ得ルモノアラム。九百年ニ至リテ、奴ヲ比丘トシ、婢ヲ尼トセム。一千年ノ中ニ、不淨觀ヲヒラカム、瞋恚シテ欲セシ。千一百年ニ、僧尼嫁娶セム、僧毗尼ヲ毀謗セム。千二百年ニ、諸僧尼等、トモニ子息有ラム。千三百年ニ、袈裟變シテシロカラム。千四百年ニ、四部ノ弟子、ミナ獵師ノコトシ、三寶物ヲウラム。爰ニ曰ク。千五百年ニ、拘睒彌國ニ二ノ僧アリテ、タカヒニ是非ヲ起シテ、遂ニ殺害セム。仍テ敎法、龍宮ニオサマルナリ。（大術經下「盈十ノ三十三左」）△僅ヲツカニ反　涅槃ノ十八、オヨヒ仁王等ニ復此ノ文アリ。（仁王經下「閏七ノ九左」）此等

五箇五百年說

ノ經文ニ準スルニ、千五百年ノ後、戒定慧アルコトナキナリ。△準シユン反　ナスラウ反　カルカユヘニ大集經ノ五十一ニノタマハク。我カ滅度ノ後、初ノ五百年ニハ、諸比丘等、我カ正法ニ於テ解脫堅固ナラム。ハシメニ聖果ヲウルヲ、ナツケテ解脫トス。次ノ五百年ニハ、禪定堅固ナラム。次ノ五百年ニハ、多聞堅固ナラム。次ノ五百年ニハ、造寺堅固ナラム。後ノ五百年ニハ、鬪諍堅固ナラム、白法隱沒セムト云云。（大集經五十五「玄四ノ五十四右」）此ノコヽロ、初ノ三分ノ五百年ハ、次テノコトク戒定慧ノ三法堅固ニ住スルコトヲ得ム。卽チ上ニヒクトコロノ正法五百年、像法一千ノ二時是ナリ。造寺已後ハ、ナラヒニ是末法ナリ。カルカユヘニ基ノ般若會ノ釋ニ云ク。正法五百年、像法一千年、此ノ千五百年ノ後ノ正法滅盡セムト。カルカユヘニシリヌ、已後ハ是レ末法ニ屬ス。

佛滅年時

問。若シシカラハ、今ノ世ハ正シク何ノ時ニカアタレルヤ。答。滅後ノ年代、多說アリトイヘトモ、シハラク兩說ヲ擧ク。

周異記說

一ニハ法上師等、周異ノ說ニ依テ言ク、佛、第五ノ主穆王滿五十一年壬申ニ當リテ入滅シタマフト。若シ此ノ說ニ依ラハ、其壬申ヨリ我カ延曆二十年辛巳ニ至ルマテ、一千

晉春秋說

末法無行證

（大集經五十五「玄四ノ五十四左」）

△瘡キズ反カサ反

七百五十歳ナリト。二ニハ費長房等、魯ノ春秋ニ依ラハ、佛、周ノ第二十ノ主匡王班四年壬子ニ當リテ入滅シタマフ。若シ此ノ說ニ依ラハ、其ノ壬子ヨリ、我カ延曆二十年辛ノ巳ニイタルマテ、一千四百十歳ナリ。カルカユヘニ今ノ時ノコトキハ、是レ最末ノ時ナリ。彼ノ時ノ行事既テニ末法ニ同セリ。シカレハ則チ末法ノ中ニ於テハ、但言敎ノミ有リテ、シカウシテ行證ナケム。若シ我カ法アラハ破戒アルヘシ。既ニ戒法ナシ、何ノ戒ヲ破セムニ由テカ而（モ）破戒アラムヤ。破戒ナホ無シ、イカニイハンヤ持戒ヲヤ。カルカユヘニ大集ニノタマハク（云）。佛涅槃ノ後、無戒クニ、ミタムト云云。

問。諸經律ノ中ニヒロク破戒ヲ制シテ、衆ニ入ルコトヲユルサス。破戒尙シカナリ、イカニイハンヤ無戒オヤト。而ルニ今重ネテ末法ヲ論スルニ戒無シ、アニ瘡ナクシテ自ラモテイタマムヤト。答。此ノ理シカラス、正像末法ノ所有ノ行事、ヒロク諸經ニノセタリ、內外ノ道俗タレカ披諷セサラム。アニ自身ノ邪活ヲ貪求シテ、持國ノ正法ヲ隱蔽セムヤ。

名字僧眞寶

八無價法

（大集經五十五「玄四ノ五十四右」）

△怪アヤシム反

△剃除タイヂヨ也ソル反カミナシト

△著キラム

△供アタウ反

但シ、今論スル所ノ末法ニハ、唯名字ノ比丘有ラム、此ノ名字ヲ世ノ眞寶トセム。福田ナカラムヤ。設ヒ末法ノ中ニ持戒アラハ、既テニ是レ怪異ナリ、市ニ虎アラムカコトシ、此レ誰カ信スヘキヤ。

問。正像末ノ事、已ニ衆經ニミエタリ。末法ノ名字ヲ世ノ眞實トセムコトハ、聖典ニ出テタリヤ。答。大集ノ第九ニノタマハク（云）。タトヘハ眞金ヲ无價ノ寶トナスカコトシ、若シ眞金ナクハ、銀ヲ无價ノ寶トス、若シ銀ナクハ、鍮石僞寶ヲ無價トス、若シ僞寶ナクハ、赤白銅鐵白鑞鉛錫ヲ無價トス。カクノコトキ一切世間ノタカラナレトモ、佛法無價ナリ。若シ佛寶マシマサスハ、緣覺無上ナリ。若シ緣覺ナクハ羅漢無上ナリ。若シ羅漢ナクハ、餘ノ賢聖衆モテ無上ナリ。若シ餘ノ賢聖衆ナクハ、得定ノ凡夫、モテ無上トス。若シ得定ノ凡夫ナクハ、淨持戒ヲモテ無上トス。若シ淨持戒ナクハ、漏戒ノ比丘ヲモテ無上トス。若シ漏戒ナクハ、剃除鬚髮シテ、身ニ袈裟ヲ著タル名字比丘ヲ無上ノ寶トス。餘ノ九十五種ノ異道ニ比スルニ、モトモ第一トス。世ノ供ヲ受クヘシ、物ノタメノ初

破戒制許
隨時不同

(大集經廿二「玄二ノ卅八右」)

△災サイ反ワサワイ反

△且シハラク反カツ〳〵反

ノ福田ナリ。何ヲモテノユヘニ、能身ヲヤフル衆生、怖畏スルトコロナルカユヘニ。護持シ養育シテ、是ノ人ヲ安置スルコト有ラムハ、ヒサシカラスシテ忍地ヲエムト已上經文。此ノ文ノ中ニ、八重ノ無價アリ。イハユル如來像、縁覺、聲聞、オヨヒ前三果、得定ノ凡夫、持戒、破戒、無戒名字、其レ次ノコトシ、ナツケテ正像末ノ時ノ無價ノ寶トスルナリ。初ノ四ハ正法ノ時、次ノ三ハ像法ノ時、後ノ一ハ末法ノ時ナリ。此ニ由テ明カニシリヌ、破戒無戒、コト〳〵ク是レ眞寶ナリト。

問。伏テ前ノ文ヲミルニ、破戒名字、眞寶ナラサルコトナシ。何カユヘソ、涅槃ト大集經ニ、國王大臣、破戒ノ僧ヲ供スレハ、國ニ三災オコリ、遂ニ地獄ニ生スト。破戒尚シカナリ、イカニイハンヤ無戒オヤ。シカルニ如來一ツノ破戒ニ於テ、アルヒハソシリ、アルヒハ讃ム。アニ一聖ノ說ニ、兩判ノ失アルオヤ。答。此ノ理、シカラス。涅槃等ノ經ニ、シハラク正法ノ破戒ヲ制ス、像末代ノ比丘ニハアラス、其ノ名同シトイヘトモ、而モ時ニ異アリ。時ニシタカヒテ制許ス、是レ大聖ノ旨破ナリ。

正法時制
法

(北本涅槃經三「盈五ノ十六右」)
(南本涅槃經三「盈七ノ十七左」)

世尊ニ於テ兩判ノ失マシマサス。

問。若シシカラハ何ヲモテカ知ラム、涅槃等ノ經ハ、タヽ正法所有ノ破戒ヲ制止シテ、像末ノ僧ニアラストハ。答。引クトコロノ大集所說ノ八重ノ眞寶ノコトシ、是レ其ノ證ナリ。ミナ時ニ當リテ無價トスルカユヘニ。但シ正法ノ時ノ破戒比丘ハ、清淨衆ヲケカスユヘニ、佛カタク禁制シテ衆ニ入レス。シカルユエハ、涅槃ノ第三ニノタマハク(云)、如來イマ无上ノ正法ヲモテ、諸王、大臣、宰相、比丘、比丘尼ニ付囑シタマヘリ乃至。破戒アリテ、正法ヲ毀シラハ、王オヨヒ大臣、四部ノ衆、當ニ苦治スヘシ。カクノコトキノ王臣等、无量ノ功德ヲ得ム乃至。是レワカ弟子ナリ、眞ノ聲聞ナリ、福ヲ得ルコト无量ナラム乃至。カクノコトキノ制文ノ法、往往衆多ナリ。ミナ是レ正法ニ明ストコロノ制文ナリ、像末ノ敎ニアラス。シカルユヘハ、像季末法ニハ、正法ヲ行セサレハ、法トシテソシル(毀クキ)ヘキナシ、ナニオカ毀法トナツケム。戒トシテ破スヘキナシ、タレオカ破戒トナツケム。又、其ノトキ、大王行トシテ護ルヘキナシ、

像初行相

魔波旬所説

（北本涅槃經七「盈五ノ卅六」）
（南本涅槃經七「盈七ノ卅四」）

何ニ由テカ三災ヲ出タシ、オヨヒ戒慧ヲ失セムヤ。又像末ニハ證果ノ人ナシ、イカンソ二聖ニ聽護セラルルコトヲ明サム。カルカユヘニシリヌ、上ノ所説ハ、ミナ正法ノ世ニ持戒アル時ニ約シテ、破戒アルカユエナリ。次ニ像法千年ノ中ニ、初ノ五百年ニハ、持戒ヤウヤク減シ、破戒ヤウヤク増セム。戒行アリトイヘトモ、シカモ證果ナキカユヘニ。涅槃ノ七ニノタマハク(云)。迦葉菩薩、佛ニ白シテマフサク。世尊、佛ノ所説ノコトキハ四種ノ魔アリ、若シ魔ノ所説オヨヒ佛ノ所説、ワレ當ニイカンシテカ分別スルコトヲウヘキ。モロモロノ衆生アリテ、魔行ニ隨逐セム。復佛説ニ隨順スルコトアラハ、カクノコトキラノトモカラ、復イカンカシラムト。佛、迦葉ニツケタマハク。我涅槃シテ七百歳ノ後ニ、是レ魔波旬ヤウヤク起リテ、當ニ頻ニ我カ正法ヲ壞スヘシ。タトヘハ、獵師ノ身ニ法衣ヲマトハセムカコトシ。魔波旬モ亦復カクノコトシ。比丘像、比丘尼像、優婆塞、優婆夷像ト作ラムコト亦復カクノコトシト乃至。モロモロノ比丘、奴僕使、牛羊象馬、乃至銅鐵釜鍑、大小銅盤、所須ノ物ヲ受

像季行相

破戒善知識

△儲マウクル反

（舊譯十輪經三「玄七ノ五十七右」）

△著キテ反

畜シ、耕田種、敗賣市易シテ、穀米ヲマフクルコトヲユルスコト、カクノコトキノ衆事、佛大悲ノユヘニ、衆生ヲ憐愍シテ、ミナタクワウルコトヲ聽サムト。カクノコトキノ經律ハ、コトコトク是レ魔説ナリト云云。既ニ七百歳ノ後ニ、波旬ヤウヤクオコラムト云ヘリ。カルカユヘニシリヌ、彼ノトキノ比丘、ヤウヤク、八不淨物ヲ貪畜セム、此ノ妄説ヲ作サム、即チ是レ魔ノ流ナリ。コレラノ經ノ中ニ、アキラカニ年代ヲ指シテ、具モニ行事ヲ説ケリ、更ラニウタカフヘカラス。其レ一文ヲ擧ク、餘皆準知セヨ。

次ニ像法ノ後ナカハ持戒減少シ、破戒巨多ナラム。カルカユヘニ涅槃ノ六ニノタマハク(云)乃至、又十輪ニ言ハク。若シ我法ニ依テ、出家シテ惡行ヲ造作セム、此レ沙門ニアラスシテ自ラ沙門ト稱シ、亦梵行ニアラスシテ自ラ梵行ト稱セム。カクノコトキノ比丘、能ク一切天龍夜叉、一切善法功德伏藏ヲ開示シテ、衆生ノ善知識トナラム。少欲知足ナラストイヘトモ、剃除鬚髮シテ、法服ヲ被著セム、是ノ因縁ヲモテノユヘニ、

末法行相

△許ユルス反

（大集經五十五「玄四ノ五十四」）

△越オチ反

（賢愚經十三「宿六ノ七十一」）

能ク衆生ノタメニ善根ヲ增長セム。モロモロノ天人ニ於テ、善道ヲ開示セム。乃至破戒ノ比丘、是レ死セル人ナリトイヘトモ、シカモ戒ノ餘才牛黃ノコトシ。此レ死スルモノトイヘトモ、シカモ人コトサラニ之ヲ取ル。亦麝香ノノチニ用アルカコトシ云云。既ニ迦羅林ノ中ニ、ヒトツノ鎭頭迦樹アリト云ヘリ。此レハ像運已ニオトロヘテ、破戒濁世ニ、僅ニ一ニ持戒ノ比丘アラムニタトフルナリト。又云ク。破戒ノ比丘是レ死セル人ナリトイヘトモ、猶、麝香ノ死シテ用アルカコトシ、衆生ノ善知識トナルコト。アキラカニシリヌ、此ノトキヤウヤク破戒ヲユルシテ世ノ福田トス、前ノ大集ニオナシト。次ニ像季ノ後、マタク是レ戒ナシ。佛時運ヲシロシメシテ、末俗ヲスクハムカタメニ、名字ノ僧ヲ讃メテ世ノ福田トシタマヘリト。又、大集ノ五十二ニノタマハク（云）。若シ後ノ末世ニ、我法ノ中ニ於テ、剃除鬚髮シ、身ニ袈裟ヲ著タラム名字ノ比丘、若シ檀越アリテ供養ヲ捨テハ、無量ノ福ヲエムト。又賢愚經ニノタマハク。若シ檀越、將來末世ニ法乘盡キントセムニ、正シク妻ヲタクハヘ、子ヲ

無戒得涅槃

△俠ワキハサム反　コ反

△打チヤウ反　ウチ反

△罵メ反　ノル反

（大集經五十三「玄四ノ四十六左」）

（同五十四「玄四ノ五十一右」）

（大悲經三「盈九ノ九十左」）

△補ツク反　フ反

ワキハサマシメム、四人以上ノ名字ノ僧衆、當ニ禮敬セムコト、舍利弗、大目連等ノコトクスヘシト。又ノタマハク（云）。若シ破戒ヲ打罵シ、身ニ袈裟ヲキタルヲ知ルコトナカラム、罪ハ萬億ノ佛身ヨリ血ヲ出スニ同シカラムト。若シ衆生アリテ、我法ノタニ剃除鬚髮シ、袈裟ヲ被服セムハ、設ヒ戒ヲタモタストモ、カレラハ、コトコトク已ニ涅槃ノ印ノタメニ印セラルルナリ乃至。大悲經ニノタマハク（云）。佛阿難ニツケタマハク、將來世ニ於テ、法滅盡セムト欲セムトキ、當ニ比丘、比丘尼アリテ、我法ノ中ニ於テ出家ヲ得タラムモノ、オノレカ手ニ、兒ノ臂ヲヒキテ、トモニ遊行シテ、彼ノ酒家ヨリ酒家ニイタラム、我法ノ中ニ於テ、非梵行ヲナサム。カレラ、酒ノ因緣タリトイヘトモ、此ノ賢劫ノ中ニ於テ、當ニ千佛マシマシテ、興出シタマハムニ、ワカ弟子トナルヘシト。次ニ後ニ、彌勒、當ニ我カトコロヲ補クヘシ。乃至最後盧至如來マテ、カクノコトキ次第ニ、汝當ニシルヘシ。阿難、我カ法ノ中ニ於テ、但、性ハ是レ沙門ノ行ニシテ、自ラ沙門ト稱セム。形ハ沙門ニ似テ、ヒサシク袈裟

（同）

末世導師

△遺ユ反 ノコリ反

末法制法罪

（四分律五十七、例六ノ六十八丟）

末法衰運

△配ハイ反 アテ反

ヲ被著スルコト有ラシメムモノハ、賢劫ニ於テ彌勒ヲ首トシテ、乃至盧至如來マテ、彼ノモロモロノ沙門、カクノコトキノ佛ノミモトニシテ、无餘涅槃ニ於テ、次第ニ涅槃ニ入ルコトヲ得ム、遺餘アルコト無ケム。何ヲモテノユヘニ、如來一切沙門ノ中ニ、乃至ヒトタヒ佛ノミナヲ稱シ、ヒトタヒ信ヲ生セムモノノ所作ノ功德、終ニ虛設ナラシ。我レ佛智ヲモテ、法界ヲ測知スルカユヘナリト云云乃至。コレラノ諸經ニ、ミナ年代ヲ指シテ、將來末世ノ名字比丘ヲ世ノ尊師トスト。若シ正法時ノ制文ヲモテ、末法世ノ名字僧ヲ制セハ、敎機相ヒソムキ、人法合セス。此ニ由リテ律ニ云ク。非制ヲ制スル者ハ、則チ三明ヲ斷ス、記說スルトコロ、是レ罪アリト。此ノ上ニ經ヲ引キテ配當シオハリヌ。

後ニ敎ヲアケテ比例セハ、末法法爾トシテ正法毀壞シ、三業シルシ（記）ナシ、四儀（乖クヱ）ソムクコトアラム。シハラク（且カツ）像法決疑經ニノタマフ（云）カコトシト乃至。又遺敎經ニノタマヒ（云）乃至。マタ法行經ニノタマヒ（云）乃至、鹿子母經ニノタマヒ（云）乃至、又、仁王經ニノタマフ（云）カコトシト乃至略抄已上。

化土卷末

（北本涅槃經八「盈五ノ九」）（南本涅槃經八「盈七ノ四十五」）

〔內外邪正〕

〔總明〕眞僞勸誡

（般舟經「玄九ノ廿右」）

△事ツカフ反 シ反 コト反

（般舟經「玄九ノ廿六右」）

〔別顯〕佉盧虱吒緣

（大集經四十二「玄三ノ四十右」）

△虱シチ反

顯淨土方便化身土文類六

愚禿釋親鸞集

ソレ、モロモロノ修多羅ニ據テ、眞僞ヲ勘決シテ、外敎邪僞ノ異執ヲ敎誡セハ、涅槃經ニノタマハク。佛ニ歸依セハ、終ニマタ其ノ餘ノ諸天神ニ歸依セサレト略出。

般舟三昧經ニノタマハク。優婆夷、是ノ三昧ヲ聞テ學ナハムト欲セハ、乃至ミツカラ佛ニ歸命シ、法ニ歸命シ、比丘僧ニ歸命セヨ。餘道ニツカフルコトヲエサレ、天ヲ拜スルコトヲエサレ、鬼神ヲマツル（祠）コトヲエサレ、吉良日ヲ視ルコトヲエサレト已上。

又ノタマハク。優婆夷、三昧ヲマナハムト欲セハ、乃至天ヲ拜シ神ヲ祠祀スルコトヲエサレト略出。

大乘大方等日藏經卷第八、魔王波旬星宿品ノ第八ノ二ニノタマハク。ソノトキニ佉盧虱吒、天衆ニ告ケテ言ハク。是ノモロモロノ月等、オノオノ主當アリ、ナンチ四種ノ衆生ヲ救濟スヘシ。ナニモノオカ四トスル。

年時分別

星宿布置

△昴ハウ反

△胃キ反

地上ノ人、諸龍夜叉、乃至蝎等ヲタスケム、斯ノコトキノタクヒ、ミナ悉ク之ヲタスケム(救)。我レモロモロノ衆生ヲ安樂スルヲモテノユヘニ、星宿ヲ布置ス、オノオノ分部、乃至摸呼羅ノ時等アリ、亦タミナ具ニ説カム。其ノ國土方面ノ處ニシタカヒテ、所作ノ事業、隨順シ增長セム。佉盧虱吒、大衆ノ前ニシテタナコヽロヲアハセテ説キテイハマク。カクノコトキ、日月年時、大小星宿ヲ安置ス。ナニモノオカナツケテ有六時トスルヤ。正月二月ヲ暄暖時トナック、三月四月ヲ種作時トナック、五月六月ニハ求降雨時ナリ、七月八月ハ物欲熟時ナリ、九月十月ハ寒涼ノ時ナリ、十有一月合シテ十二月ハ大雪ノ時ナリ。是レ十二月ヲワカチテ六時トス。又大星宿其ノカス八アリ、イハユル歲星、熒惑、鎭星、太白、辰、星、日、月、荷羅睺星ナリ。又小星宿二十八アリ、イハユル昴ヨリ胃ニイタルマテノ諸宿是レナリ。ワレカクノコトキ次第安置ヲナス、其ノ(作)法ヲ説キオハリヌ。ナンタチミナ、スヘカラク亦見マタ聞クヘシ。一切大衆コ、ロニ於テイカン、我カ置クトコロノ法、其ノ事コレ二十八宿オ

四天王安置

ヨヒ八大星ノ所行諸業ニアラス、汝カ喜樂ハ、是ノタメ非ノタメニセス、宜シクオノオノ宣説スヘシ。ソノトキニ、一切天人、仙人、阿修羅、龍オヨヒ緊那羅等、ミナコトコトクタナコヽロヲアハセテ、咸ク是ノ言ヲナサク、イマ大仙ノコトキハ、天人ノアヒタニ於テ、モトモ尊重トス。乃至諸龍オヨヒ阿修羅、能ク勝レタルモノナケム。智慧慈悲、最モ第一トス。無量劫ニ於テワスレス、一切衆生ヲ憐愍スルカユヘニ、福報ヲ獲、誓願滿チオハリテ、功德、海ノコトシ、能ク過去現在當來、一切諸事天人ノ間ヲ知ルニ、カクノコトキノ智慧ノ者アルコトナシ。カクノコトキノ法用、日夜刹那オヨヒ迦羅時、大小星宿、月半、月滿、年滿ノ法用、サラニ衆生能ク是ノ法ヲ作スコトナケム。ミナコトコトク隨喜シ安樂ナラム。ワレラヨイカナ、大德、衆生ヲ安穩ス。是ノトキ佉盧虱吒仙人、復是ノ言ヲナサク。此十二月一年始終、カクノコトキ方便ス。大小星等、刹那(ノ)時法、ミナ已ニ説キオハリヌ。又復四天大王ヲ須彌山ノ四方面所ニ安置ス、オノオノ一王ヲ置ク、是ノモロモロノ方所ニシテ、オノオ

鬼神安置

伽力伽緣

△邑オウ反

（大集經四十三「玄三ノ四十四左」）

ノ衆生ヲ領ス。北方天王ヲ毗沙門トナツク、是レ其ノ界ノ内ニオホク夜叉アリ。南方天王ヲ毗留茶トナツク、倶ニ是レ其ノ界ノ内ニオホク鳩槃茶アリ。西方天王ヲ毗留博叉トナツク、是レ其ノ界ノ内ニオホク諸龍アリ。東方天王ヲ題頭隷吒トナツク、是レ其ノ界ノ内ニ乾闥婆オホシ。四方四維、ミナコトゴトク一切洲渚オヨビモロモロノ城邑ヲ擁護ス。亦鬼神ヲ置キテ之ヲ守護セシム。ソノトキニ佉盧虱吒仙人、モロモロノ天龍夜叉、阿修羅、緊那羅、摩睺羅伽、人、非人等一切大衆ニ於テ、ミナ善哉ト稱シテ、歡喜無量ナルコトヲナス。是ノ時ニ天龍夜叉、阿修羅等、日夜ニ佉廬虱吒ヲ供養ス。次ニ復、後ニ無量世ヲスキテ、マタ仙人アラム、伽力伽トナツケム。世ニ出現シテ、復更ニ別シテモロモロノ星宿小大、月ノ法、時節要略ヲ説キ置カム。ソノトキニ、諸龍、佉羅坻山聖人（坻）高田本ノ住處ニ在リテ、光味仙人ヲ尊重シ恭敬セム、其レ龍力ヲ盡シテ之ヲ供養セムト已上。抄出

大乘大方等日藏經卷第九ニ、念佛三昧品ノ第十ニノタマハク。ソノトキニ、波旬

魔女歸佛緣

歸佛者無魔害

△曾ムカシ反　カツテ反　ソウ反

△親マノアタリ反　シン反

△魔マ反

是ノ偈ヲ説キ已ルニ、彼ノ衆ノ中ニヒトリノ魔女アリ、ナツケテ離暗トス。此ノ魔女ハ、ムカシ過去ニオイテ衆ノ徳本ヲ植ヘタリキ。是ノ説ヲ作シテノタマハク。沙門瞿曇ハ、ナツケテ福徳ト稱ス。若シ衆生アリテ佛名ヲキクコトヲ得テ、一心ニ歸依ヒム、一切ノ諸魔、彼ノ衆生ニ於テ惡ヲクハフルコトアタハス。イカニイハンヤ、佛ヲミタテマツリ、マノアタリ法ヲキカム人、種種ニ方便シ、慧解深廣ナラム乃至。タトヒ千萬億ノ一切魔軍、ツヒニ須臾モ害ヲナスコトヲウルコトアタハス。如來、イマ涅槃道ヲ開キタマヘリ、女カシコニユイテ佛ニ歸依セムトオモフ。即チ其ノ父ノタメニシテ、偈ヲ説キテノタマハク乃至。三世ノ諸佛ノ法ヲ修學シテ、一切苦ノ衆生ヲ度脱セム、善ク諸法ニオイテ自在ヲエ、當來ニネカハクハ我レ還リテ佛ノコトクナラムト。ソノトキニ離暗是ノ偈ヲ説キオハルニ、父ノ王宮ノ中ノ五百ノ魔女、姉妹眷屬、一切ミナ菩提ノ心ヲ發セシム。是ノ時ニ、魔王其ノ宮ノ中ノ五百ノ諸女、ミナ佛ニ歸シテ菩提心ヲオコサシムルヲ見ルニ、大瞋忿、怖畏憂愁ヲマス。乃至是ノトキ

念佛方軌

△煎コカシ反

△辛カラシ反

△臭クサキモノ反

△噉タン反

ニ五百ノモロモロノ魔女等、マタ波旬ノタメニシテ、偈ヲトキテイハマク。若シ衆生アリテ佛ニ歸スルモノハ彼ノ人千億ノ魔ニ畏ソレス、イカニイハンヤ生死ノナカレヲ度セムトオモフ(テ)、無爲涅槃ノ岸ニイタラム。若シ能ク一香華ヲモテ、三寶佛法僧ニ持散スルコトアリテ、堅固勇猛ノ心ヲオコサム、一切ノ衆魔壞スルコトアタハシ。乃至ワレラ過去ノ無量ノ惡、一切亦滅シテ餘アルコトナケム、至誠專心ニ佛ニ歸シタテマツリオハラハ、サタメテ阿耨菩提ノ果ヲエムト。ソノトキニ魔王是ノ偈ヲ聞キ已リテ、大キニ瞋恚怖畏ヲマシテ、心ヲコカシ、憔悴憂愁シテ、ヒトリ宮ノ内ニ坐ス。是ノトキニ光味菩薩摩訶薩、佛ノ説法ヲ聞キテ、一切衆生コト〱ク攀縁ヲハナレ、四梵行ヲエシムト乃至。淨ク洗浴シ、鮮潔ノコロモヲ著テ、菜食長齋シテ、二干(辛)、臭(臭)ヲ噉フコトナカルヘシ。寂靜處ニシテ、道場ヲ莊嚴シテ、正念結跏シ、アルヒハ行シ、アルヒハ坐シテ、佛ノ身相ヲ念シテ、亂心セシムルコト無シ。サラニ他縁シ、其ノ餘ノ事ヲ念スルコトナカレ。アルヒハ一日夜、アルヒハ七日夜、餘業

魔王歸佛緣

（大集經四十五「玄三ノ五十四右」）

ヲ作サ、レ。至心念佛スレハ、乃至佛ヲミタ(テ)マツル。小念ハ小ヲミタテマツリ、大念ハ大ヲミタテマツル、乃至無量念ハ佛(ノ)色身ノ无量无邊ナルヲミタテマツル略抄。

日藏經(大乘大方等)卷第十、護塔品第十三ニノタマハク。時ニ魔波旬、ソノ眷屬八十億衆ト、前後ニ圍繞シテ、佛所ニ往至セシム。到リオハリテ、接足シテ世尊ヲ頂禮シタテマツル。カクノコトキノ偈ヲトカク乃至。三世ノ諸佛(ノ)大慈悲、我カ禮ヲ受ケタマヘ、一切ノ殃ヲ懺セシム。法僧二寶モ亦復シカナリ、至心(ニ)歸依シタマヘルカ(シタテマツルニ)、異アルコトナシ。ネカハクハ、我レ今日、世ノ導師ヲ供養シ恭敬シ尊重シタマヘル(シタテマツル)トコロナリ。諸惡永ク盡シテ、復タ生セシ、壽ヲツクスマテ、如來ノ法ニ歸依セムト。トキニ魔波旬ニコノ偈ヲ説キ已リテ、佛ニ白シテマフサク。世尊、如來、我オヨヒモロモロノ衆生ニ於テ、平等無二ノ心ニシテ、ツネニ歡喜シ、慈悲含忍セムト。佛ノノタマハク、カクノコトシ(カクノコトキノ)。時ニ魔波旬大歡喜ヲ生シテ、清淨心ヲオコシ、カサネテ佛前ニシテ接足頂禮シ、右ニメクルコ

邪見遠離十種益

△惡 アク反 ニクム反 マク反 オ反

△凶 クヰヨウ反

ト三市シテ、恭敬合掌シテ、シリゾキテ一面ニ住シテ、世尊ヲ瞻仰シタテマツルニ、心ニ厭足ナシト已上抄出。

大方等大集月藏經卷第五、諸惡鬼神得敬信品第八ノ上ニノタマハク。モロモロノ仁者、彼ノ邪見ヲ遠離スル因緣ニ於テ、十種ノ功德ヲエム。ナンラオカ十トスル。一ニハ心性柔善ニシテ伴侶賢良ナラム。二ニハ業報乃至奪命アルコトヲ信シテ、モロモロノ惡ヲオコサス。三ニハ三寶ヲ歸敬シテ天神ヲ信セス。四ニハ正見ヲ得テ、歲次日月ノ吉凶ヲエラハス。五ニハ常ニ人天ニ生シテ、モロモロノ惡道ヲハナル。六ニハ賢善ノ心明ラカナルコトヲエ、人讃譽セシム。七ニハ世俗ヲステヽ、ツネニ聖道ヲモトメム。八ニハ斷常ノ見ヲハナレテ、因緣ノ法ヲ信ス。九ニハ常ニ正信正行正發心ノ人ト共ニアヒアツマリアハム。十ニハ善道ニ生スルコトヲエシム。是ノ邪見ヲ遠離スル善根ヲモテ、阿耨多羅三藐三菩提ニ迴向セム、是ノ人スミヤカニ六波羅蜜ヲ滿セム。善淨佛土ニシテ正覺ヲ成ラム。菩提ヲ得オハリテ、彼ノ佛土ニシテ功德智慧一切善根、衆生

正見隨順之難

邪信惡報

空居四天王護持四洲

△終 ツイニ反

（大集經五十二「玄四ノ卅五左」）

（大集經五十二「玄四ノ三十六左」）

ヲ莊嚴セム。其ノ國ニ來生シテ、天神ヲ信セス、惡道ノオソレヲハナレテ、カシコニシテ命終シテ、還リテ善道ニ生セムト略抄。

月藏經卷第六、諸惡鬼神得敬信品ノ第八ノ下ニノタマハク。佛ノ出世ハナハタカタシ、法僧モ亦復カタシ、衆生ノ淨信カタシ、諸難ヲハナルヽコト亦カタシ、衆生ヲ哀愍スルコトカタシ、知足第一ニカタシ、正法ヲキクコトヲウルコトカタシ、能ク修スルコト第一ニカタシ。カタキヲ知ルコトヲ得テ平等ナレハ、世ニ於テツネニ樂ヲ受ク。此ノ十平等處ハ、智者ツネニスミヤカニ知ラムト乃至。ソノトキニ、世尊、彼ノモロモロノ惡鬼神衆ノ中ニシテ、法ヲ說キタマフトキニ、彼ノモロモロノ惡鬼神衆中ニシテ、彼ノ惡鬼神ハ、ムカシ佛法ニ於テ決定ノ信ヲナセリシカトモ、カレ後ノ時ニオイテ、惡知識ニチカツキテ、心ニ他ノ過ヲ見ル。是ノ因緣ヲモテ、惡鬼神ニムマルト略抄。

大方等大集經卷第六月藏分中ニ、諸天王護持品第九ニノタマハク。ソノトキニ世尊、世間ヲシメスカユヘニ、娑婆世界ノ主、大梵天王ニトフ

四天鬼神護持四洲

星宿護持四洲

△兜

△虛危キヨクキ室壁シチヘキ奎婁ケイロウ胃キナリ

テイハマク。此ノ四天下ニ、是レタレカ能ク護持養育ヲナスト。時ニ娑
婆世界主、大梵天王、カクノコトキノ言ヲナサク。大德婆伽婆、兜率陀
天王、無量百千ノ兜率陀天子トトモニ、北鬱單越ヲ護持シ養育セシム。
他化自在天王、無量百千ノ他化自在天子トトモニ、東弗婆提ヲ護持シ養
育セシム。化樂天王、無量百千ノ化樂天子トトモニ、南閻浮提ヲ護持シ
養育セシム。須夜摩天王、無量百千ノ須夜摩天子トトモニ、西瞿陀尼ヲ
護持シ養育セシム。大德婆伽婆、毗沙門天王、無量百千ノ諸夜叉衆トト
モニ、北鬱單越ヲ護持シ養育セシム。提頭賴吒天王、無量百千ノ乾闥婆
衆トトモニ、東弗婆提ヲ護持シ養育セシム。毗樓勒天王、無量百千ノ鳩
槃茶衆トトモニ南閻浮提ヲ護持シ養育セシム。毗樓博叉天王、無量百千
ノ龍衆トトモニ、西瞿陀尼ヲ護持シ養育セシム。大德婆伽婆、天仙七宿、
三曜、三天童女、北鬱單越ヲ護持シ養育セシム。彼ノ天仙七宿トハ、虛、
危、室、壁、奎、婁、胃ナリ。三曜トハ鎭星、歲星、熒惑星ナリ。三天
童女トハ、鳩槃、彌那、迷沙ナリ。大德婆伽婆、彼ノ天仙七宿ノ中ニ、

△翼ヨク反
△軫シム反
△亢カウ反
△氐テイ反

虛危室ノ三宿ハ、是レ鎭星ノ土境ナリ、鳩槃ハ是レ辰ナリ。壁奎ノ二宿
ハ是レ歲星ノ土境ナリ、彌那ハ是レ辰ナリ。婁胃ノ二宿ハ是レ熒惑ノ土
境ナリ、迷沙ハ是レ辰ナリ。大德婆伽婆、カクノコトキノ天仙七宿、三
曜、三天童女、北鬱單越ヲ護持シ養育セシム。大德婆伽婆、天仙七宿、
三曜、三天童女、東弗婆提ヲ護持シ養育セシム。彼ノ天仙七宿トハ、昴
畢觜參井鬼柳ナリ。三曜トハ、太白星、歲星、月ナリ。三天童女トハ、
毗利沙、彌偷那、羯迦吒迦ナリ。大德婆伽婆、彼ノ天仙七宿ノ中ニ、昴
畢ノ二宿ハ是レ太白ノ土境ナリ、毗利沙ハ是レ辰ナリ。觜參井ノ三宿ハ
是レ歲星ノ土境ナリ、彌偷那ハ是レ辰ナリ。鬼柳ノ二宿ハ是レ月ノ土境
ナリ、羯迦吒迦ハ是レ辰ナリ。大德婆伽婆、カクノコトキノ天仙七宿、
三曜、三天童女、東弗婆提ヲ護持シ、養育セシム。大德婆伽婆、天仙七
宿、三曜、三天童女、南閻浮提ヲ護持シ養育セシム。彼ノ天仙七宿ハ、
星張翼軫角亢氐ナリ。三曜ハ日、辰星、太白星ナリ。三天童女ハ、線訶、
迦若、兜羅ナリ。大德婆伽婆、彼ノ天仙七宿ノ中ニ、星、張、翼ハ是レ

四王別護閻浮提

△尾箕斗ノ　△牛 キウ反 ウシ ヨ反　△倍 ハイ反 マス反

日ノ土境ナリ、緣訶ハ是レ辰ナリ。軫角ノ二宿ハ是レ辰星ノ土境ナリ、迦若ハ是レ辰ナリ。亢氐ノ二宿ハ是レ太白ノ土境ナリ、兜羅ハ是レ辰ナリ。大德婆伽婆、カクノコトキノ天仙七宿、三曜、三天童女、南閻浮提ヲ護持シ養育セシム。大德婆伽婆、彼ノ天仙七宿、三曜、三天童女、西瞿陀尼ヲ護持シ養育セシム。彼ノ天仙七宿ハ、房心尾箕斗牛女ナリ。三曜ハ熒惑星、歲星、鎭星ナリ。三天童女ハ、毗離支迦、檀兔婆、摩伽羅ナリ。大德婆伽婆、彼ノ天仙七宿ノ中ニ、房心ノ二宿ハ是レ熒惑ノ土境ナリ、毗利支迦ハ是レ辰ナリ。尾箕斗ノ三宿ハ是レ歲星ノ土境ナリ、檀兔婆ハ是レ辰ナリ、牛女ノ二宿ハ是レ鎭星ノ土境ナリ、魔伽羅ハ是レ辰ナリ。大德婆伽婆、カクノコトキノ天仙七宿、三曜、三天童女、西瞿陀尼ヲ議持シ養育セシム。大德婆伽婆、此ノ四天下ニ、南閻浮提ハ最モ殊勝ナリトス。ナニヲモテノユヘニ。閻浮提ノ人ハ勇健聰慧ニシテ、梵行、佛ニ相應ス。婆伽婆、中ニシテ出世シタマフ。是ノユヘニ四大天王、コヽニ倍增シテ此ノ閻浮提ヲ護持シ養育セシム。十六ノ大國アリ。イハク

新生鬼神護持

△塚 チヨ反 ツカ反

鴦伽摩伽陀國、傍伽摩伽陀國、阿槃多國、支提國ナリ。コノ四ノ大國(ヲ)ハ毗沙門天王、夜叉衆ト圍繞シテ、護持シ養育セシム。迦尸國、都薩羅國、婆蹉國、摩羅國、此ノ四大國(ヲ)ハ、提頭賴吒天王、乾闥婆衆ト圍遶シテ護持シ養育セシム。鳩羅婆國、毗時國、槃遮羅國、蘇那國、コノ四ノ大國(ヲ)ハ、毗樓勤叉天王、鳩槃茶衆ト圍繞シテ護持養育セシム。阿濕婆國、蘇摩國、蘇羅吒國、甘滿闍國、此ノ四ノ大國(ヲ)ハ、毗樓博叉天王、モロモロノ龍衆ト圍遶シテ、護持シ養育セシム。大德婆伽婆、過去ノ天仙、此ノ四天下ヲ護持シ養育セシム、カルカユヘニ、亦皆カクノコトキ分布安置セシム。後ニ於テ其ノ國土、城邑、村落、塔寺、園林、樹下、塚間、山谷、曠野、河泉、陂泊、乃至海中、寶洲、天祠ニシタカヒテ、彼ノ卵生胎生濕生化生ニオイテ、諸龍、夜叉、羅刹、餓鬼、毗舍遮、富單那、迦吒富單那等、彼ノナカニ生シテ、彼ノ處ニ還住シテ、繫屬スルトコロナシ。他ノ敎ヲウケス。是ノユヘニ、ネカハクハ佛、此ノ閻浮提ノ一切國土ニオイテ、彼ノ諸鬼神(ヲ)分布安置シテ、護持ノタメ

賢劫四佛付囑護持

(一)鳩留孫佛

ノユヘニ、一切モロモロノ衆生ヲマモラムカタメノユヘニ。ワレラ此ノ説ニオイテ隨喜セムトオモフト。佛ノノタマハク。カクノコトキノ大梵、汝カ所説ノコトシト。ソノトキニ世尊、カサネテコノ義ヲアカサムトオホシメシテ、偈ヲトキテノタマハク。

世間ニ示現スルカユヘニ、導師、梵王ニトハマク。コノ四天下ニオイテ、誰カ護持シ養育セムト。カクノコトキノ天師梵諸天王ヲ首トシテ、兜率他化天化樂須夜摩、能クカクノコトキノ四天下ヲ護持シ養育セシム。四王オヨヒ眷屬、亦復能ク護持セシム。二十八宿等、オヨヒ十二辰、十二天童女、四天下ヲ護持セシム。其ノ所生ノ處ニ隨ヒテ、龍鬼羅刹等、他ノ敎ヲウケスハ、カシコニ還ヘテ護ヲナサシム。天神等差別シテ、願シテ佛分布セシメタマヘリ。

ソノトキニ、佛、月藏菩薩摩訶薩ニツケテノタマハク、清淨士ヲ了知スルニ、衆生ヲ憐愍セムカユヘニ、正法ノトモシヒヲ熾然ナラシム。

此ノ賢劫ノハシメ、人壽四萬歳ノトキ、鳩留孫佛、世ニ出興シタマヒキ。彼ノ佛無量阿僧祇億那由他百千ノ衆生ノタメニ、生死ニ廻シテ、正法輪

(二)拘那含牟尼佛

ヲ輪轉セシム。追テ惡道ニ廻シテ、善道オヨヒ解脱ノ果ヲ安置セシム。彼ノ佛、此ノ四大天下ヲモテ、娑婆世界ノ主大梵天王、他化自在天王、化樂天王、兜率陀天王、須夜摩天王等ニ付屬セシム。護持ノユヘニ、養育ノユヘニ、陀ノ衆生ヲ憐レムカユヘニ、三寶ノ種ヲシテ斷絶セサラシメムカユヘニ、熾然ナラムカユヘニ、地ノ精氣、衆生ノ精氣、正法ノ精氣、ヒサシク住セシメ增長セムカユヘニ、モロモロノ衆生ヲシテ三惡道ヲ休息セシメムカユヘニ、三善道ニ趣向セムカユヘニ、四天下ヲモテ、大梵オヨヒ諸天王ニ付囑セシム。カクノコトキ漸次ニ劫盡キ、諸天人盡キ、一切善業白法盡滅シテ、大惡モロモロノ煩惱溺ヲ增長セム。人壽三萬歳ノトキ、拘那含牟尼佛、世ニ出興シタマハム。彼ノ佛此ノ四大天下ヲモテ、娑婆世界主大梵天王、他化自在天王、乃至四大天王、オヨヒモロモロノ眷屬ニ付囑シタマフ。護持養育ノユヘニ、乃至一切衆生ヲシテ三惡道ヲ休息シテ、三善道ニ趣向セシメムカユヘニ、此ノ四天下ヲモテ、大梵オヨヒ諸天王ニ付屬シタマフ。カクノコトキ次第ニ劫盡キ、諸天人

(三)迦葉佛

(四)釋迦佛

△翳 エイ反 カケリ反

△鹹 カム反 シハハイシ反

盡キ、白法亦ツキテ、大惡モロモロノ煩惱濁ヲ增長セム。人壽二萬歲ノトキ、迦葉如來世ニ出興シタマフ。彼ノ佛此ノ四大天下ヲモテ、娑婆世界ノ主大梵天王、他化自在天王、化樂天王、兜率陀天王、須夜摩天王、憍尸迦帝釋、四天王等オヨヒモロモロノ眷屬ニ付囑シタマヘリ。護持養育ノユヘニ、乃至一切衆生ヲシテ、三惡道ヲ休息セシメ三善道ニ趣向セシメムカユヘニ、彼ノ迦葉佛、此ノ四天下ヲモテ大梵四天王等ニ付囑シ、オヨヒモロモロノ天仙衆七曜、十二天童女、二十八宿等ニ付ケタマヘリ。護持ノユヘニ、養育ノユヘニ、清淨土ヲ了知スルニ。カクノコトキ次第ニ、イマ劫濁、煩惱濁、衆生濁、大惡煩惱濁、鬪諍惡世ノ時、人壽百歲ニイタルマテ、一切ノ白法盡キ、一切ノ諸惡闇翳ナラム。世間ハ、タトヘハ海水ノ一味ニシテ、大鹹ナルカコトシ、大煩惱ノアチハヒ世ニ遍滿セム。集會ノ惡黨、手ニ髑髏ヲ執リ、血ヲ其ノタナコヽロニヌラム、共ニアヒ殺害セム。カクノコトキノ惡ノ衆生ノ中ニ、我イマ菩提樹下ニ出世シテ、ハシメテ正覺ヲ成レリ、提謂波利(イハ經名也)ノモロモロノ商人ノ食ヲ

受ケテ、カレラカタメノユヘニ、此ノ閻浮提ヲモテ、天龍、乾闥婆、鳩槃茶、夜叉等ニ分布セシム。護持養育ノユヘニ。是レヲモテ大集十方所有ノ佛土、一切無餘ノ菩薩、摩訶薩等、コトコトクコヽニ來集セム、乃至。此ノ娑婆佛土ニオイテ、ソノ處ノ百億ノ日月、百億ノ四天下、百億ノ四大海、百億ノ鐵圍山、大鐵圍山、百億ノ須彌山、百億ノ四阿修羅城、百億ノ四大天王、百億ノ三十三天、乃至百億ノ非想非非想處、カクノコトキノ數ヲ略セリ。娑婆ノ佛土、ワレ是ノトコロニシテ佛事ヲナス。乃至。娑婆佛土ノ所有ノモロモロノ梵天王、オヨヒモロモロノ眷屬、魔天王、他化自在天王、化樂天王、兜率陀天王、須夜摩天王、帝釋天王、四大天王、阿修羅王、龍王、夜叉王、羅刹王、乾闥婆王、緊那羅王、迦樓羅王、摩睺羅伽王、鳩槃茶王、餓鬼王、毗舍遮王、富單那王、迦吒富單那王等ニオイテ、コトコトク將ニ眷屬トシテ、コヽニ大集セリ、法ヲキカムカタメノユヘニ。乃至コヽニ、娑婆佛土ノ所有ノモロモロノ菩薩摩訶薩等、オヨヒモロモロノ聲聞一切、餘ナクコトコトクコヽニ來集セリ。聞法ノタメノユ

梵天帝釋護持

△恕ショ反

ヘニ我レ今マ此ノ所集ノ大衆ノタメニ、深甚ノ佛法ヲ顯示セシム。復世間ヲマモラムカタメノユヘニ、此ノ閻浮提所集ノ鬼神ヲモテ、分布安置ス、護持養育スヘシト。　ソノトキニ世尊、復娑婆世界主大梵天王ニトフテノタマハク。過去ノ諸佛、此ノ四大天下ヲモテ、カツテ(曾)誰ニ付囑シテ、護持養育ヲ作サシメタマフソト。時ニ娑婆世界ノ主大梵天王マフサク。過去ノ諸佛、此ノ四天下ヲモテ、カツテ我レオヨヒ憍尸迦ニ付囑シタマヘリキ。護持ヲ作サシメテ、ワレ失アリヤイナヤ。オノレカ名オヨヒ帝釋ノ名ヲ彰ハス。但、諸餘ノ天王オヨヒ宿曜辰ヲ稱セシム。護持養育スヘシト。ソノトキニ娑婆世界主大梵天王、オヨヒ憍尸迦帝釋、佛足ヲ頂禮シテ是ノ言ヲナサク。大德婆伽婆、大德修伽陀、ワレイマ、過ヲ謝スヘシ。ワレ小兒ノコトクシテ、愚癡無智ニシテ、如來ノミマヘニシテ、ミツカラ稱名セサラムヤ。大德婆伽婆、唯ネカハクハ容恕シタマヘ。大德修伽陀、唯ネカハクハ容恕シタマヘ。諸來ノ大衆、亦ネカハクハ容恕シタマヘ。ワレ境界ニオイテ、言說敎令ス、自在ノトコロヲ得テ

三寶熾然

精氣增長

鬪諍飢饉休息

護持養育スヘシ。乃至モロモロノ衆生ヲシテ、善道ニオモムカシメムカユヘニ、ワレラ、ムカシ鳩留孫佛ノミモトニシテ、ステニ敎勅ヲウケタマ(ハ)リテ、乃至三寶ノ種ヲシテ已ニ燃然ナラシム。拘那含牟尼佛、迦葉佛ノミモトニシテ、ワレ敎勅ヲウケタマハリシコト亦カクノコトシ。三寶(ノ)種ニオイテ、已ニネムコロニシテ燃然ナラシム。地ノ精氣、衆生ノ精氣、正法ノアチハヒ、醍醐ノ精氣、ヒサシク住シ增長セシムルカユヘニ。亦我カコトキモ、イマ世尊ノミモトニシテ、敎勅ヲ頂受シ、己レカ境界ニシテ言說敎令ス、自在ノトコロヲ得テ、一切鬪諍飢饉ヲ休息セシメ、乃至、三寶ノ種ヲシテ、斷絕セサラシムルカユヘニ、三種ノ精氣ヒサシク住シテ增長セシムルカユヘニ、惡行ノ衆生ヲ遮障シテ、行法ノ衆生ヲ護養スルカユヘニ、衆生ヲシテ三惡道ヲ休息セシメ、三善道ニ趣向スルカユヘニ、佛法ヲシテヒサシク住セムコトヲ得シメムカタメノユヘニ、ネムコロニ護持ヲ作スト。佛ノノタマハク。ヨイカナ、ヨイカナ、妙丈夫、ナンチカクノコトクナルヘシト。ソノトキニ佛、百億ノ大

惡行衆生遮止

行法衆生護持

△營イトナム反

梵天王ニ告ケテノタマハク。所有ノ行法、法ニ住シ、法ニ順シテ、惡ヲ厭捨セムモノハ、今コトコトクナンタチカ手ノウチニ付囑ス。ナンタチ賢首、百億ノ四天下、各各ノ境界ニ於テ言說敎令ス、自在ノ處ヲ得テ、所有ノ衆生、弊惡、麁獷、惱害、他ニ於テ慈愍アルコトナシ。後世ノオソレヲ觀セスシテ、刹利ノ心、オヨヒ婆羅門、毗舍、首陀ノ心ヲ觸惱セム、乃至畜生心ヲ觸惱セム。カクノコトキ殺生ヲナス因緣、乃至邪見ヲナス因緣、其ノ所作ニ隨ヒテ非時ノ風雨アラム。乃至、地ノ精氣、衆生ノ精氣、正法ノ精氣、損減ノ因緣ヲナサシメハ、ナンチ遮止シテ善法ニ住セシムヘシ。若シ衆生アリテ、善ヲエムトオモハムモノ、法ヲエムトオモハムモノ、生死ノ彼岸ニ度セムトオモハムモノ、檀波羅蜜ヲ修行スルコトアラムトコロノモノ、乃至般若波羅蜜ヲ修行セムモノ、所有ノ行法、法ニ住セム、衆生オヨヒ行法ノタメニ、事ヲ營(ナ)マムモノ、彼ノモロモロノ衆生、ナンタチ當ニ護持養育スヘシ。若シ衆生アリテ、受持シ讀誦シテ、他ノタメニ演說シ、種種ニ經論ヲ解說セム。ナンタチ當ニ、

施主五利增長

彼ノモロモロノ衆生ト、念持方便シテ、堅固力ヲウヘシ。所聞ニ入テ忘レス、諸法ノ相ヲ智信シテ、生死ヲハナレシメ、八聖道ヲ修シテ三昧ノ根相應セム。若シ衆生アリテ、ナンチカ境界ニ於テ法ニ住セム、奢摩他毗婆舍那、次第方便シテ、モロモロノ三昧ト相應シテ、ネムコロニ三種ノ菩提ヲ修習セムトモトメムモノ、ナンタチ當ニ遮護シ攝受シテ、勤ニ捨施ヲ作シテ、乏少セシムルコトナカルヘシ。若シ衆生アリテ、其ノ飲食衣服臥具ヲホトコシ、病患ノ因緣ニ、湯藥ヲ施セムモノ、ナンタチ當ニ彼ノ施主ヲシテ五利增長セシムヘシ。ナンラオカ五トスル。一ニハ壽增長セム、二ニハ財增長セム、三ニハ樂增長セム、四ニハ善行增長セム、五ニハ慧增長スルナリ。ナンタチ長夜ニ利益安樂ヲエム。是ノ因緣ヲモテ、ナンタチ能ク六波羅蜜ヲミテム、ヒサシカラスシテ一切種智ヲ成スルコトヲエム。トキニ娑婆世界主大梵天王ヲ首トシテ、百億ノモロモロノ梵天王トトモニ、コト〱ク是ノ言ヲ作サク。カクノコトシ、カクノコトシ。大德婆伽婆、ワレラ各々ニ己レカ境界、弊惡、麁獷、惱害ニオ

說偈重說

イテ、他ニオイテ慈愍ノ心ナク、後世ノオソレヲ觀セサラム、乃至我レ當ニ遮障シ、彼ノ施主ト、五事ヲ增長スヘシト。佛ノノタマハク。ヨイカナ、ヨイカナ、ナンチカクノコトクナルヘシ。ソノトキニ、復、一切ノ菩薩摩訶薩、一切ノ諸大聲聞、一切ノ天龍、乃至一切ノ人非人等アリテ、讃メテマフサク。ヨヒカナ、ヨイカナ、大雄猛士、ナンタチカクノコトキノ法、ヒサシク住スルコトヲエ、モロモロノ衆生ヲシテ惡道ヲハナル、コトヲエ、スミヤカニ善道ニオモムカシメムト。　ソノトキニ世尊、カサネテ此ノ義ヲアキラカナラムトオホシテ、偈ヲ說キテノタマハク。

ワレ月藏ニツケテ言ハク　此ノ賢劫ノハシメニイリテ
鳩留佛　梵等四天下ヲ付囑シタマフ
諸惡ヲ遮障スルカユヘニ　正法ノマナコヲ熾然ナラシメ
モロモロノ惡事ヲ捨離シ　行法ノ者ヲ護持シ
三寶ノ種ヲタ、ス　三精氣ヲ增長シ

モロモロノ惡趣ヲ休息シ　モロモロノ善道ニムカヘシム
拘那含牟尼　復大梵王
他化化樂天　乃至四天王ニ囑シタマフ
次後ニ迦葉佛　復梵天王
化樂等ノ四天　帝釋護世王
過去ノモロモロノ天仙ニ囑シタマフ。モロモロノ世間ノタメノユヘニ
モロモロノ曜宿ヲ安置シテ　護持シ養育セシメタマヘリ
濁惡世ニイタリテ　白法盡滅セムトキハ
ワレ獨覺無上ニシテ　人民ヲ安置シマモラム
イマ大乘ノ前ニシテ　シハシハワレヲ惱亂セム
當ニ說法ヲ捨ツヘシ　ワレヲ置キテ護持セシメヨ
十方ノモロモロノ菩薩　一切コトコトク來集セム
天王モ亦　コノ娑婆佛國土ニキタラシメム
ワレ大梵王ニトヒタマハク　タレカムカシ護持セムモノト

魔衆護持誓約（大集經五十二「玄四ノ三十九」）

帝釋大梵天　餘ノ天王ヲ指示ス
トキニ釋梵王　過ヲ導師ニ謝シテ言ハマク
ワレラ王ノトコロヲ所トシテ　一切ノ惡ヲ遮鄣シ
三寶ノ種ヲ熾然ナラシメ　三精氣ヲ増長セム
諸惡ノ朋ヲ遮鄣シテ　善ノ朋黨ヲ護持セシムト 已上抄出

月藏經卷第七、諸魔得敬信品第十ニノタマハク。ソノトキニ復百億ノ諸魔アリ、トモ(倶共)ニ同時ニ座ヨリシテタチテ、合掌シテ佛ニムカヒタテマツリテ、佛足ヲ頂禮シテ、佛ニ白シテマフサク。世尊、ワレラ亦當ニ大勇猛ヲオコシテ、佛ノ正法ヲ護持シ養育シテ、三寶ノ種ヲ熾然ナラシメテ、ヒサシク世間ニ住セシメ、今マ地ノ精氣、衆生ノ精氣、法ノ精氣、ミナコトコトク増長セシムヘシ。若シ世尊聲聞(ノ)弟子アリテ、法ニ住シ、法ニ順シテ、三業相應シテ修行セハ、ワレラミナ、コトコトク護持シ護育シテ、一切ノ所須トモ(之)シキトコロナカラシメムト乃至。此ノ婆娑界ニシテ　ハシメ賢劫ニ入リシトキ

天衆護持誓約

狗樓孫如來　已ニ四天ヲ
帝釋梵天王ニ囑セシメテ　護持シ養育セシム
三寶ノ種ヲ熾然ナラシメ　三精氣ヲ増長セシメタマヒキ
狗那含牟尼　亦四天下ヲ
梵釋諸天王ニ囑シテ　護持シ養育セシム
迦葉モ亦カクノコトシ　已ニ四天下ヲ
梵釋護世王ニ囑シテ　行法ノヒトヲ護持セシメキ
過去ノ諸仙衆　オヨヒ諸天仙
星辰モロモロノ宿曜　亦囑シ分布セシメキ
ワレ五濁世ニ出テテ　諸魔ノアタ(怨)ヲ降伏シテ
大集會ヲナシテ　佛ノ正法ヲ顯現セシム乃至
一切ノモロモロノ天衆　咸クトモニ佛ニ白シテマフサク
ワレラ王ノ處(ヘ)ノトコロニシテ　ミナ正法ヲ護持シ
三寶ノ種ヲ熾然ナラシメ　三精氣ヲ増長セシメムト
モロモロノ病疫　飢饉オヨヒ鬪諍ヲヤメシムト乃至 略出。

日月護持（大集經五十三「玄四ノ四十二」）

提頭賴吒天王護持品ニノタマハク(云)、佛ノノタマハク。日天子、月

四王護持誓約

（大集經五十二毗沙門天王品「玄四ノ四十四」）

天子、ナンチ我法ニ於テ護持シ養育セハ、ナンチヲシテ長壽ニシテ、モロモロノ衰患ナカラシメムト。ソノトキニ、復百億ノ提頭賴吒天王、百億ノ毗樓勒叉天王、百億ノ毗樓博叉天王、百億ノ毗沙門天王アリ、カレラ同時ニ、オヨヒ眷屬ト、座ヨリシテタチテ、衣服ヲ整理シ、合掌シ、敬禮シテ、カクノコトキノ言ヲナサク。大德婆伽婆、ワレラ各各オノレカ天下ニシテ、ネムコロニ佛法ヲ護持シ養育スルコトヲ作サム、三寶ノ種ヲシテ、熾然トシテヒサシク住シ、三種ノ精氣ミナコトコトク增長セムト。乃至我今マ亦、上首毗沙門天王ト同心ニ、此ノ閻浮提ト北方ト（ノ）諸佛ノ法ヲ護持スト已上。略抄

正法護持福報

（大集經五十三「玄四ノ四十六」）

大方等大集月藏經卷第八、忍辱品第十六ニノタマハク。佛ノノタマハク。カクノコトシ、カクノコトシ、ナンチカ言フトコロノコトシ。若シオノレカ、苦ヲイトヒ樂ヲモトムルヲ愛スルコトアラム、當ニ諸佛ノ正法ヲ護持スヘシ。此レヨリ當ニ無量ノ福報ヲ得ヘシ。若シ衆生アリテ我カタメニ出家シ、鬚髮ヲ剃除シテ、袈裟ヲ被服セム、タトヒ戒ヲタモタサラム、カ

出家迫害惡報

△呰ソシル反

レラコトコトク、已ニ涅槃ノ印ノタメニ印セラル、ナリ。若シ復出家シテ戒ヲタモタサラムモノ、非法ヲモテシカウシテ惱亂ヲナシ、罵辱シ、毀呰セム、手ヲモテ刀杖打縛シ、斫截スルコトアラム、若シ衣鉢ヲウハヒ、オヨヒ種種ノ資生ノ具ヲウハ、ムモノ、是ノ人ハ則チ三世ノ諸佛ノ眞實ノ報身ヲ壞スルナリ、則チ一切天人ノ眼目ヲハラフナリ。是人ハ、諸佛所有ノ正法三寶（ノ）種ヲ隱沒セムトオモフカタメノユヘニ、モロモロノ天人ヲシテ利益ヲ得サラシム、地獄ニ墮セムユヘニ、三惡道增長シ、盈滿スルコトヲナスナリト已上。

鬼衆護持誓約

（大集經五十三「玄四ノ四十七」）

又ノタマハク。ソノトキニ復一切天龍、乃至一切（ノ）迦吒富單那、人非人等アリテ、ミナコトコトク合掌シテ、カクノコトキノ言ヲナサク。ワレラ、佛一切聲聞弟子、乃至若シ復タ禁戒ヲタモタサレトモ、鬚髮ヲ剃除シ、袈裟ヲカタニキムモノニオイテ、師長ノオモヒヲ作サム、護持養育シテ、モロモロノ所須ヲアタヘテ、乏少ナカラシメム。若シ餘ノ天龍、乃至迦吒富單那等、其惱亂ヲ作シ、乃至惡心ヲシテマナコヲモテ之

占相遠離 「又ノタマハク」ヨリ「信スヘシ」ニ至ル括弧内ノ文字坂東本ニナシ。

末法魔障

善神護念

△與アタユ反
△戲ケ タワフル反
△咲セウ ワラウ反

（晉譯華嚴經二十四「天八ノ十五左」）

（首楞嚴經六「成ノ十三左」）

△坑アナ

（灌頂經「成六ノ廿六右」）

ヲ視ハ、ワレラコトコトクトモニ、彼ノ天龍富單那等ヲシテ、所有ノ諸相缺減シ、醜陋ナラシメム。彼ヲシテマタワレラ(ト)トモニ住シ、トモニ食ヲアタフルコトヲエサラシメム、亦復同處ニシテ戲咲ヲエシ、カクノコトク擯罰セムト已上。

又ノタマハク。占相ヲハナレテ、正見ヲ修習セシメ、決定シテフカク罪福ノ因縁ヲ信スヘシト。抄出

首楞嚴經ニノタマハク。カレラノ諸魔、彼ノモロモロノ鬼神、カレラノ群邪、亦徒衆有(リ)テ、各各ミツカラ謂ハム、无上道ヲ成(リ)テ、我カ滅度ノ後、末法ノ中ニ、此ノ魔民オホカラム、此ノ鬼神オホカラム、此ノ妖邪オホカラム、世間ニ熾盛ニシテ、善知識トナ(リ)テ、モロモロノ衆生ヲシテ愛見ノ坑ニオトサシメム、菩提ノ路ヲ失シ、詿惑無識ニシテ、オソラクハ心ヲ失セシメム。所過ノトコロニ、其ノ家耗散シテ、愛見ノ魔トナリテ、如來ノ種ヲ失セムト已上。

灌頂經ニノタマハク。三十六部ノ神王、萬億恒沙ノ鬼神ヲ眷屬トシテ、

吉凶妄執遠離

吉凶妄執之罪

邪神禍害

（新譯十輪經六「玄七ノ廿七左」）

（新譯十輪經三(「玄七ノ十七右」）

（福德三昧經中「盈十ノ五左」）

（藥師經「閏五ノ四十左」）

（藥師經「閏五ノ四十一右」）

△蘖ケキ反 ホロフ反

相ヲカクシ、番ニカハリテ、三歸ヲ受クルヒトヲマモルト已上。(陰)(代)

地藏十輪經ニノタマハク。具ニ正シク歸依シテ、一切(ノ)妄執吉凶ヲ遠離セムモノハ、終ニ邪神外道ニ歸依セサレト已上。

又ノタマハク。アルヒハ種種ニ若ハ少、若ハ多、吉凶ノ相ヲ執シテ、鬼神ヲマツリテ、乃至シカウシテ極重(ノ)大罪惡業ヲ生シ、无間罪ニチカツク。カクノコトキノヒト、若シイマタカクノコトキノ大罪惡業ヲ懺悔シ除滅セスハ、出家シテ、オヨヒ、具戒ヲウケシメサラムモ、若ハ、出家シテアルヒハ具戒ヲ受ケシメムモ、スナハチ罪ヲエムト已上。

集一切福德三昧經ノ中ニノタマハク。餘乘ニムカハサレ、餘天ヲ禮セサレト已上。

本願藥師經ニノタマハク。モシ淨信ノ善男子善女人等有(リ)テ、乃至、盡形マテニ餘天ニツカヘサレト。(事)

又ノタマハク。又世間ノ邪魔外道妖蘖ノ師ノ妄說ヲ信シテ、禍福便チ生セム、オソラクハヤ、モスレハ、心ミツカラタ、シカラス、卜問シ

出家不禮鬼神

迦葉捨邪歸正

△禍クワ反ワサワイ反
△卜ホク反ウラ反
△呪シユ反ノル反マシク反
（梵網經下「列ノ十二者」）
△務ム反ツカヘ反
（本行集經四十二「辰九ノ者」）
闍那崛シヤナクツ
多ノ譯
甥字
△舅セイ反オチ反
舅字

テ禍ヲモトメ、種種ノ衆生ヲ殺セム、神明ニ解奏シ、モロモロノ魍魎ヲヨハフテ、福祐ヲ請乞シ、延年ヲネカハムト欲スルニ、終ニウルコトアタハス。愚癡迷惑シテ、邪ヲ信シ倒見シテ、遂ニ横死セシメ、地獄ニ入(リ)テ、出期アルコトナケム。乃至八ニハ、横ニ毒藥厭禱呪咀シ、起屍鬼等ノタメニ、中害セラルト已上抄出。

菩薩戒經ニノタマハク。出家ノ人ノ法ハ、國王ニムカヒテ禮拜セス、父母ニムカヒテ禮拜セス、六親ニ務ヘス、鬼神ヲ禮セスト已上。

佛本行集經第四十二卷ニ、優婆斯那品ニノタマハク。ソノトキニ、彼ノ三迦葉兄弟ニ、ヒトリノ外甥(ノ)螺髻梵志アリ、其ノ梵志ヲ優婆斯那トナツク乃至。ツネニ二百五十ノ螺髻梵志弟子ト共ニ、仙道ヲ修學シキ。彼レ其ノ舅迦葉三人ヲ聞クニ、モロモロノ弟子、彼ノ大沙門ノ邊ニ往詣シテ、阿舅、鬚髮ヲ剃除シ、袈裟衣ヲキルト。見已テ舅ニムカヒテ、シカウシテ偈ヲ說キテ言ハク。舅等ムナシク火ヲマツルコト百年、亦復ムナシク彼ノ苦行ヲ修シキ。今日オナシク此ノ法ヲスツルコト、ナホ蛇

修道覺障

△甥セイ反オイ反
△蛇シヤ反
（起信論「來十ノ四十二者」）
△中アタル反
△數カス反シユ反シハ〳〵反

ノフルキ皮ヲヌクカコトクスルオヤ。ソノトキニ、カノ舅迦葉三人、オナシク共ニ偈ヲモテ、其ノ外甥優波斯那ニ報シテ、カクノコトキノ言ヲナサク。ワレラムカシ、ムナシク火神ヲマツリテ、亦復イタツラニ苦行ヲ修シキ。ワレラ今日此ノ法ヲ捨ツルコト、實ニ蛇ノフルキ皮ヲヌクカコトクスト抄出。

起信論ニ曰ハク。アルヒハ衆生アリテ、善根力ナケレハ、則チ諸魔外道鬼神ノタメニ誑惑セラル。若ハ座中ニシテ形ヲ現シテ恐怖セシム、アルヒハ端正ノ男女等ノ相ヲ現ス。當ニ唯心ノ境界ヲ念スヘシ、則チ滅シテ終ニ惱ヲナサス。アルヒハ天像菩薩像ヲ現シ、亦如來像ノ相好具足セルヲ作シテ、若ハ陀羅尼ヲ說キ、若ハ布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧ヲ說キ、アルヒハ平等、空、无相無願、無怨無親、無因無果、畢竟空寂、是レ眞ノ涅槃ナリト說カム。アルヒハ人ヲシテ宿命過去ノ事ヲ知ラシメ、亦未來ノ事ヲ知ル、他心智ヲエ、辯才無导ナラシム。能ク衆生ヲシテ、世間ノ名利ノ事ニ貪著セシム。又人ヲシテ、シハ〳〵瞋リ、シ

△纒 テン反 マトウ
△乍 タチマチニ反
△琳 リン反
△箴 シム反 イマシム反

ハ〱ヨロコハシメ、性无常ノ准ナラシム。アルヒハオホク慈愛シ、オホクネフリ(睡)、オホク宿ル、オホクヤマヒス、其ノ心懈怠ナリ。アルヒハニハカニ精進ヲオコシテ、後ニハ便チ休廢ス、不信ヲ生シテ、ウタカヒオホク、オモンハカリ(慮)オホシ。アルヒハ本ノ勝行ヲステテ、更ラニ雜業ヲ修セシメ、若ハ世事ニ著セシメ、種種ニ牽纒セラル。亦能ク人ヲシテモロモロノ三昧ノ少分相似セルヲ得シム。ミナ是レ外道ノ所得ナリ、眞ノ三昧ニアラス。アルヒハ復人ヲシテ若ハ一日、若ハ二日、若ハ三日、乃至七日、定中ニ住シテ、自然ノ香味飮食ヲエシム。身心適悅シテ、飢セス、渇セス、人ヲシテ愛著セシム。アルヒハ亦人ヲシテ食ニ分齋ナカラシム、タチマチニオホク、タチマチニスクナクシテ、顏色變異ス。是ノ義ヲモテノユヘニ、行者、常ニ智慧ヲシテ觀察シテ、此ノ心ヲシテ、邪網ニ墮セシムルコトナカルヘシ。當ニツトメテ(勤)正念ニシテ、トラス著セスシテ、則チ能ク是ノモロモロノ業鄣ヲ遠離スヘシ。シルヘシ、外道ノ所有ノ三昧ハ、ミナ見愛我慢ノ心ヲハナレス、世間ノ名利恭敬ニ貪著

釋老優劣
左右勝劣

（辨正論六、十喩篇「露八ノ四十六左七」）

スルカユヘナリト乃至。
辨正論三琳ノ撰ニ曰ク。十喩九箴ノ篇、答ス、李道士十異九迷。外(ノ)一異(ニ)曰ク。太子老君ハ、神ヲ玄妙玉女ニ託シテ、左腋ヲヒラキテムマレタリ。釋迦牟尼ハ、胎ヲ摩耶夫人ニヨセテ、右脇ヲヒラキテイテタリト乃至。內(ノ)一喩ニ曰ク。老君ハ常ニタカヒ(逆)、牧女ニ託テ右ヨリ出ツ。世尊ハ化ニ順ヒテ、聖母ニ因リテ右ヨリイテタマフト。
開士ノ曰ク。盧景裕、戴詵、韋處玄等カ解五千文、オヨヒ梁ノ元帝、周弘政等カ老義類ヲ案スルニ云ク。太上ニ四アリ、イハク三皇オヨヒ堯舜是レナリ。イフココロハ、上古ニ此ノ大德ノ君アリ、萬民ノ上ニノソメリ、カルカユヘニ太上トイフナリ。郭莊(カ)云ク。時ニ之ヲ賢トスル所ノモノヲ君トス、材、世ニ稱セラレサルモノヲ臣トス。老子(ハ)帝ニアラス、皇ニアラス、四種ノカキリ(限)ニ在ラス、何ノ典據アリテカ、タヤスク太上ト稱スルヤ。道家カ玄妙オヨヒ中胎、朱韜、王禮等ノ經、ナラヒニ出塞記ヲカフカフル(撿)ニ云ク。老ハ是レ李母カウメルトコロ、玄妙

化緣廣狹

玉女アリト云ハス。既ニ正説ニアラス、モトモカリノ謬談ナリ。仙人玉錄ニ云ク。仙人ハ妻ナシ、玉女ハ夫ナシ、女形ヲウケタリトイヘトモ、ツイニ產セス、若シコノ瑞アル(ハ)マコトニ嘉トスヘシト曰フ。イツレソセム史記ニモ文ナシ、周書ニモノセス。虛ヲモトメテ實ヲセメハ、矯盲ノ者ノコトハヲ信スルノミト。禮ニ云ク。官ヲシリソキテ位ナキハ、左遷ス。論語ニ云ク。左衽ハ禮ニアラサルナリ。モシ左ヲモテ右ニ勝ルトセム者ハ、道上行道スルニ、ナンソ左ニメクラスシテ、シカウシテ還(リ)テ右ニメクルヤ。國ノ詔書ニミナ云ク。右ノコトシ、(ト)ナラヒニ天ノ常ニシタカフナリ乃至。

外ノ四異(ニ)曰ク。老君ハ文王ノ日、隆周ノ宗師タリ。釋迦ハ莊王ノトキ、罽賓ノ敎主タリ。

內ノ四喩ニ曰ク。伯揚ハ、職、小臣ニオリ、カタチケナク藏吏ニアタレリ、文王ノ日ニ在ラス、亦隆周ノ師ニアラス。牟尼ハ位、太子ニ居シテ、身、特尊ヲ證シタマヘリ。昭王ノ盛年ニ當レリ、閻浮ノ敎主タリト乃至。

化迹先後

△壬 シン反

△壬申 ニン反 シン反

遷謝顯晦

△叫 サケフ反 ケフ反

外ノ六異ニ曰ク。老君ハ世ニ降シテ、ハシメ周文ノ日ヨリ、孔丘ノ時ニオハレリ。釋迦ハハシメテ淨飯ノイヘニ下生シテ、我カ莊王ノ世ニ當レリ。

內ノ六喩ニ曰ク。迦葉ハ桓王丁卯ノ歲ニムマレテ、景王壬午ノ年ニオフ。孔丘ノ時ニオフトイヘトモ、姬昌ノ世ニイテス。調御ハ昭王甲寅ノ年ニ誕シテ、穆王壬申ノ歲ニ終フ、是レ淨飯ノ胤タリ、本ト莊王ノサキニイテタマヘリ。

開士ノ曰ク。孔子周ニイタリテ、老聃ヲ見テ禮ヲ問フ、焉ニ史記ニ具サニアラハル。文王(ノ)師タルコト、則チ典證ナシ、周ノ末ニイテタリ。ソノコト周ノ初メニタツヌヘシ。史文ニノセス乃至。

外ノ七異ニ曰ク。老君初メテ周ノ代ニムマレテ、晚ニ流沙ニユク、始終ヲハカラス、方所ヲ知ルコトナシ。釋迦ハ西國ニムマレ、彼ノ提河ニ終リヌ、弟子ムネヲ提チ、群胡オホキニサケフ。

內ノ七喩ニ曰ク。老子ハ賴鄉ニムマレテ、槐里ニハフラル。秦佚ノ弔

出生勝劣

△吊テウ反 トフラウ反
△樹シュ反 シウ反 ウヘキ反 キ反
△秘ヒ反 ヒソカニ反
△戎シュ反 ニシノエヒス反
△狄テキ反 キタノエヒス反
△右イウ
△介カイ反 スケ

ヲツマヒラカニス、責遁天ノ形ニ在リ。瞿曇ハ彼ノ王宮ニ出テ、慈鵠樹ニ隱クレタマフ、漢明ノ世ニツタワリテ、秘ニ蘭臺ノ書ニマシマス。

開士(ノ)曰ク。莊子(ノ)內篇ニ云ク。老聃死シテ秦佚トフラフ。焉コニ三タヒサケムテ出ツ。弟子アヤシムテ問フ、夫子ノトモカラニアラサルカ。秦佚曰ク。サキニ(向)吾入リテ少者ヲ見ルニ、之ヲ哭ス、其ノ父ヲ哭スルカコトク、老者之ヲ哭ス、其ノ子ヲ哭スルカコトシ。イニシヘハ之ヲ遁天ノ形ト謂フ。始メハオモヘラク其ノ人ナリ、而ニイマ非ナリ。遁ハ隱ナリ、天ハ免縛ナリ、形ハ身ナリ。イフコ、ロハ、ハシメ老子ヲモテ免縛形ノ仙トス、イマ則チ非ナリ。嗟ソノ諂典(情)人ノコ、ロヲ取ル、コトサラニ死ヲマヌカレス、我友ニアラスト乃至。

內(ノ)十喩外ノ十異ニ答フ。外ハ生ヨリ左右異ナル一。內ハ生ヨリ勝劣アリ。內ニサトシテ(喩)曰ク。左衽ハ則チ戎狄ノタフトムトコロ、右命ハ中華ノタ(尚)トムトコロトス。カルカユヘニ春秋ニ云ク。冢卿ハ命ナシ、介卿ハ之アリ、亦左ナラスヤ。史記ニ云ク。藺相如ハ功大キニシテ、位

德位高卑

△藺リン反
△魏クヰ反
△優マサリテ反 ウ反
△謐ヒチ反
△押ヒトシ反
△嵆ケイ反
△操アヤツル反
△无キ

鹿(廉カ)頗カ右ニ在リ、之ヲハツ。又云ク。張儀相(ハ)秦ヲ右ニシテ、魏ヲ左ニス、犀首相(ハ)緯ヲ右ニシテ、魏ヲ左ニス。蓋ニ云ク。(便)タヨリナラスヤ。禮ニ云ク。左道亂群オハ之ヲ殺ス。アニ右ハマサリテ而シテ左ハオトレルニアラスヤ。皇甫謐カ高士傳ニ云ク。老子ハ楚ノ相人、溫水ノキ(陰)タニイエトス、事ヲ常從子ニヒトシ。常子疾アルニ及ヒテ、李耳往キテヤマヒヲ問フ。焉ニ嵆康ノ云ク。李耳涓子ニシタカヒテ、九仙ノ術ヲマナフ。撥スルニ太史ニ云ク。等カ衆書ヲカクトモ、老子左腋ヲヒライテ(剖)ムマルトイハス。既ニ正シクイテタルコトナシ、承信スヘカラサルコトアキラケシ。アキラカニシリヌ、戈ヲフルヒ、翰ヲアヤツレハ、ケタシ文武ノ先、五无(氣カ)三光ハ、マコトニ陰陽ノハシメナリ。是ヲモテ釋門ニハ右ニ轉スルコトマタ(且)人用ヲタノシクス。張陵(首)左道ニス、逆天ノ常ニ信ス。イカントナレハ、釋迦、无緣ノ慈ヲ超エテ、有機ノ召ニ應ス、其ノ迹ヲカタルナリ乃至。

夫レ釋氏ハ、天上天下ニ介然トシテ其ノ尊ニ居ス、三界正道卓爾ト

法門漸頓

△唉 セウ反 ワラウ反

△扣 タタク反

シテ其ノ妙ヲ推ス乃至。
外論ニ曰ク。老君(ヲ)範ト作ス、タタ孝タタ忠、世ヲスクヒ人ヲ度ス。慈ヲ極ハメ愛ヲ極ハム。是ヲモテ聲教永クツタヘ、百王アラタマラス。玄風長クカフラシメテ、萬古タカフコトナシ。コノユヘ(所以)ニ國ヲオサメ家ヲオサムルニ、常然タリ楷式タリ。釋教ハ義ヲ棄テ親ヲ棄テ、仁ナラス孝ナラス。闍王父ヲコロセル、翻シテ(悖)トカナシト說ク。調達、兄ヲ射テ无間ニ罪ヲ得。此ヲモテ凡ヲミチヒク、更ラニ惡ヲマスコトヲナス。斯ヲモテ(用)世ニノリトスル、何ソ能ク善ヲ生セムヤ。此レ逆順(長)ノ異十ナリ。
內論ニ曰ク。義ハ乃チ道德ノイヤシウ(卑)スルトコロ、禮ハ忠信ノウスキヨリ生ス。璅仁(ハ)匹婦ヲソシリ、大孝ハ不匱ヲ存ス。然シテ凶ヲムカヒテウタヒワラフ、中夏ノカタチ(容)ニ乖ス、喪ニノソンテ盆ヲタタク、華俗ノオシヘニアラス。原壤母死シテ騎棺シテソシラス、子桑死スルトキ子貢トフラフ、四子アヒミテウタフ、シカウシテ、孔子トキニマツリチタスケテワラフ、莊子妻死ス、ホトキチタヽキテ歌フナリ。カルカユヘニ、之ヲオシフルニ孝ヲモテス、天下ノ人父タルヲ敬スルユヘナリ。之ヲオシフルニ忠ヲモテス、天下ノ人君

周世無機

(辨正論六、十箴篇「叢八ノ五十二左」)

タルヲ敬スルユヘナリ。化、萬國ニアマネシ、乃チ明辟ノイタレルナリ。仁、四海ニアラハル、マコトニ聖王ノ臣孝ナリ。佛經ニノタマハク。識體六趣ニ輪廻ス、父母ニアラサル(コト)ナシ、生死三界ニ變易ス、タレカ怨親ヲワキマエム。又ノタマハク。无明慧眼ヲオホフ、イマタ生死ノ中ニユカス。ユキキタリテ作ストコロ更ニタカヒニ父子タリ。怨親シハ〳〵知識タリ、知識シハ〳〵怨親タリ。是ヲモテ沙門俗ヲステ、眞ニオモムク、庶類ヲ天屬ニヒトシウス。普クタヽシキ心チ行シテ、アマネキシタシキコヽロサシチヒトシクス。榮ヲステ、道ニツク(卽)、含氣ヲ己親ニヒトシウス。且道ハ清虛ヲタトフ(尙)、爾ハ恩愛ヲオモクス、法ハ平等ヲタフトフ、爾怨親ヲキラハムヤ。アニマトヒニアラスヤ。勢競親ヲワスル(遺)。文史明事、齋桓楚穆、此レソノトモカラナリ。モテ聖ヲソシラムトオモフ、アニアヤマレルニアラスヤ。爾レ道ノ劣十ナリ乃至。二皇、化ヲスヘテ(統)、須彌四域經ニ云ク、應聲菩薩チ伏羲トス、吉祥菩薩チ女媧トスルナリ、淳風ノハシメニオリ、三聖言ヲタテ、空寂所問經ニ云ク、迦葉チ老子トス、儒童チ孔子トス、光淨チ顏囘トスルナリ、已澆ノスエヲオコス、玄虛沖一ノムネ、黃老其ノ談ヲサカリニス。詩書禮學

△階カイ反ハシ反
△梯シナヰイ反テイ反ハシ反
△冥ミヤウ反カスカニ反
△蓋ケタシ反
△苻カナフ
△聾リヨウ反ミヽシヰ反
△邇シユ反
△赫カヽヤカス
△迅シン反トシ反
△雷ライ反イカツチ反

(維摩經上「黄七ノ十五左」)

ノ文、周孔其ノ敎ヲタカクス、謙ヲアキラカニシ、質ヲマモル、乃チ聖ニノホルニ階梯ナリ、三畏五常ハ人天ノ由漸トス。ケタシ冥ニ佛理ニカナフ、(待)正辨極談ニアラスヤ。猶ヲ道ヲ瘖聾ニソシル、方ヲオシマトイテ、(塵)遠邇ヲキワムルコトナカレ、律(律カ)ヲ菟馬ニ問フ(ニ)、ワタルヲ知リテ淺深ヲハカラス。斯ニ因リテ談スルニ、殷周ノ世ハ、釋敎ノヨロシク行スヘキトコロニアラサルナリ。ナヲ炎威(輝)ヒカリヲカヽヤカス、童子、目ヲタシクシテ視ルコトアタハス、迅雷フルヒウツ、孀夫ノ耳ヲハリテキクコトアタハス。是ヲモテ河池(涌、ユ)ワキウカフ、昭王神ヲ誕スルコトヲオソル、雲霓色ヲ變ス、穆后聖ヲウシナハムコトヲヨロコフ。周書異記ニ云ク、昭王二十四年四月八日、江河泉水コトコトク泛漲セリ、穆王五十二年二月十五日暴風タチテ樹木オレ、天クモリクモクラシ白虹ノ怪ナリ。アニヨク葱河ヲコエテ化ヲウケ、雪嶺ヲコエテマコトヲイタサムヤ。淨名ニノタマハク(云)、是レ盲者マウアヘリ、日月ノトカ(咎)ニアラス。タマ〳〵其ノ鑿竅ノ辨ヲキワメント欲ス、オソラクハワカ子混沌ノ性ヲイタム。ソレ知ルトコロニアラス、其ノ盲一ナリ。

建造像塔

內ニハ像塔ヲ建造ス(ル)指ノ二。漢明ヨリ已下、齋梁王公守牧、淸信士女、オヨヒ比丘、比丘尼等ニオフ(訖)マテ冥ニ至聖ヲ感シ、國ニ神光ヲミ(覩)ルモノ、凡ソ二百餘人、迹ヲ萬山ニ見、ヒカリヲ滬瀆ニ浮カヘ、淸臺ノモトニ滿月ノカタチヲ覩、雍門ノ外ニ、相輪ノカケヲ覩ルカコトキニイタリテハ、南平ハ應ヲ瑞像ニエ、文宣ハ夢ヲ聖牙ニ感ス、蕭后ヒトタヒ鑄テ剋成シ、宗皇四タヒ模シテナラス、其ノ例ハナハタオヽシ、ツフサニノフ(陳)ヘカラス。アニナムチカ無目ヲモテ、シカウシテ彼ノ有靈ヲキラ(斥)ハムヤ。然ルニ儒トシテソナハラサルモノナシ、之ヲ謂ヒテ涅槃トス。道トシテ通セサルモノナシ、之ヲナツケテ菩提トス。智トシテアマネカラサルモノナシ、之ヲ稱シテ佛陀トス。此ノ漢語ヲモテ彼ノ梵言ヲ譯ス、則チ彼此ノ佛、照然トシテ信スヘキナリ。ナニヲモテカ之ヲ明ストナラハ、夫レ佛陀トイフハ、漢ニハ大覺トイフナリ。菩提ヲハ漢ニハ大道トイフナリ、涅槃ヲハ漢ニハ无爲トイフナリ。シカルニ吾子ヒメモスニ菩提ノ地ヲフンテ、大道ヲシラス、卽チ菩提ノ異號ナリ。カタ

(終日)

敎爲治本

（正法念經十八「宿ニ二左三右三左」）

チヲ大覺ノ境ニウケテ、イマタ大覺ヲナラハス、卽チ佛陀ノ譯名ナリ。カルカユヘニ莊周公。マタ大覺アレハ、シカウシテ後ニ其ノ大夢ヲシルナリ。郭カ註ニ云ク。覺ハ聖人ナリ、イフコヽロハ、患コヽロニアルハミナ夢ナリ。註ニ云ク。夫子子游ト、イマタイフコトヲワスレテ、神解スルコトアタハス、カルカユヘニ大覺ニアラサルナリ。君子ノ曰ク。孔丘ノ談、コヽニ亦ツキヌ矣。涅槃寂照、識トシテサトルヘカラス、智ヲシテ智ルヘカラス、則チ言語斷エテ、シカウシテ心行滅ス、カルカユヘニ言ヲワスルヽナリ。法身ハ乃チ三點四德ノ成スルトコロ、蕭然トシテ無累ナリ、カルカユヘニ解脫ト稱ス。此レ其ノ神解トシテ患息スルナリ。夫子聖ナリトイヘトモ、ハルカニモテ功ヲ佛ニユツレリ。イカントナレハ、劉向カ古舊二錄ヲ按スルニ、云ク。佛流中夏ヲヘテ一百五十年ノヽチ、老子方ニ五千文ヲ說ク。シカルニ周、老トナラヒニ佛敎ノ所說ヲ見ル、言敎往往タリ。驗ツヘシ乃至。正法念經ニノタマハク(云)。人戒ヲタモタサレハ、諸天減少シ、阿修羅サカンナリ、善龍チカラナシ、惡龍

大道君所居國

△稔ネイ反
△穀コク反

（辯正論六、氣爲道本篇「露八ノ五十七右」）

チカラアリ。惡龍チカラアレハ、スナワチ霜雹ヲクタシテ、非時ノ暴風疾雨(アリテ)、五穀ミノラス、疾疫キヨイオコリ、人民飢饉ス。タカヒニ相殘害ス。若人戒ヲタモテハ、多ク諸天、威光ヲ增足ス。修羅減少シ、惡龍チカラナシ、善龍チカラアリ。善龍チカラアレハ、風雨時ニ順シ、四氣和暢ナリ。甘雨降リテ、稔穀ユタカナリ。人民安樂ニシテ、兵戈戰息ス。疾疫行ハレサルナリ乃至。君子ノ曰ク。道士大霄カ隱書、元上カ眞書等ニ云ク。元上大道君、治五十五重无極大羅天ノ中チ、玉京ノウヘ、七寶ノ臺、金床玉机ニ在リ、仙童玉女ノ侍衞スルトコロ、卅二天三界ノ外ニ住ス。神仙五岳圖ヲ按スルニ云ク。大道天尊ハ、大玄都、玉光州、金眞ノ郡、天保ノ縣、元明ノ鄕、定志ノ里ヲ治ス、災オヨハサルトコロナリ。靈書經ニ云ク。大羅ハ是レ五億五萬五千五百五十五重天ノ上天ナリ。五岳圖ニ云ク。都トハ都ナリ、太上大道(ハ)道ノ中ノ道ナリ、神明君最靜ヲ守リテ、太玄ノ都ニオリ。諸天內音ニ云ク。天(ト)諸仙ト樓都ノツヽミヲナラス、玉京ニ朝晏シテ、モテ道君ヲタノシマシムト。

道教經綸

（辯正論八、出道僞謬篇「露八ノ六十七左」）

道士ノ上カルトコロノ經ノ目ヲ案スルニ、ミナ云ク。宋人陸脩靜ニヨリテ、シカウシテ一千二百廿八巻ヲツラネタリ。モト雜書諸子ノ名ナシ。シカルニ道士今ツラヌルニ、乃チ二千四十巻アリ。其ノ中ニ多ク漢書藝文志ノ目ヲトリテ、ミタリニ八百八十四巻ヲ註シテ、道ノ經論トス乃至。陶朱ヲ案スレハ、卽チ是レ范蠡ナリ。マノアタリ越ノ王勾踐ニツカヘテ、君臣悉ク呉ニトラワレテ、屎ヲナメ尿ヲノンテ、亦モテハナハタシ矣。又復范蠡ノ子ハ、齊ニコロサラル。父既ニ變化ノ術アラハ、何ソモテ變化シテ之ヲマノカル、コトアタハサル。造立天地ノ記ヲ案スルニ稱スラク。老子、幽王ノ皇后ノハラノ中ニ託生ス。卽チ是レ幽王ノ子ナリ。又身柱史タリ、復是レ幽王ノ臣ナリ。化胡徑ニ言ク。老子漢ニ在（リ）テハ東方朔トナス。若シアキラカニシカラハ、知リヌ、幽王犬戎ノタメニコロサル、アニ君父ヲ愛シテ神符ヲアタヘテ、君父ヲシテ死セサラシメサルヘケムヤ乃至。陸脩靜カ目錄ヲ指ス、既ニ正本ナシ、何ソアヤマリノハナハタシキヲヤ。シカルニ脩靜目ヲナスコト、ステニ是レ大僞ナリ。

捨邪歸正

（辯正論八、歸心有地篇「露八ノ七十右」）
（北本涅槃經十一「盈五ノ五十右」）
（南本涅槃經十二「盈七ノ五十一右」）

清信佛弟子

（成實論十一「藏三ノ六十七左」）

今玄都錄、復是レ僞中ノ僞ナリ矣乃至。

又云ク。大經ノ中ニ說カク。道ニ九十六種アリ、唯佛ノ一道是レ正道ナリ、其ノ餘ノ九十五種ニオイテハ、ミナ是レ外道ナリト。朕、外道ヲ捨テ、モテ如來ニツカフ。モシ公卿アリテ、能ク此ノ誓ニ入ルモノハ、オノオノ菩薩ノ心ヲオコスヘシ。老子周公孔子等、是レ如來ノ弟子トシテ化ヲナストイヘトモ、既ニ邪ナリ。タ、是レ世間ノ善ナリ、凡ヲヘタテ、聖ト成スコトアタハス。公卿百官、侯又王宗室、ヨロシク僞ヲヒルカヘシ（テ）眞ニツキ、邪ヲ捨テ正ニ入ルヘシ。カルカユヘニ經教成實論ニ說テ云ク。若シ外道ニツカヘテ心重ク、佛法ハ心カロシ、卽チ是レ邪見ナリ。若シ心一等ナル、是レ无記ニシテアタラス。若シ善惡佛ニツカヘテ、孝子ニコハクシテ心スクナキハ、乃チ是レ清信ナリ。清トイフハ清ハ是レ表裏倶ニキヨク、垢穢惑累ミナ盡クス。信ハ是レ正ヲ信シテ邪ナラサルカユヘニ、清信佛弟子トイフ。其ノ餘ヒトシクミナ邪見ナリ、清信ト稱スルコトヲエサルナリ。乃至。老子ノ邪風ヲ捨テ、法ノ眞教ニ入

流セヨトナリ。已上。抄出

諸佛舒舌證誠意（法事讃下八右）

光明寺ノ和尚ノ云ク。上方ノ諸佛、恒沙ノコトシ、還リテ舌相ヲノヘ（舒）タマフコトハ、娑婆ノ十惡五逆、多ク疑謗シ、邪ヲ信シ、鬼ニツカヘ、

邪信災禍

神魔ヲアカシメテ、ミタリニオモフテ恩ヲモトメテ、福アラムトオモヘハ、災（陵）鄣禍ヨコサマニウタ、イヨ〳〵多シ。連年ニヤマヒノ床枕ニ臥ス。ミ、シヒ、メシヒ、アシオレ（脚）、手ヒキオル神明ニ承事シテ、此ノ報ヲ得ルモノ、タメナリ。イカンソステ、彌陀ヲ念セサラムト已上。

三歸（法界次第上ノ下「陽九ノ五十六右」）（北本涅槃經八「盈五ノ卅九右」）（南本涅槃經八「盈七ノ四十左」）（北本涅槃經八「盈五ノ十九左」）（南本涅槃經八「盈七ノ四十左」）

天台ノ法界次第ニ云ク。一ニハ佛ニ歸依ス。經ニ云ク。佛ニ歸依セムモノ、ツイニ更テ其ノ餘ノモロモロノ外天神ニ歸依セサレト。又云ク。謂ク佛ニ歸依セムモノ、終ニ惡趣ニ墮セスト云ヘリ。二ニ法ニ師依ス。謂ク、大聖ノ所説、若ハ敎若ハ理、歸依シ修習セヨトナリ。三ニ僧ニ歸依ス。謂ク、心家ヲ出テタル三乘正行ノ伴ニ歸スルカユヘニ經ニノタマハク（云）、永ク復更テ其ノ餘ノモロモロノ外道ニ歸依セサルナリト已上。

祭祀權方（樂邦文類三ノ十二右）

慈雲大師ノ云ク。シカルニ祭祀ノ法ハ、天竺ニハ韋陀支那祀典トイヘリ。既ニイマタ世ニノカレス、眞ヲ論スレハ俗ヲコシ（誘）ラフル權方ナリト。

餓鬼相狀（天台四敎儀「陽十ノ卅七右」）

高麗ノ觀法師ノ云ク。餓鬼道、梵語ニハ閣黎多、此ノ道亦諸趣ニ徧ス。福德アルモノハ、山林塚廣神ト作ル、福德無キモノハ、不淨處ニ居シ、飮食ヲエス、常ニ鞭打ヲ受ク。河ヲフサ（塞）ヤ海ヲフサキテ、苦ヲウクルコト無量ナリ。諂誑ノ心意ナリ。下品ノ五逆十惡ヲ作リテ、此ノ道ノ身ヲ感スト已上。

餓鬼名義（天台四敎儀集解中十一右）

△餓鬼

神智法師釋シテ云ク。餓鬼道ハ、ツネニウエタルヲ餓ト曰フ、鬼ノ言ハ尸ニ歸ス。子ノ曰ク。イニシヘハ人死トナック、歸人トス。マタ天神ヲ鬼ト云フ、地神ヲ祇ト曰フナリ乃至。カタチアルイハ人ニニタリ、アル（或）ヒハ獸等ノコトシ。心、正直ナラサレハ、ナツケテ諂誑トスト。

鬼神所屬（觀經扶新論廿八左）（止觀論八ノ三「陽五ノ卅二右」）

大智律師ノ云ク。神ハ謂ク鬼神ナリ、スヘテ四趣天修鬼獄ニオサ（惣）ムト。

度律師ノ云ク。魔ハ卽チ惡道ノ所收ナリト。

止觀ノ魔事境ニ云ク。二ニハ魔ノ發相ヲアカスニハ、管屬ニ通シテミ

三種覺
世出世覺障 （往生要集中卒十三）
不事鬼神 （論語六先進篇）
【後序】
聖淨盛衰 △𠔃ケイ反
道俗昏迷
興福寺讒奏 後ノ鳥羽ノ院ト號ス 土御門ノ院ト號ス
△丁卯 テイ反 ハウ反
師資受刑 △科 クワ反 シナワイ反 △猥 ミタリ カハシク反

ナ稱シテ魔トス、クワシク枝異ヲタツヌレハ、三種ヲイテス。一ニハ慢帳鬼、二ニハ時媚鬼、三ニハ魔羅鬼ナリ。三傳ノ發相各各不同ナリト。

源信止觀ニ依テ云ク。魔ハ煩惱ニ依テ、菩提ヲサマタクルナリ。鬼ハ病惡ヲオコス、命根ヲウハフ已上。

論語ニ云ク。季路(問)トハク、鬼神ニツカヘムカト。子ノ曰ク。ツカフルコトアタハス、人イツクンソ能ク鬼神ニツカヘムヤト已上抄出。

ヒソカニオモンミレハ、聖道ノ諸敎ハ行證ヒサシクスタレ、淨土ノ眞宗ハ證道今サカンナリ。シカルニ諸寺ノ釋門、敎ニクラクシテ、眞假ノ門戶ヲ知ラス。洛都ノ儒林行ニマトフテ、邪正ノ道路ヲワキマフコトナシ。斯ヲモテ興福寺ノ學徒、太上天皇諱尊成今上諱爲仁聖曆承元丁ノ卯ノ歲、仲春上旬ノ候ニ奏達ス。　主上臣下、法ニソムキ義ニ違シ、イカリヲ成シ怨ヲムスフ。コレニ因テ、眞宗興隆ノ太祖源空法師、ナラヒニ門徒數輩、罪科ヲカムカヘス、ミタリカワシク死罪ニツミス(坐)。アルヒハ僧儀ヲアラタメテ、姓名ヲタマフテ遠流ニ處ス、予ハ其ノヒトツ

勅免歸洛 佐土院
師主入滅
捨雜歸正
選擇集附囑
眞影恩許

ナリ。シカレハ、ステニ、僧ニアラス、俗ニアラス、是ノユヘニ禿ノ字ヲモテ姓トス。空師、ナラヒニ弟子等、諸方ノ邊州ニツミシテ、五年ノ居諸ヲヘタリキ。　皇帝諱守成聖代建曆元年、辛ノ未ノ歲、子月ノ中旬第七日ニ勅免ヲカウフリテ、入洛シテ已後、空(ハ)洛陽ノ東山ノ西ノフモト、鳥部野ノキタノホトリ、大谷ニ居シタマヒキ。オナシキ二年壬申、寅月ノ下旬第五日、午時入滅シタマフ。奇瑞稱計スヘカラス、別傳ニ見エタリ。

シカルニ愚禿釋ノ鸞、建仁辛酉ノ曆、雜行ヲステ、本願ニ歸ス。元久乙ノ丑ノトシ、恩恕ヲ蒙フ(リ)テ選擇ヲ書シキ。オナシキ年ノ初夏中旬第四日ニ、撰擇本願念佛集ノ內題ノ字、ナラヒニ南无阿彌陀佛往生之業念佛爲本ト、釋ノ綽空ノ字ト、空ノ眞筆ヲモテ之ヲ書カシメタマヒキ。オナシキ日、空ノ眞影マウシアツカリテ、圖畫シタテマツル。オナシキ二年閏七月下旬第九日、眞影ノ銘ニ眞筆ヲモテ、南无阿彌陀佛ト、若我成佛、十方衆生、稱我名號、下至十聲、若不生者、不取正覺、彼佛今

選擇集讃嘆

感荷恩德

△涉ワタル反

△抑オサエテ反

△徵チ字反 アラハス

△嘲アサケリ反 テウ反

現在成佛、當知本誓重願不虚、衆生稱念必得往生ノ眞文トヲカ、シメタマヒキ。又夢ノ告ニ依テ、綽空ノ字ヲ改メテ、オナシキ日、御筆ヲモテ、名ノ字ヲ書カシメタマヒオハリヌ。本師聖人、今年ハ七旬三ノ御歳ナリ。選擇本願念佛集ハ、禪定博陸（月輪殿兼實 法名圓照）ノ教命ニ依テ、選集セシメルトコロナリ。眞宗ノ簡要、念佛ノ奧義、斯レニ攝在セリ。見ルモノサト（諭）リヤスシ。マコトニ是レ希有最勝ノ華文无上甚深ノ寶典ナリ。年ヲワタリ日ヲワタリテ、其ノ教誨ヲ蒙フルノ人千萬トイヘトモ、親ト云ヒ疎ト云ヒ、此ノ見寫ヲウルノトモカラ、甚タモテカタシ。シカルニ既テニ製作ヲ書寫シ、眞影ヲ圖畫セリ。是レ專念正業ノ德ナリ、是レ決定往生ノ徵ナリ。仍テ悲喜ノ淚ヲオサヘテ、由來ノ緣ヲ註ス。

ヨロコハシキカナ、心ヲ弘誓ノ佛地ニタテ、念ヲ難思ノ法海ニナカス。フカク如來ノ矜哀ヲ知リテ、良ニ師教ノ恩厚ヲアヲク。慶喜イヨ〳〵至リ、至孝イヨ〳〵重シ。茲レニ因テ眞宗ノ詮ヲ鈔シ、淨土ノ要ヲヒロフ。唯佛恩ノフカキコトヲ念シテ、人倫ノアサケリヲハチス（恥）。若シ斯ノ書ヲ見聞セムモノ、信順ヲ因トシ、疑謗ヲ緣トシテ、信樂ヲ願力ニアラハシ、妙果ヲ安養ニアラハサムト。

（安樂集上三右）

安樂集ニ云ク。眞言ヲ採リアツメテ、往益ヲ助修セシム。イカントナレハ、サキニ生セムモノハノチヲミチヒキ、ノチニ生セムヒトハサキヲトフラヘ、連續无窮ニシテ、ネカハクハ休止セサラシメムト欲ス。无邊ノ生死海ヲ盡サムカタメノユヘナリト已上。

シカレハ、末代ノ道俗、アフイテ信敬スヘキナリ。シルヘシ。

（唐譯華嚴經七十五「天四ノ七十右」）

華嚴經ノ偈ニ云フカコトシ。若シ菩薩種種ノ行ヲ修行スルヲ見テ、善不善ノ心ヲ起スコトアリトモ、菩薩ミナ攝取スト已上。

顯淨土眞實教行證文類六

【奥書】

弘安陸年(癸未)二月二日釋明性讓預之(別筆)

沙門性信(花押)(別筆)

圖版略解題

第一圖―第四圖

阪東御眞本教行信證　六帖　大谷派本願寺藏

本書は夙に親鸞聖人の御草本として名高く、或は稱して阪東御眞本ともいふ。その傳來をいへば東京市阪東報恩寺、その所藏主をいへば京都大谷派本願寺にして、今現に東京淺草別院寶庫に保管せらる。予大正十年十二月十八日、同別院に於て親しく是れを手にし拜見することを得たりといへども、頗る短時間にして今やその印象の稀薄なるを恨む。しかし幸にも直接臨寫せられたるもの現に三本傳來せり。一は舊高倉學寮の所傳、一は越前丹山文庫の所傳、一は本山內事局秘藏本これなり。舊高倉學寮所傳のものは、現に大谷大學圖書館に藏する所にして、予親しく報恩寺本を檢するに及び、該學寮本は殆ど原本の眞を傳へ、一見完全なる影寫と思はるゝ程に忠實に臨寫(見取り)せるものなることを確め得たり。今本典を飜譯するに當り、直に原本に依ることを得ざりしは多少の慊厭たるものなきにあらねど、信憑するに足るべき舊高倉學寮本に依りたるを、せめてもの喜びとする所也。予、この臨寫本と原本所覧の記臆をたどることによりて、茲に一言解題を施さんとす。

そも／＼原本は方冊本六冊より成り、大さ美濃半紙本に似たり。原寸竪九寸五分、横七寸五分

あり。表紙は當時の錦織地を以て飾らる。用紙の種類は凡そ三種にして、美濃紙最も多く、所謂寫經紙（鳥の子樣のもの）、並に綸旨紙（薄藍色）これに次ぐ。第一冊敎行二卷には五葉の寫經紙を交へ、第二冊信卷には四十六葉の綸旨紙を插入し、第三冊以下は全部美濃紙を以つて成立せり。各頁の行數は八行を普通とし、六、七、若しくは九行の所もありて一定せず。往々斷片の用紙ありて、僅かに二三行を存することあり。而して一行の字數は、十四字より十八字に至り必ずしも一定せず。

今各冊の體裁を檢するに、

第一冊　敎行二卷、總序及敎卷は墨附殘闕五紙、行卷は六十六紙、內一紙斷片。最初の表紙缺損せるを以て、外題の有無を知らず。左の奥書あれども本文と別筆なり。

弘安癸未二月二日　釋明性讓預之

第二冊　信卷、墨附八十八紙、內三紙斷片、後世の刊本の如く本末を分たず。たゞ行を改むるのみなり。左の外題あれども本文と別筆なり。奥書なし。

顯淨土眞實信文類三

而して表紙見返には、信卷末所引の涅槃經の文、「復有一臣名悉知義」の八字と、「昔者有王」より「無一王生愁惱者」に至る一百六字を拔き書きせり。本文と同筆なり。

第三冊　證卷　墨附二十七紙、外題、表紙の中央に在りて、その傍に「釋蓮位」の名字を置く。本文と同筆なり。奥書なし。

顯淨土眞實證文類四

釋　蓮　位

第四冊　眞佛土卷、墨附三十七紙、左の外題及び名字あり。本文と同筆なり。奥書なし。

顯淨土眞佛土文類五

釋　蓮　位

第五冊　化身土卷本、墨附五十四紙、左の外題は本文と別筆にして、第二冊信卷の外題と同筆なり。但し內題には本の字なし。奥書なし。

顯淨土方便化身土文類六本

第六冊　化身土卷末、墨附五十紙、內斷片四紙。外題なくして、本文は初紙左面より始まる。內題には末の字なく、左の奥書あり。

弘安陸癸未二月二日　釋明性讓預之

沙門　性　信（花押）

共に本文と別筆にして、前の行「弘安陸」己下は第一冊行卷と同筆、後の行「沙門」己下更に別筆なり。

これによりて見れば、外題と奥書とには、本文と別筆なるもの三種あり。而して本文は首尾同一筆にして、その筆蹟は他の親鸞聖人眞蹟に比するに殆ど異なるところなし。本書が果して著者自筆の原本なりや否やに就て、一時は門外史學者の中に此を疑議せしものありしといへども、今や、幾多の書史學的根據を以て、そが眞本なることに一點の疑ふべき餘地なきを立證しうべきのみならず、又以て本書が祖聖の眞蹟如何を決定すべき標準たるに至れり。

報恩寺所傳によれば、貞永元年宗祖親鸞聖人御歸洛の途上、伊豆箱根山に於て直弟性信房に附屬せしめたまふ所なりといふ。(『二十四輩次第記』の説)。

思ふに箱根に於ける御附屬は兎も角として、首卷と末卷との奥に記されたる識語、「弘安陸癸未二月二日釋明性讓預之」の語より推察すれば、本書が一時、聖人の直弟なる下總の住人、善性の門人明性(三河妙源寺所傳「宗祖門侶交名帳」)なるものゝ手に渡りしを知るを得べし。たとひ末卷奥に記されたる識語「沙門性信花押」の文字の存せりといふ一個の證左によりて、これが果して性信房の所藏なりしや否やは、尙しばらく一疑問として存すべきなり。何となれば、沙門の稱號は親鸞聖人を始めとして御門弟に於ても、未だ曾て他に用ひられたる例をきかず、しかのみならず丁寧に花押まで存するは、充分に疑を挾さむ餘地の存する也。しかしながら、後世、性信房の子孫によりて傳襲する所となり、遂に今日に立ち至りたるやは明らかなり。

その御草本と呼ばるゝ所以は、紙質、紙形頗る雜多にして、行數字數の一定せず、所々に空白を存するあり、また朱と墨とを以て幾度か誤脱の文字を訂正し、且つ何度となく左訓を附加して、字訓は多く頭部に書き加へたるあり。或はまた上下の欄外并に行間等到る處、無造作に諸種の符號を記するあり。かくの如く凡て體裁の整はざるものあるに依るを以てなり。

本書にはまゝ宋朝風の缺劃文字を使用せるを見、また使用したる振假名、左訓並に返點の古風にして、文字の一隅に四聲點の如き小圈を附せる箇所また少なからず。これ實に本書に於ける文字の特色なり。

次に本書の體裁の特色を一言せんに、

一、字註を冠頭欄外に記すること。

二、信卷本末を分たざること。

三、各卷の標擧が内題の前、表紙の左面に別出されたること。(敎卷にては表紙缺損せるが故に不

明、信卷にては別序の後にあり)。

四、撰號の有無一定せず、其の存する時は題號の直下にあること。(總序及び教卷には何故か撰號なし)。

五、信卷末涅槃經の引文及び化身土卷末大集經の引文中に存する偈頌を、原本の如く大概偈頌體に書せること。

等の五項にして、詳しくは無盡燈所載山田文昭師の論文『教行信證の御草本に就て』、並に校訂本教行信證に於ける中井玄道氏の解說を參照すべし。掲示の寫眞四葉は當日予の撮影にかゝりしもの也。

第五圖

傳覺信尼公筆教行信證延書　斷簡一帖　大谷派本願寺藏

大谷派本願寺に、覺信尼公眞蹟と傳ふる信卷末一部を藏せり。筆力柔軟にして、一見直に婦人の書寫なるを思はしむ。しかれども尼公筆と斷するは早計と謂ふべし。卷尾の綴目に淨教本の三字を有せり。これ恐らくは本文と同筆なるべきか。若し然りとすれば、本卷は淨教なるものゝ筆寫とい ひ得べきなれども、尙疑議を挾さむ點なしとせず。淨教に就ては、滋賀縣光臺寺所傳に係る明德元年の「宗祖門侶交名牒」によれば、

了源――覺心――覺忍――光源――淨教。

と次第すれども、年代の相違せる點より觀察すれば今の淨教にあらざること明かなり。

實如上人書寫延書、貞和二年源覺相傳延書等に比するに、その何れかといへば貞和本に類似せるもの即ち本書にして、貞和本には阪東御眞本の如く經論釋引用の結尾には必ず「ト」の字を附すれども、今本は他の諸本と同じく是を附せざること、これ重なる相違點なり。尙委しくは卷尾の「教行信證延書古寫本の研究」七を參照すべし。

第六圖

源覺相傳教行信證延書　十九帖　大谷派本願寺藏

卷尾の「教行信證延書古寫本の研究」六を見るべし。

第七圖

傳巧如上人筆敎行信證延書眞佛土卷　一帖　大阪　妙琳坊藏

大阪市東區北久太郎町四丁目妙琳坊に、敎行信證延書の中、眞佛土卷下卷零本一帖を藏す。寺傳によれば本願寺第六世巧如宗主の眞蹟なりといふ。本文は「淨土論ニイハク」より「奉持スヘシシルヘシトナリ」に至る墨附四十一紙、餘白一紙より成り、卷尾に左の奧書を有す。

「應永八暦十一月廿八日　巧如　花押」

と、然れども原とより存在せし奧書を抹殺して、新たに後人の書き加へたる跡、歷然として見られ得べく、墨色筆勢、並に花押（今の分は巧如上人の花押と相違せり）等より推して本文と別筆なるは疑ひなかるべし。果して然らば本文の價値並に年代如何といふに、恐らくは紙質墨色に徴して蓮實時代（室町中期）を下るべきものにあらず。殊に表紙左隅に「御代御筆か」の五字あり。運筆頗る遒健にして、他人の模倣し得ざるところ、頗る本願寺第九世實如上人の面影を認めうべし。この時代に於てすら尙且つ筆者を詳らかにせず。況や現時に於ておや。

されば、寺傳の如く本書をして直に巧如宗主の眞筆なると斷定し能はずと雖も、御本書延書としては最も珍とすべく、以て本書の價値を知るべきなり。

裝釘は粘葉綴、本文一頁五行、十三字乃至二十字詰、大きさ竪八寸一分、横五寸七分にして、延書の樣式は全く瑞泉寺本と同系にして、全卷十七冊の一部なること疑ひなし。かくて本書は存覺上人延書の傳寫なること明らか也。

第八圖、第九圖

存如上人筆敎行信證延書　十七帖　本派本願寺藏

卷尾の「敎行信證延書古寫本の研究」十一を披見すべし。

第十圖

實如上人筆敎行信證延書　十七帖　越中　瑞泉寺藏

越中國東礪波郡井波別院瑞泉寺所傳にして、現に同別院に藏す。萬延二年（二五二一）大谷派本願

寺藏版の延書は、實に本書を底本とせしものにして、出版の時、十七帖本を小本四冊に縮刷せしもの也。是れ延書開版の嚆矢といふべし。委くしは卷尾の「敎行信證延書古寫本の研究」十六を見るべし。

第十一圖

古寫敎行信證延書信卷末　殘闕一帖　禿氏祐祥氏藏

卷尾の「敎行信證延書古寫本の研究」十七を披見すべし。

第十二圖

古寫敎行信證延書（惠空舊藏本）　十七帖　大谷大學藏

卷尾の「敎行信證延書古寫本の研究」一〇を見るべし。

第十三圖

稻田の御草庵『本願寺聖人傳繪』　四卷　大谷派本願寺藏

大谷派本願寺に親鸞聖人傳繪四卷を藏せり。普通に「御傳鈔」と稱せらるゝもの是也。外題及詞書は、四卷共に覺如上人の自筆にして、外題に「本願寺聖人傳繪」とあるのみにして內題なし。詞書は全部、平假名文字にして、その文章は流布本（二卷本）に比して大差なし。竪一尺三寸八分にして一行十五字詰なり。調卷並にその奧書を示せば左の如し。

（一）　本願寺聖人傳繪上本　一卷　第一段より第四段に至る。

（奧云）　康永第二載癸未應鐘中旬比終書圖篇訖

（二）　同　上末　一卷　第五段より第八段に至る。

（奧云）　康永二歲癸未十月中旬比、依發願終畫圖之功畢、而間頽齡覃八旬。筭、兩眼朦朧、雖然愍厥詞、如形染紫毫之處、如向闇夜、不辨筆點、仍散々無極、後見招恥辱者也而已。

大和尚位　宗　昭

畫工　康樂寺　沙彌　圓　舜

（三）同　下本　一卷（第一段より第三段に至る。）

（奧云）康永二歳癸未十一月一日　繪詞染筆訖

沙　門　宗　昭　七十四

（四）同　下末　一卷（第四段より第七段に至る。）

（奧云）右緣起畫圖之志、偏爲知恩報德、不爲戲論狂言、剩又染紫毫、拾翰林、其躰尤拙、厥詞是苟、付冥付顯、有痛有耻、然只憑後見賢者之取捨、無顧當時愚案之訛謬而已。

干時永仁第三曆應鐘中旬第二天至晡時、終草書之篇訖。

執筆　法印　宗　昭（此の四字別筆）

畫工　法眼　淨　賀　號康樂寺

曆應二歳己卯四月廿四日、以或本俄奉書寫之。先年愚草之後、一本所持之處、世上鬪亂之間、炎上之刻、燒失不知行方、而今不慮得、荒本、註留之者也耳。

桑　門　宗　昭（此の二字別筆）

康永二載癸未十一月二日　染筆訖

釋　宗　昭（此の二字別筆）

畫工　大法師　宗　舜　康樂寺弟子

これらの奧書によれば、上下四卷ともに、康永二年淨賀を以て端緒を開かれたる、所謂康樂寺流の畫家によりて描かれたる所にして、前二卷は淨耀宗舜の畫筆にして、後二卷は淨蓮圓舜の畫筆なり。信濃國埴科郡鹽崎康樂寺に傳ふる過去帳「白鳥山代々薄」（文化十四年十二月九日に書改めらる）の一節を摘出すれば、

二代　法　眼　淨　賀　信光

延文元申年

二月十三日　八十二歳

三代　淨　耀　宗　舜

應安三戌年

八月十八日　大僧都　七十八歳

四代　淨　蓮　圓　舜

至德元酉年

四月九日　大法師
六十七歳

とあり。此の記事によれば宗舜は康樂寺の三代目に相當するものにして、應安三年（二〇三〇）八月十八日、七十八歳を以て寂し、圓舜は同寺四代目として錄し、至德元年（二〇四四）四月九日六十七歳を以て寂せしことになる。（至德元年は甲子にして酉年にあらず。「過去帳」の干支は事實と相違せり。）延文五年に存覺上人が錦織寺の爲に詞書に筆を染めし「親鸞傳繪」の奥書の一部分には、

本願寺御本右奥書後被レ載云

康永〇染筆訖

釋字――

畫工　大法師　宗　舜　康樂寺弟子

と書き加へたりしことは存覺師自筆の「袖日記」によりて明らか也。こゝに「本願寺御本」とあるものは、恐らく今の四卷本「本願寺聖人傳繪」を指せるものなるべし。

本傳繪下末の奥書の中、覺如上人の尊名「宗昭」の文字のみは、後世改竄の跡明らかにして、此の間頗る疑點の存すべしと雖も、思ふに、本傳繪は、本願寺の東西分離の際、敎如上人の帶出せられたるものにして、爾來深く寶藏に秘して、年一度の報恩講に於て本鈔拜讀の時のみ僅に御影堂に持ち運ばれし也。如斯く、東本願寺として宗內無二の寶典なれば、東西分離の後に於ても、何つ何時再び本傳繪が西派の手に奪ひ去られむやもはかりがたく、それやこれやの杞憂にて、當時ひそかに「法印宗昭」若しくは「宗昭」の文字を抹殺し、その根跡をくらましたりしと雖も、幾年月の後、後難なきに至り、再び「宗昭」の文字を後人の書き加へたりしなるべし。その意味に於て、たとへ、奥書中「宗昭」の文字が後世の別筆たりとするも、本傳繪詞書が覺如上人自筆ならずといふ何等の證左とはならざると共に、本傳繪の價値如何といふ問題に關係を及ぼさざる也。

本傳繪の美術的價値に就ては、かつて澤村專太郎氏が國華誌上（三六七、三七一、三七二）に於て「康樂寺派の畫家に就て」と題する研究を發表せられ、尙近くは橋川正君の「東本願寺の親鸞聖人傳繪」（懸葵第十九ノ二）の發表あるを以て、今は煩はしく茲に贅せず。只一言を記するのみ。

倣みに、口繪に揭示する所は、常州稻田の草庵にして、古來の傳說によれば親鸞聖人五十二歲、敎行信證御選述の道場は、正しくこの草庵にてありし也。（敎行信證製作年時に就きその考證は他日に讓る）「幽栖を占むといへども、道俗跡をたづね、蓬戶を閉づといへども、貴賤衢に溢る」の風情は實にこの繪に見ゆるが如し。

圖中、屋内に左面し、頸に帽子を巻きたる法師こそ卽ち聖人の御尊像にして、兩頰そげて顴骨高く秀で、眼光鋭く人を射んとする容貌、殊に眉毛の釣上れる點など、聖人の眞像として最も信ずべき「鏡御影」、「安城御影」に共通するものにして、筆者の用意周到、實に思ふべきなり。

第十四圖

親鸞聖人筆敎行信證　六帖　伊勢　專修寺藏

本書は伊勢高田派本山專修寺の所藏にして、夙に宗祖聖人の眞筆として名高く、阪東報恩寺傳を御草本といふに對し、今は御淸書本と稱せらる。調卷六帖より成り、卷一、三、五、の奧には、本文と別筆にて左の文あり。

親鸞御入滅弘長二歳壬戌十一月廿八日午時御年九十歳也、同廿九日午時專信遠江國池田住僧顯智下野國高田住僧御舍利藏畢。

寺傳によれば此の奧書は門弟顯智の筆に成れるものなりといふ。果して顯智なりや否やは暫らく別問題として、玆に論せずと雖も、文字の筆格運筆等、頗る宗祖に擬せる點より想像すれば、宗祖滅後幾何もなく門弟若しくは孫弟の手によりて奧書せられたるや明なり。而して今注意すべきは、此の奧書に現はれたる宗祖聖人御入滅の時刻と、御舍利收藏の時日に關する問題なり。

古來、聖人御入滅の時刻に就き二説あり。一は未尅説にして他は午尅説これ也。聖人御在世中に成りし所の建長七年法眼朝圓筆の「安城の御影」の識語には、「弘長二歳十一月二十八日未時尅御入滅御歳九十」(これを存覺師の袖日記には專海の筆といへり) とありて、未時尅（卽ち現今の午後二時に當る）説を取れり。

次に、加賀弘願寺所藏の古寫本を校合せる一本(大谷大學藏)に依るに、その奧書にも亦「弘長二歳壬戌十一月廿八日、未尅親鸞聖人御入滅也。御歳九十歳。同二十九日戌時東山御葬送。同三十日御舍利藏(以下略)」とありて同じく未時尅説を取れり。

然るに、覺如上人の著「親鸞聖人傳繪」を見るに「同第八日午時頭北面西右脇ニ臥給テツイニ念佛ノイキタエオハンヌ」といひ、明らかに午時尅往生説にして、是れ正午卽ち現今の午前十二時の刻に往生し給へりと説ける也。今の高田專修寺本も亦然りとなす。かくの如く「安城の御影」並に弘願寺本には未刻となし、「親鸞聖人傳繪」並に高田本奧書には午刻となす。何れの説を以て妥當となすべきや。

思ふに本派本願寺所藏敎行信證末卷の奥書には「弘長二歳壬戌十一月廿八日、未尅（午歟）親鸞聖人御入滅也」とありて、未尅の文字の右側に「午歟」との傍註の存するが如く、恐らく、宗祖聖人の御入滅は、正午より午後二時(未)までの中間の時刻に於てありしなるべく、されば當時或者は繰上げて正午御入滅となし、或者は繰下げて午後二時御入滅と稱するに至りしなるべく推せらるゝ。從つて二説ともに眞理にして、その何れをも是非すべからざる也。若し夫れ高田本の此の奥書が果して「親鸞聖人傳繪」製作年時卽ち永仁三年以前に、遡ることを得るものとすれば、本書は則ち聖人入滅を午刻と成す所の最古の文献と言はざるべからず。此の意味に於て本書の奥書は最も價値と意義の存する也。

次に「御舍利藏」につき、加賀弘願寺本には三十日説なるも、今は二十九日説を取りて、時日一日の相異あり。これについて多少疑義すべき點あるも今は言はず。

内容、調卷を一言せんに、石倉重繼編『高田派本山名所圖會』、『專修寺寶物古器古文書目錄』の中に、第一墨付八枚、第二墨付三十七枚、第三墨付百五枚、第四墨付二十六枚、第五墨付三十七枚、第六墨付百八枚。行數一枚十四行とあるもの卽ち本書にして、宗祖六百五十回御遠忌を修する紀念として開版せる敎行信證は、恐らく今の本に據りたるなるべしと雖も、惜しい哉、丁數等亂れたること、御左訓を省略したる點など、原本研究者にとりては頗る遺憾なりとす。

第十五圖

覺念筆敎行信證化身土卷末　一帖　大谷大學藏

大谷大學圖書館に化身土卷末一帖を藏す。鳥の子紙粘葉綴にして墨付五十六紙あり。一頁六行、一行十七字詰にして、原寸縱八寸、横五寸二分あり。末尾に左の奥書を存す。

延文五年庚子後四月　日終功　釋覺念

應安二年己酉十月　日　於御前合點畢、此本一部六帖先年終恐功者也。　沙門　尊理

奥書の中、前者は本文と同一筆にして後者は別筆なり。これら覺念、尊理二人の事蹟については何等知るべき文献なし。明德年間書寫の光臺寺所傳「宗祖門侶交名帳」によれば、覺念につき(一)眞佛——顯智——覺念　(二)光信——寂信——覺念　(三)願明——覺念ウヘノ　(四)眞佛——覺圓——覺念　(五)入信——覺念　(六)无爲子——覺念　(七)乘信——覺念　(八)西念——覺念　の如く同名のもの頗る多きといへども今の覺念との同異甚だ不明なり。本典書寫の延文五年は南朝正平十五年にして、實に存覺

師、六要鈔選述（八月一日）の年なり。應安二年といへばそれより九年以後にして、存覺師八十歳の高齢に當れり。奥書中「於御前合點云云」の御前とあるは、直に肯定し能はずとするも、これ或は存覺師の御前にあらざるなきか、これ元より予の臆測にすぎざる也。

第十六圖、第十七圖

巧如上人筆敎行信證　八帖　越後　淨興寺藏

高田市淨興寺に敎行信證一部八帖を藏す。寺傳によれば本願寺第六世巧如上人筆なりといふ。（遺德法輪集第一、大谷遺跡錄第二）。應永年間、淨興寺の藝範上京中、巧如上人より授與せられたるもの也。卷尾に本文と別筆の奥書あり。左の如し。

（三本識語）、信濃國水內郡太田庄下長沼淨興寺之常住也。忝親鸞上人御作、雖然藝範爲學文、應永中本願寺居住、巧如上人祓受傳。是當寺秘書、他人不可見物也。

（三末識語）、信濃國水內郡太田庄下長沼淨興寺之常住也。此本應永年中藝範在京之時、本願寺住持自巧如上人給處本也。

（四識語）、信濃國水內郡太田庄下長沼淨興寺之常住也。此本應永年中、藝範在京之時、本願寺住持自巧如上人給處本也。

（六末識語）、今此敎行證者、祖師親鸞上人之選述也。立章於六篇、調卷於六軸、皆引經論眞文、各備往生潤色、誠是眞宗紹隆之鴻基、實敎流布之淵源、末世相應之目足、卽往安樂之指南也。

以上列擧の中、三末、三本、四、の三識語は同一筆にして、六末識語のみは巧如上人の自筆なるべし。淨興寺は元と常州稻田郡吹雪谷にあり、中世更に信州長沼に移り、現今越後高田に存す。藝範傳受の年月は正しく應永年間にして、信州水內郡太田庄下長沼時代に於ける當時也。六末の識語「今此敎行證者祖師上人（他本には法師）之選述也云云」の文は、後世の寛永、正保、明曆、寛文の諸刊本に共通に存せるのみならず、古くは存如蓮如兩上人筆寫本（西本願寺藏）にも存し、今また本書にも存するに驚くもの也。この識語の作者は詳らかならずと雖も、親鸞法師といふが如き、頗る原始的呼稱なるを見、且つまた、文章の調子より察すれば、恐らく存覺師の作れるものならんか。光融錄も亦是に同ず。敢へて後考を俟つ。

揭出の寫眞は、後序文並に第三信卷本卷尾の識語なり。本文一頁九行一行十七字詰。

第十八圖——第二十一圖　傳親鸞聖人筆敎行信證音訓　一帖　下總　稱名寺藏

下總國結城町稱名寺に、親鸞聖人自筆の草稿本と傳ふる一帖を所藏せり。往生要集の一節を延書したるものと、(卷尾に附せる「敎行信證延書古寫本の研究」を參照せよ)及び敎行信證の音訓四葉とを合綴したるもの也。本書が大正七年夏、山田文昭氏等に依りて發見せられたる當時に於て、予は親鸞聖人の眞筆と決すべく猶幾分の躊躇を存したりしと雖も、近時史科編纂所の辻博士の調査研究によりて、要集延書並に音訓、兩書ともに、その筆蹟は「阪東報恩寺本並に一身田專修寺の諸本とを比較して、親鸞の自筆なり」てふ論定に達せられたり。しかし予としては、本書は彼の眞蹟として自他承諾し得べき「往生論註」の奥書に比較して、筆蹟に多少見劣りのある點に於て、今も猶予の先入感は容易に消滅し得ざるを悲しむもの也。彼は遒勁ある筆力を以て少しのとよみもなくさらさらと書かれたれども、これは模倣的にして、何となく幼稚の面影を存し、頗る氣品の缺如せる點これある也。たとひ、字格、運筆の一々に關する微細の點に於て、兩者の類似點を發見し得らるゝとしても、しかも、その是非眞僞を識別すべき予の內的批判の眼(直觀)は、容易に肯定する能はざるを遺憾とするもの也。

尙また各種の經典並に論釋の音訓に就ては、いはゞ同書に於ける一種の訓釋にして、古來支那及び我日本に於ても、概して完成せられたる著書の上に、同時若しくはそれ以後に於て別人の加へらるるがその例なり。而して今の音訓は、阪東本敎行信證の中、左訓振假名若しくは欄外に書き加へられたるものと概ね同一なるものにして、聖人にして何ぞ必ずしも、別卷として音訓一卷を作製する必要の存せざらんや、これ恐らくは、聖人の直弟若しくは昵近者の作製するに至りしものといふべきか。

揭示の寫眞四枚は敎行信證音訓の全部分にして、大正七年夏、同寺に於て撮影せしものにかゝる。近くは本年五月東京帝國大學史科編纂掛に於ける、史科展覽會の出陳によりて記臆を新たにする所也。

圖版略解題　終

敎行信證延書古寫本の研究

教行信證延書古寫本の研究

一

すべて延書といふことは、言はゞ、單に返點や振假名の附いた漢文を、そのまゝ返點や振假名の示す如く極めて文字通りに和字に延譯した「假名交り文」を指して言ふのであつて、現今の口語體を以て和譯せられた「口語譯」、若しくは「現代意譯」を指して言ふのではない。されば延書卽ち直譯といふことが現代の口語譯から見ると誠につまらぬ業のやうであるが、しかし往時の延書はその時代〳〵に於ける最も意義ある和譯であつて、殊に漢語體の文章を讀み得ない愚痴曚昧の民をしては、是によりていかに裨益せしめ得たであらうか。今宗祖の著作の中、漢文體のものを四部擧ぐることを得るが、教行信證といひ、略文類といひ、愚禿鈔といひ、たゞ文字羅列の外觀的體裁から見ると確かに漢文體とも謂ひうるが、その返點、送假名、訓點、并に引文の省略取捨等を考へてみると、實に宗祖獨特の筆格であつて却て漢文といふよりも寧ろ和文といふべきである。否な教行信證は正しく鎌倉期を代表せる、堂々たる和文であつて、漢文體の教行信證をみるよりも、否寧ろ是を

延書したる所に意義があり生命がある。されば敎行信證の價値批判は漢文學上の見地から規定せらるゝのでなくて、正しく國語學的視野から決せらるゝべきである。かういふ意味で敎行信證延書が宗祖滅後、南北朝初期頃から盛んに行はれ、師資展轉傳寫し、遂に今日に至つたのである。「御本書傳授記錄」によると、御本書拜讀に就ては、樣々な、これに關する掟書があつて何人といへども恣に手に觸るゝを得なかつたのであるが、此の延書本に依つて、一文不知の尼入道までも、たやすく宗祖の眞精神に觸るゝを得たのである。

二

敎行信證延書を論ずるに先立ち、往時に於ては、一體聖敎にどれ程の延書が出來てゐたであらうか、先づ以てこの問題を一瞥せねばならぬ。是に付ては委しく言ふべき餘白もないが、さしあたり手近な例を示すと三部經延書、二河白道延書、七祖聖敎延書(これは恐らく一部分のみ)等の如き比較的眞宗に關係多き聖敎類には概ね延書が出きてあることは想像するに苦しくない。先づ現存の古寫本から見ても、三部經部門に於ては、信州塩崎康樂寺には、傳宗祖御筆の大經延書(遺德法輪集)が所藏せられ、また大網願入寺には三部經延書七卷が所藏せられ、存覺上人の御筆と傳へてゐる。

(遺德法輪集第六)。本書が果して存覺師の眞筆か否かは一見の上ならでは直に首肯することを得ないが、昨春、同寺に於て親しく之を手にした鷲尾敎導氏の語によれば、その識語によりて、佛光寺系の了源所持本たることがわかつたといふ。三部經延書古寫本は、その調卷、概ね七帖本(上卷二帖、下卷二帖、觀經二帖、小經一帖)であつたらしく、近くは存覺師の手びかへである「存覺袖日記」四十丁裏には、明らかに西道所持の七帖本三部經延書のあることを說いてゐる。同日記に曰く、

假名大經七帖（大經上下 小經一帖 觀經各二帖）吉檀紙二半紙五行、西道

大上本	題目ヨリ略歸者 フカク高僧チネカフマテ	三十丁
同　末	阿難トキニカノ比丘ヨリ 奥題名マテ	二十二丁
大經下本	題目ヨリ 泥洹ノ道チエシムルトマテ	三十丁
同　末	佛ノタマハクソノ一ノ惡ヨリ 奥題名マテ	三十丁
觀　本	題目ヨリ 第十三ノ觀トナヅクマテ	二十九丁
同〃末	佛阿難チヨヒヨリ九品初也 奥題名マテ	十五丁
小　經		十二丁

已上百六十八丁　八十四枚

檀紙ナラハ四帖、
□□ナラハ二帖ヲ可用意歟

彼と此とは調卷相一致してゐるのである。

なほ又た兵庫縣勝福寺には綽如上人御筆と傳ふる「觀無量壽經延書」二帖を藏してゐる。これも恐らくは七帖本三部經の中の零本であろう。上卷奥書には、

至德二歲乙丑十一月二十八日　奉書寫之訖

とあり、下卷奥書には、

康應元年己巳八月三日　以聖人御點秘書寫之訖

とある。

しかしそれは兎に角として、從來三部經延書は覺如宗主の創意によりて原本より延寫せられたものだと言はれてゐる。どこの所藏を底本として出版したのであるか、此邊はわからないけれども、德川中期已後の木活字を以て出版せられた「覺師眞蹟三部經延書」小本二冊がある。是を以て直に覺師の創始と決することはできないけれども、しかし覺如若しくは存覺兩上人の中、その何れかを以て延書の嚆矢とするを得るであろう。

なほ又、此れと別種であつて、平假名にてかゝれた所の後伏見院宸筆の三部經などもあつて、是には摸刻さへも傳つておる。

次に、七祖聖教の中、往生要集に就ては、近くは「和字繪入往生要集」三卷（刊本）のあること皆人の周知のことであるが、此れ亦存覺師の「袖日記」十三丁裏に、往生要集延書料紙事と題して委しく記してゐる。卽ち、

上本之本　三十八丁。　上本之末　四十一丁
上末之本　三十二丁。　上末之本（末ノ誤記カ）三十六丁
中本之本　三十丁。　中本之末　三十一丁
中末之本　三十三丁。　中末之末　三十丁
下本之本　三十二丁。　下本之末　二十六丁
下末之本　三十一丁。　下末之末　二十九丁

已上三百九十丁（罫紙六行堺）　假名書寫分也
調卷次第次上分配定奥委細奥事略之畢。

上本　五十五丁半

欣求淨土初ヨリ
上末　六十九丁半　摺本上本ノ内チ七丁許末ニ加之
中本　五十六丁　一丁ハ裏アマル　摺本中末ノ内チ三丁許本ニ加之
第四止惡修善ヨリ
中末　四十九丁半
下本　四十丁半　半ハ爾（カ）許也
大文第十問答料簡ヨリ
下末　五十六丁　摺本下本内チ六丁許末ニ加之

已上西郊和字本調卷如此、除白紙定三百二十七丁　又一枚爲二丁平假名　加白紙定假令三百五十枚許用意之、件文字等加減不同流布之摺本若有多本歟、又疊字等訓讀不守文字以義趣和之讀之、學者以料簡和書歟之由所見及也、元德二年庚午秋比奥郡聖敎書寫之時、如此記置之者也。

――（袖日記十三丁裏）――

これによると、この往生要集延書六帖は、存師が奥州大網に於て元德二年秋の頃和字に延寫せられたのである。而して、これに倣んで今こゝに紹介せんと思ふものは、大正七年夏發見せられた所の二種の親鸞聖敎である。一は茨城縣結城町稱名寺に藏する「往生要集一節の延書である。他は茨城縣那珂郡鷲子村照願寺に藏する「二河白道文延書」一卷であつて、善導の散善義二河譬喩の文の延書である。今「往生要集云」を見るに、「信毀因緣者般舟經云ヒトリ

佛ノミモトニシテ功德ヲナスニアラズ」より初まつて、「ソノ緣ヲシルコトカタシ鳥豆聚ノコトシ」で終り、宛も往生要集下末大文第十問答料簡の第八の前半である。宗祖が往生要集の中、特に此一節だけを和譯されたものだか、或は「袖日記」に記載する所の往生要集延書と同種であつて、其中の殘缺にすぎないのか、何れともその關係は判斷しにくひが、要するに要集の延書が、一度宗祖親鸞聖人の手によつて寫され、そして、それがいわゆる、聖敎を手に得ることの容易ならざる、邊州の人々に往き渡つたことを考へしめらるゝのである。

次に「二河白道文延書」一卷に付ては「先啓眞宗聖敎目錄四」に「二河譬喩展書、建長四年壬子十一月十八日、大谷の寫本在二常州照願寺寶庫一」といふが、今やその原本も行衞を失つて、たゞその轉寫のみが同寺に傳へられてゐる。（親鸞と祖國第二卷ノ第五、第一卷ノ第七、楷川兄論文參照）。

次に選擇集延書に付ては二種の系統に大別し得る。一は親鸞聖人延書にして、他は存覺上人の延書これである。前者は正元元年九月一日より十日間に亙りて、我親鸞聖人の見寫し給ひし處の、所謂親鸞書寫の延書であり、後者は存覺師創始の延書である。前者については、高田派專修寺所藏の顯智筆下卷一帖と、大谷埀誠師所藏の上卷一帖によりてのみ知ることを得るものにして、專修寺所藏の延書の奧書には

正元元歳九月十日書之　愚禿親鸞 八十七歳

正安第四壬寅十一月二十七日　書寫之畢

とあり、大谷師所藏本の奥には、同じく

正元元歳九月朔日書之　愚禿親鸞 八十七歳

とあるもの則ちこれである。委しくは佛敎研究第四卷第一號揭載の拙稿『親鸞聖人見寫の選擇集及その延書』を參照せられたし。次に、存覺師の延書についてはもと廣略二本がある。廣本については龍谷大學に不完本一本を所藏し、最初四帖を存し、後二帖を缺く。南北朝時代の寫本であつて、その傳來は延文元歳丙申六月二十八日、存覺上人より釋覺善に相傳せられ、續いて應安六年釋センメウ尼に再傳されたものである。覺善については、女人往生聞書の奥書に「自存覺上人奉相傳之釋覺善」とあるから、此亦存覺師相傳本である。存覺師袖日記三十丁裏に「延文六年辛丑三月二日和州三人本尊於近州相傳之子細口之、一鋪覺善奉迎之」とあるもの今の覺善である。要するにこの廣本延書が存覺師の創始であることは疑ふべからざるものである。

次に略本延書については大谷大學に光遠院惠空相傳の選擇集略本延書二冊を藏する。その奥書をあぐれば、

一本云、曆應四歳辛巳五月十四日以㆓聖人御點之正本㆒依願主之所望延呈假名加校合訖、努力不可有忽緒之義而已。

これ明らかに曆應四年（紀元二〇〇一）、存覺師五十一歳の時、聖人御點の正本から和字に延譯されたことが知らるゝ。眞宗の古刹に所藏せる略本選擇集延書は大凡此の種に屬するもので、たとへ曆應四年の奥書がなくても皆、存覺師延書本の流傳本にすぎぬ。龍谷大學所藏の釋了宗所持の延書本（室町時代寫）も、また尾張無量壽寺に傳はる傳綽如上人御筆の延書も、恐らく今この系統と推せらるゝのである。

延書の調卷に關しては、廣本選擇も、存覺師相傳本より見るときは、もと六帖であつたらしく、略本も同じく亦六帖であつた。

これに就て「袖日記」六十四丁裏には

西道所持本本長尾導智本云云五行

和字選擇調卷幷丁數事 普通本也非廣本

本一　敎相二行　兩章　三十一丁

本二　本願　一章　二十三丁

本三　三寶、利益、留發、攝取、　四章　二十七丁

末一　三心四修　二章　三十三丁

末二　化讃、讃嘆、付屬　三章　三十六丁

末三　多善根、證誡、護念、付屬、　四章　三十六章（丁ノ誤記カ）

以　上

本上二十三丁　　本中十七丁

本下二十一丁　　末上二十八丁

末中二十七丁　　末下二十三丁

以右本新寫本調卷等如本　六行　念法房軸也

といふが如き明らかに調卷六帖（本三、末三）を掲げてゐるが、存覺師已後は皆この調卷に慣つたのであるである。

その他「袖日記」七十丁には

往生講式、假名延タル料帋員數事

廿二枚　薄白チ打タル格則十七行

といふて往生講式に延書本のあることを論じてゐる。かうして數へ立てると、漢譯經典幷に聖敎類の延書（和譯）といふことが鎌倉時代及びそれ已後に於て盛んに流行したことが知れる。單に淨土敎關係のものゝみならず、當時一般の傾向も同じであつて、かの愚管鈔の「和語論」をはじめとして、菅原爲長が尼將軍政子のために ものしたといふ「假名の貞觀政要」や或は道元禪師の正法眼藏なども當時の產物である。這うして考へると、該時代と延書との關係の益々密接であつたことを思はしむるのである。

三

飜つて思ふ。宗祖著作の漢文聖敎の中、後世延書として現存するものは正しく左の二部である。曰く、淨土文類聚鈔延書と敎行信證延書とである。淨土文類聚鈔はいつ時代、誰人の創意によりて延書的和譯されたるかといふに、

大谷大學圖書館に先哲光遠院惠空の書寫する所の延書本一帖を藏する。その奥書に曰く。

本云　曆應三歲庚辰四月二十三日本願寺聖人、

以下被レ染ニ御筆一眞名ノ正本上、依ニ願主ノ所望難キレ避

以ニ和字一所ニ延寫一也。他見在レ憚而已、

一本ニ

正嘉（諱イ）元年六月四日書寫之本奥鸞聖人以レ朱被染御筆云云

愚禿親鸞八十五歳點之

康永第三歳甲申三月十一日巳刻以ニ漢字本一和レ之訖、

又一本ニ　以ニ彼御點本一校此本一所々以墨註了　宗昭三十九歳

於奥前大綱御坊校之

嘉元二二歳甲辰南呂下旬第九日奉書寫訖、

正慶二二歳癸酉二月十七日御談義中於ニ御前一書寫訖

隱倫乘專在判

諱　惠洞之

有、

元祿二己巳年四月二十八日寫此本畢　惠空叟

この奥書三種の中、乘專の奥は原典の奥書であつて延書のそれではない。前の二種が正しく延書本の奥書であつて、此によると、一度は曆應三歳（二〇〇〇）四月二十三日に延書（和譯）が成り立ち、他は康永三年（二〇〇四）三月十一日に延書を作つてゐる。卽ち前後二回の延書的事業が行はれたのである。思ふに同一人が二度までも本書を和譯せしむるといふ筈もなく、これ恐らくは曆應三年は覺如上人の延書であつて、康永三年のは存覺上人の延書を指すであらうと推せられる。『明治八年聖教校合之記』には、文類聚鈔に付て、西京圓重寺所傳の覺師眞筆の延書と、古橋願得寺所傳の蓮師眞筆の延書とに付き、二本校合のことを記してゐる。現今、該二本の所在は不明に屬するが、「校合之記」によると、覺師眞筆本には今の「曆應三年―乃至―在憚而已」の跋文を有し、蓮師眞筆本には、卷尾に、

永享六甲寅歳五月十二日書畢　　釋蓮如花押

の文字を有せりといふ。今「校合之記」の文を引けば「西京圓重寺所傳覺師ノ眞筆ト稱スル延書ノ一本、萬延二辛酉歳御開板ナリタル小本ノ御延書ヲ以テ對校スルニ文點間々異リ義趣ヤ、出沒シテ互ニ得失アリ講談ノ節ハ尤對照スヘキ本也、然ルニ跋文ニ曰、曆應三歳庚辰四月二十三日本願寺聖人―中略―而已トアルヲ見レハ、延書最初ノ本ト見ユ……更按スルニ此本書體凡筆ニ非ス、恐是、覺主ノ眞蹟ナラン」とあつて、曆應三年に和字を以て延寫したるは覺師なりと斷定してゐる。思ふに御傳鈔の題名を「本願寺聖人親鸞傳繪」といひ、今の奥書にも「本願寺聖人」といふが如く、親鸞を呼ぶに祖師の呼稱を以て敢へてせるは覺師の獨創的呼稱であつて、この邊からみても、「校合之記」著者の言ふ如く、覺師の延書であることは間違な

からう。尙は「校合之記」に奥書の中の所望の文字に付て「此邊ニ所望トアルハ多クハ乘專ヲサス。已ニ口傳改邪ノ兩鈔モ淸範法眼ノ請ニ應シテ製シ玉フ。淸範ハ卽チ乘專ノ本名ナレハ恐ク今奥書ニ願主ノ所望雖避トアルハ乘專ヲサスナルヘシ。又曆應三歲ハ願々鈔御製作ナルコト慕歸繪詞十五紙ニ出テ、其コロ崇光寺成信ノ所望トアレハ此御延書モ亦之ニ同シカランカ。同年十月十五日御上洛云云ノ事執持鈔ノ奥ニミヘタレハ江州又ハ丹波ニ於テ延寫シ玉フトコロトミヘタリ。爾ハ此本ハ覺師御延書最初ノ本ナルコト明カナリ」といふて、願主を乘專、若しくは成信等に見出さうとしたは誠にさもありぬべきなれど、願主に付ては今後確實なる史料の現はるゝまで斷言を躊躇する。

四

本論に入るべき前提が餘りに長くなつたが、いよ〳〵敎行信證延書に付て言はう。先づ現存の古寫本若しくは文献史上にその名をとゞめてゐる御本書延書を羅列すれば左の如くである。

1 常陸照願寺本零本一帖　傳宗祖筆
2 大谷派本山內事局所藏本源覺所持　十九帖
3 傳覺信尼公延書本信卷　一帖
4 洛陽勝福寺本慶長十五、空圓、寫、　二十帖
5 金堂弘誓寺本　二十帖
6 金森善立寺本　十七帖
7 龍谷大學所藏本二種、存覺、　十七帖
8 西本願寺室內部所藏本存如　十七帖
9 貝塚願泉寺本　十七帖
10 常陸願入寺本綽如　十七帖
11 大阪妙琳坊本巧如　殘欠眞佛土卷　一帖
12 三河專修坊本蓮如　十七帖
13 若松本泉寺本　十七帖
14 本德寺本播州魚崎新邑　明寺文正寫　十七帖
15 井波瑞泉寺本實如　十七帖
16 近州眞念寺本蓮悟　十七帖
17 能登正福寺本實如　殘欠六　帖

18　禿氏祐祥氏所藏本　信卷殘缺　一帖
19　金堂弘誓寺舊藏本　十七帖
20　三河本證寺本宣如　零本二帖
21　萬延二年翻刻本丁字屋版　四冊
22　大高文進校訂本　四冊
23　眞宗聖敎大全本

五　常陸照願寺本

本書は常陸國那珂郡、蓬鄉村鷲子村の照願寺（大谷派）に傳へらるゝといふのであつて、そのことは二十四輩散在記、拐聚抄卷下等聖人の遺蹟に關する記錄の中にしば〳〵見えて居る。

一、敎行證延書、二河白道延書ト聖人御筆、奥ニ年號月日御自名六字名號アリ、水戶宰相殿江戶ニ御修覆ナサレ、箱ニ入クタサル・也。上人御筆ニ相違ナキ由ニテ畠山牛庵添狀アリ（二十四輩散在記）（眞全五十八頁）

元祿年中、「本山書上」の中にも

一、祖師聖人樣御筆　敎行信證延書　半冊

御正筆之敎行信證延書者　德正代、慶長年中火災之節、並村小野田村に罷在候、永福寺に被盜取申候然所に永福寺改宗仕、眞言宗に罷成候故御宗門の書籍麁抹に致し候を、其節拙僧、村に罷在候照願寺信了と申者、彼地へ打越撰取照願寺家寶之重寶と致候云云

ともあつて、これを宗祖聖人自筆の延書本と稱へてゐるが、しかし是れは頗る怪しむべきもので、宗祖が、自著なる御本書を、親ら延書の製作に從事せられたとは考へられぬ。先般、照願寺前住高澤信廣氏に紹介したが、その返事によつてみれば、該原本は無くなつてゐるとのことで、今や此れ以上研究の步を進めることはできない。

六、大谷派本願寺內事局本

大谷派本願寺內事局に御本書延書一部を藏して居る。其體裁は、縱七寸八分、橫五寸二分の粘葉綴で、合計十九帖より成り、各帖には梨地色の標紙が附せられてある。紙は鳥の子を用ひ、本文は一紙兩面に書かれ、半面五行、一行十三字乃至二十字詰である。各卷の標紙にはそれ〳〵外題文字と、その左隅に「釋源覺」の三字が書かれてあるが、墨色といひ、筆格といひ、運筆といひ、本文

と同一筆なることは疑ふべき餘地なく、たゞ惜しむらくは十九帖の內最後の一帖だけは後世の補寫であつて、信卷三末中には左の奧書が附いてある。

貞和二歲（丙戌）二月二十八日（時正第四日）

これによると、本書は正しく南北朝初期貞和二年（一〇〇六）書寫の眞本である。奧書中の時正とは彼岸の中日のことで、今は二月とあるから春彼岸であることは申すまでもない。貞和二年の春季彼岸の中日は正しく二月二十五日であるから、その第四日即ち二十八日の意味である。而して貞和二年は、覺師七十六歲、存師五十六歲の時であつて、實に現存古寫本の中、最古に屬する珍品である。

本書の標紙に書かれたる「釋源覺」の事蹟を究むる前に、先づ以て本書の傳來を知らねばならぬ。この貞和本延書にそへて、延寶六年に、箸尾敎行寺第六世宣誓のものしたる由緒書がある。その全文を示せば左の如くである。

敎行證一部延寫十九册者釋源覺（後號存覺）之眞筆、而本願寺歷代相傳至㆓蓮如上人㆒矣。蓮如上人以此書傳授敎行寺蓮藝大僧都（實如上人御連枝也）爲的傳相承之家寶也。以來、證如上人御年齡六歲時圓如上人御遷化、十歲時實如上人御遷化故、證如上人御幼稚而守㆓祖跡㆒云云 前住上人召㆓敎行寺㆒曰證如上人成長時委悉可傳授敎行證之旨、有㆓御遺言㆒云云。故以後奉勤此役（權ノ相承人ト云）其時此書尙爲實鑑也。顯如上人敎如上人、御直授敎行證之時、證誓（敎行寺三世住持）勤㆓傍人口傳之證役㆒也。其後以㆓此書㆒奉納㆓置本寺寶藏㆒甚恐寶書有㆓失却㆒故云云。副本慇重雖殘留之一亂之後旣紛失故、拜㆓借彼奉納之存覺直筆正本㆒而書寫之也。敎行寺住持一人披拜之、外人不㆑可㆓開卷㆒之旨、常如上人制定之畢

延寶六年戊午季春中旬敎行寺六世住職宣誓（花押）

さて、上述の由緒書をどこまでに信用すべきか、今その史的價値如何の問題になると、予は少しく躊躇を禁ずる能はずである。文中に「敎行證一部延寫十九册者釋源覺（後號存覺）之眞筆」とあり、また「存覺直筆正本」ともある邊から見れば、是れ明らかに、源覺の名は存覺師の幼名であり、本書が卽ち存覺師の眞筆本といふことになるわけだが、今少しく史眼を開いて考ふれば、どうしても此の說には贊成しかねる。何となれば、源覺師が存師の幼名といふこと眞宗史上、未だ曾て聞ゐたことなく、他の何れの存覺史料にも見えてゐないからである。殊に若しかりにさうだとすれば、貞和二年の書寫當時に於て、存師は已に五十六歲の頽齡なるのにも拘らず、わざ〳〵好んで茲に幼名を擔き出だす必要もなからう。疑ふべきは實に此の一點に存する。なほまた、康永二年乘智の所望により、初めて延書せられたる『存覺師創始の延書』と、今の本とを對照すれば、その體裁幷に內容に於て、兩者著しき相違の存することも、また以て存覺師と源覺との別人なる一證左である。その他、本書

の筆蹟の點から見ても存覺師のそれに似通ふたる點の頗る稀薄なるに驚く。かくの如く種々の點に於て愚考をめぐらせば、その結論として、源覺は存覺師の幼名にあらず、全く別人なることに歸着するのである。

然らば外題文字并に「釋源覺」の文字は、本文の筆致と比較して全く同一筆なるより見て、本書は源覺なるものゝ眞筆と卽斷し得べきであらうか？これまた早計に判斷することは出來ない。何となれば「釋源覺」の文字と、本文とが同一筆だからとて必ずしも同人の筆に成れるとは限らないのである。例へば阪東眞本敎行信證の中、證卷及眞佛土卷の標紙に「釋蓮位」の文字があるからとて、それが直樣蓮位の筆とは言はれまい。これ「本文」も「釋蓮位」の文字も共に第三者たる親鸞聖人の手によりて成れるのを、蓮位に付屬せしめたに過ぎないのである。たゞに親鸞聖人のみに限らず、眞宗の原始敎團に於ても、覺師存師を初めとして、その他の列祖が、その門弟にそれ〴〵の姓名までをも本文にかきそへて與へ玉うた例が實に數々ある。最近に於て、河州圓德寺顯證の影寫本たる「往生要集延書」十二卷（江州栗太郡安養寺村安養寺所傳）を見ることを得たのであるが、各卷標紙の右隅に「釋淨性」の文字があり、しかも本文と同一筆である。その奥書に

「此抄者、江州栗本郡安養寺釋淨性依所望書寫畢、于時享德三年甲戌卯月十七日」

とあるから、寺傳の示すが如く、蓮如上人が御年四十歲の時に門徒淨性に書寫傳授せられたものなることは明らかである。かういふ形式が當時に於て一般的に行はれてゐたとすれば、貞和二年書寫の本書も、恐らく源覺なるものゝ筆蹟ではなくて、却て他の誰人かによりて寫さしめられて之を源覺へ附與せしめられたものではなからうか？然らば、附與せられた源覺その人は何人であつたであらうか、これに就ては一向に知るべき手係もないが、名字の冠字に源の字がある所から、恐らく佛光寺系統の人ではなきかと、さしあたり光薗院所藏の宗祖門侶交名牒を繙いたら、同書に

禪源┬源覺
　　├了心
　　├源性
　　└淨圓

とある。或はこの禪源門下の源覺ではあるまいか。しかし、少し時代が下るやうに思はれぬでもないから斷言を憚かる。

その紙數並に調卷を示せば左の如くである。

第一冊　（外題）敎行證一（敎卷）、　十六紙

第二册　敎行證二之上（行卷之一）、　四十九紙白紙一紙
　初より論註引文「安樂淨土ニ往生セシメタマヘルナリト抄出」に至る。
第三册　顯眞實行二之中、　六十紙
　安樂集の文より、飛錫の文「萬行ノ元首ナルカユヘニ三昧王トイフト巳上」に至る。
第四册　顯眞實行二之下、　五十二紙
　「往生要集ニイハク」より終に至る。
第五册　顯眞實信三本上、　四十八紙
　本卷初より「因ナクシテ他ノ因ノアルニハアラサルナリトシルヘシ」文に至る。
第六册　顯眞實信三本下、　四十七紙
　「トフ如來ノ本願ステニ至心信樂欲生」より信卷本終に至る。
第七册　顯眞實信三末上、　三十八紙
　信卷末初より「阿耨多羅三藐三菩提心ヲ發セシムルコトアタハスト巳上」の文に至る。
第八册　顯眞實信三末中、　六十二紙
　「マタノタマハクソノトキニ王舍大城ニ阿闍世王アリ云云」の文より「佛ヲメクルコト三帀シテ辭退シテミヤニカヘリニキト巳上抄出」に至る。
第九册　顯眞實信三末下、　三十八紙
　「マタノタマハク善男子羅閱祇主頻婆沙羅」より信卷末終に至る。
第十册　顯眞實證四本、　三十六紙
　證卷初より「他ノ因ノアルニハアラストナリ」の文に至る。
第十一册　顯眞實證四末、　三十四紙
　「略シテ入一法句ヲトクカユヘニトノタマヘリ」の文より證卷の終に至る。
第十二册　顯眞佛土文類五本、　四十六紙
　本卷初より「世諦ノ法ヲトキテ第一義諦トスト略出」の文に至る。
第十三册　顯眞佛土文類五末、　四十七紙白紙一紙
　「マタノタマハク迦葉マタイハク」の文より眞佛土卷終りに至る。
第十四册　顯化身土文類六本上、　四十二紙
　本卷初より「カルカユヘニ不實ノ功德トナツクト巳上」の文に至る。
第十五册　顯化身土文類六本中、　四十八紙

「安樂集ニイハク大集經ノ月藏分」の文より、「コノ義ヲモテノユヘニ善知識トナツク抄出」の文に至る。

第十六冊　顯化身土文類六本下、　四十八紙

「華嚴經ニノタマハクナンチ善知識ヲ念スルコト」の文より、「マタ仁王經ニイフカコトシ乃至巳上略抄」の文に至る。

第十七冊　顯化身土文類六末上、　四十一紙

卷初より「コノ閻浮提所集ノ鬼神ヲモテ分布安置ス護持養育スヘシ」に至る。

第十八冊　顯化身土文類六末中、　墨付三十三紙白紙一紙

「ソノトキニ世尊マタ娑婆世界主」の文より、「世間ノ名利恭敬ニ貪着スルカユヘナリト巳上」に至る。

第十九冊　顯化身土文類六末下、(此の一卷は補寫)四十八紙

「辯正論法琳撰ノニイハク」の文より卷尾までに至る。

上述の如く、本書の特異なる點は、普通現存御延書の概ね十七冊なるに對し、かくの如く十九冊本なるに存する。これはもと大和國北葛城郡箸尾敎行寺(本國、攝州富田)の所傳であつたが、故あつて現今本山内事局の所藏になつてゐる。

最後に本書の史的價値を一言せんに、書物そのものとしても現存古寫延書中、最古の逸品であるは申すまでもないが、殊にその體裁並に内容に於ても著しく古本の面影を存してゐる。即ち御延書としては他の何れよりも、より多く坂東報恩寺所傳の御眞本御延書に近きものであつて、本書中に散見せる左訓(朱書)といひ、振假名(朱書)といひ、行文の形式と言ひ、或は又た所々清濁の朱點を施せる所などはすべて坂東本に於ける送假名、左訓、並に返點に似通つて居る。たゞ左訓の多少に就ては、坂東本よりは少しく數量を減じてゐるのみであつて、恐らく坂東御眞本若しくはその轉寫本に據つたことは明らかである。由來、延書は宗祖御點の正本から延書すべきが定規であるから、延書所用の原本を「聖人御點秘書」とか、「聖人御點之正本」とか、「本願寺聖人、被染御筆眞名正本」とか申すのである。今この延書を見て一層この感を深くする。しかし御延書は敎行信證御眞本そのものでない。延べ書きの際には多少の改竄あるは免れぬことで、その著しき點は坂東本ではムの字を使用せるを、貞和本の御延書ではンの字に改めてゐることである。今、坂東本と貞和本とを首尾全部比較して示すべき餘白を持たないが、玆に只その假名遣の相違點の一部分を例示すれば左の如くである。

信卷本卷

〔坂東本敎行信證〕

（多くの場合）無○

ム○

オモフ○テ

オ○ヨヒ、オ○ハ

ノホリ○テ

徵チ○ヨ○ウ○

僞詐イツワ○リイツワ○ル

二鄣○

アフヒ○テ

オホフ○テ

座

怯弱コ○ウニヤク

〔貞和本御延書〕

无○

ン○

オモヒ○テ

ヲ○ヨヒ、ヲ○ハ

ノホテ

徵テ○チ○

イツハ○リイツハ○ル

二障○

アフイ○テ

オホヒ○テ

坐

怯弱カ○ウニヤク

惑マトイ○

（多ク八）智慧○

喚ヨハフ○

陰（オム）○

逈ク○キ○ヤ○ウ○

澤サワ○

染セム○焰エム○

オ○ヨヒ

招喚セフ○クワン

勘（カム）○編（ヘン）カム○カフツラヌ

至イ○タル

虛僞イツワ○ル

恭敬ツ○シ○ム○

有情○

惑マトヒ○

智惠○

喚ヨハウ○

陰（オン）○

逈ク○ワ○ウ○

澤サハ○

染セン○焰エン○

ヲ○ヨヒ

招喚セウ○クワン

勘（カン）○編（ヘン）○カンカウ○ツラヌ

至ヰ○タル

虛僞イツハ○ル

恭敬ツ○、○シ○ム○

有性○

詐諂イツワリ○ヘツラフ	詐諂イツハ○リヘツラハス
悲憐アワ○レム	悲憐アハ○レム
畢ツイ○ニ	畢ツキ○ニ
「信ハヨク智功德ヲ增長ス」	此の十一字なし。
增益○	增長○
兼利ケム○リ	兼利ケン○リ
招喚マネキヨ○フ○	招喚マネキヨハ○ウ○
哀アワ○レム	哀アハ○レム
異見異學大阿彌陀經支謙	異學異見（後の文字なし）。
入眞	眞
了ツイ○ニ	了ツキ○ニ

七　傳覺信尼公延書本

大谷派本願寺內事局に御延書斷簡一帖を藏す。覺信尼公御筆と稱へらるゝもので、信卷末上の一部分である。冠初の「ソレ眞實信樂ヲ按スルニ信樂ニ一念アリ」といふより、大悲經の文「大悲ヲ行スル人トナツク已上抄出」までに終つてゐるが、調卷の上から言へば、貞和本の第七册に當り、弘誓寺本の第八册に當り、その他の延書本の第七册に當つてゐるが、その何れとも一致しないで、唯その一部分である。題號もなく撰號も略してあるは貞和本以下に相似て、弘誓寺本と異つてゐる。本文の墨付二十五紙であつて、裝釘は粘葉綴なるは申す迄もない。一紙兩面に書かれ、半面五行、一行十三字乃至十九字詰である。卷尾の綴目に淨敎本の三文字を墨書してゐるが、淨敎に關しては何等知るべき史料がない。本書は紙質墨跡に徵して、恐らく南北朝を下るものに非ず、たとひ信卷一帖の斷簡に過ぎないと言つても左訓の稀に存する點や（朱書にあらず）現流の延書本と比較してその相違點の多きを見出して、ますます〳〵その價値を信ずるものである。而して、運筆の柔らかなる點は容易く女性の手によつて成れることを氣付かしむるのである。本書はもと河內中河內郡堅上村松谷の光德寺に傳來したること、その箱書の文字にて推測せらるゝのである。

八　洛陽勝福寺本

洛陽勝福寺とは京都上京區中立賣通松屋町西入新泉丸町西派の勝福寺のことである。丹山文庫所

藏の「延書諸本校合記」によると、本寺には粘葉綴二十帖本の御延書を藏し、それは文和四年の奥書ある御延書から慶長十五年に空圓なるものに依つて寫された一本であると言ふて居る。香月院、信珠院、兩師の考へでは、本書は覺如上人の御延書であつて、弘誓寺本(次に言ふ)の原本であると推測つてゐる所だが、惜しいかな、同寺は元治以來幾度かの祝融に遭ひて原本の影だに見得ないのは千歲の恨事である。

九　金堂弘誓寺本

近州神崎郡南五ヶ莊村金堂弘誓寺(大谷派)に傳ふる一本で、本年三月親しく同寺にて閲することを得た。德川中期、當寺第十八世諦受院釋惠廣の筆寫に係るものである。惠廣はもと羽州酒田安祥寺智眼院惠俊の眞弟であつて、信證院法印雲孫である。元祿二年三月二十四日得度し、後弘誓寺の世代を繼き、享保十九甲寅九月十五日に卒してゐる(弘誓寺譜)。以て本書の筆寫年代を略々知ることを得る。見るところ、粘葉綴二十帖冊子本で、第一、第二、第十三、の三帖には文和四年の奥を有し、第十四卷には文和五年の奥を有し、原本の奥書をそのまゝ存しておる。「慶長十五年空圓書寫」の奥書がない所から察すると、洛陽勝福寺本から直ちに寫されたものとは斷言できないが、是れと同一種の文和本から轉寫されたことは容易に推測される。その體裁は縱八寸八分、横六寸三分で、本文半面六行、一行十六字乃至二十字詰である。信珠院丹山は是を覺如上人御延書と言ふておる。本文には本泉寺本を以て校合せること本書の奥書に示すが如くである。今調卷、紙數、奥書、及び識語を檢すれば左の如くである。

第　一　敎卷、　　墨付十一紙　白紙一紙

(奥云)寫本云

文和四年乙未　十月　日寫之畢

第　二　行之卷上、　　墨付三十八紙

(奥云)寫本、文和四年八月　日寫之。右筆行玄二十一歲、斯書一部書寫之其願主志只有憐愍遐代愚人不厭生死不欣菩提矣意樂无私偏爲用愚昧明燈之也　仰願三國傳燈諸大祖師納受哀愍疊重志願矣

第　三　行之卷中、　　墨付四十一紙　白紙一紙

第　四　行之卷下、　　墨付三十八紙

第　五　信之卷本上、　　墨付二十七紙　白紙一紙

第六　信之卷本中、　墨付二十八紙
第七　信之卷本下、　墨付二十三紙　白紙一紙
第八　信之卷末上、　墨付三十一紙　白紙一紙
第九　信之卷末中、　墨付四十七紙
第一〇　信之卷末下、　墨付二十七紙半
第一一　證之卷上、　墨付二十六紙半
第一二　證之卷下、　墨付二十四紙
第一三　眞佛土卷上、　墨付三十八紙
　(奥云)文和四年九月　日　書寫之、
第一四　眞佛土卷下、　墨付二十七紙・白紙一紙
　(奥云)文和五年正月　日　書寫之、
第一五　化身土卷本上、　墨付二十七紙　白紙一紙
第一六　化身土卷本中、　墨付三十二紙半
第一七　化身土卷本下、　墨付三十紙半
第一八　化身土卷末上、　墨付三十紙
第一九　化身土卷末中、　墨付二十二紙
第二〇　化身土卷末下、　墨付三十三紙

(奥識語に曰く)『コノ御本書御ノヘ書二十卷ハ覺如上人ノ御ノヘカキナリ弘誓寺第十八世惠廣ノ書寫シ奉ルモノ也、傍ニ朱ニテ書入アルハ本泉寺傳本也、蓮如上人御ノヘ書一書ニ兩本ヲ傳ヘン爲朱ニテ傍ニシルスモノ也。但朱ヲ以テ墨字ヲ點スルハ執筆者ノ麁忽也』

これによると、文和四年(二〇一五)乙未八月に行玄なるものによりて書寫されたもので、恰も覺師入滅の後四年、存師六十五歳の時に當り、實に六要鈔選述より六年前である。御延書流傳史料として見逃すべからざる奥書である。

今貞和本と、文和本との重なる相違點を述ぶれば、彼は多く敬語を用ひて「曰く」を「ノタマハク」と訓ずれども、今は率直に「イハク」と延書きしてゐる。彼は三サムといひ、此は三サンといふ。彼の證ショウに對して證シャウといひ、仰アフイテに對してアフヒテといひ、貪トムに對して貪トンといひ、法琳リムに對して法琳リンといふが如き、尙又た彼には集シフといふに對して今は集アツムと訓し、彼の「必然ノ理」に對して今は「必然ノコトハリ」といふが如く、彼此對照する

ことによつて益々貞和本の原始的なるに驚くのである。

一〇　金森善立寺本

もと江州野洲郡小津村金森善立寺所傳にして、光遠院恵空師の所持本である。現今大谷大學附屬圖書館に藏す。堅八寸八分、横六寸五分の粘葉綴本にして、内一帖は恵空師の補寫する所である。紙質並に墨色の茶褐泥色なるに徴しても、德川時代以前に屬する筆寫なるを知る。全卷合計十七帖にして、半面七行、一行十五字乃至二十一字詰である。紙背文書に「八日善藏」の文字があるが、本書の沿革に關する史料に成らぬ。調卷に就ては、貞和本、文和本の十九、若しくは二十冊本と異り、流布本(寬延刊本)の十七冊本と同じであるが、しかし今その流布本に比するに、

一、信卷の本末を分つこと。

二、撰號は總序及び信卷別序に存せること。

三、標擧の所在、敎卷は題後文前にあること。

四、證卷本末の別方は貞和本、文和本と同じきこと。

以上列擧の四點は流布本よりも却て貞和、文和二本に一致してをる點に於て本書の價値がある。その調卷及び紙數を示せば左の如くである。

第一冊　題眞實敎序一(外題敎卷)、　十紙

第二冊　題眞實行二上(外題行卷上)、　四十紙

初めより目連所問經の文「ナニツ難ヲステ、易行道ニヨラサランヤ已上」に至る。(寬永版行卷初より十八丁まで)

第三冊　題眞實行二中(外題行卷中)、　四十紙

光明寺和尙云(往生禮讃前序文)の文より、光明寺の和尙の文「マタ惠心専念トイヘリ」に至る。(寬永版行卷十八丁より三十四丁まで)、

第四冊　題眞實行二下(外頭行卷下)、　三十二紙

「智昇師ノ集諸經禮懺儀ノ下卷ニイハク」の文より終に至る。(寬永版行卷三十五丁より終まで)。

第五冊　題眞實信三本上(外題信卷本本)、　三十一紙

初より二河喩の文終「無上ノ信心ヲ發起セシメタマヘリ」に至る。(寬永版信卷三本初丁より十四丁まで)。

第六冊　顯眞實信三本下（外題信卷本末）、　三十八紙
「貞元ノ新定釋敎ノ目錄卷十一ニイハク」の文より、信卷本終りに至る。（寛永版信卷三本十四丁より二十九丁まで）。

第七冊　顯眞實信三末上（外題信卷末本）、　四十八紙
初より涅槃經の文「加羅鳩駄迦旃延」に至る。（寛永版三末一丁より十九丁まで）。

第八冊　顯眞實信三末下（外題信卷末末）、　五十一紙
「マタイハク善男子ワカイフトコロノコトシ」（北本涅槃經二十初紙南本十八初紙）より終に至る。（寛永本三末十九丁ヨリ三十九丁に至る）。

第九冊　顯眞實證四上（外題證卷本）、　二十四紙
此の一帖のみは惠空講師の補寫にかゝる。
卷初より論註の文「因ナクシテ他ノ因ノアルニハアラストシルベシトナリ」に至る。（寛永本四ノ初丁より十一丁まで）。

第十冊　顯眞實證四ノ下（外題證卷末）、　二十三紙　白紙一紙
論註の文「略シテ入一法句ヲトクユヘニ」より終に至る。（寛永本四ノ十一丁より終二十一丁まで）。

第十一冊　顯眞佛土五上（外題眞佛土卷本）、　三十六紙
卷初より又言一切覺者乃至聞見（北本涅槃經二十七ノ二十一紙、南本二十五ノ二十一紙）に至る。（寛永本五ノ一丁より十六丁まで）。

第十二冊　顯眞佛土五下（外題眞佛土卷末）、　二十七紙
「淨土論ニイハク」より終「コトニ奉持スヘシシルヘシトナリ」に至る。（寛永本五ノ十六丁より二十七丁まで）。
此の卷に「實道上人□□御光來」の入れ紙あり。

第十三冊　顯化身土六本上（外題化身土卷本上）、二十九紙　白紙一
卷初より安樂集下の文「又云未滿一萬乃至僞也」（卽ち、報ヲウルコトハ僞ナリ已上）に至る。（寛永本六本ノ一丁より十三丁に至る）。

第十四冊　顯化身土六本中（外題化身土卷本中）、三十二紙
「シカルニイマ大本ニヨルニ眞實方便ノ願云云」より涅槃經の「コノ義ヲモテノユヘニ善知識トナツク乃至」の文（北本二十五ノ四帋、南本二十三ノ四帋）に至る。（寛永本六本十三丁

右より二十六丁左まで）。

第十五册　顯化身土六本下（外題化身土卷本下）、三十三紙

「華嚴經ニノタマハク」（唐譯七十七ノ二十三紙）より終に至る。（寛永本六本ノ二十六丁より四十丁まで）。

第十六册　顯化身土六末上（外題化身土卷末本）、四十四紙

卷初より「罪福ノ因緣ヲ信スヘシト抄出」（舊華嚴經二十四ノ十六紙の文）に至る。（寛永本六末の初丁より二十丁裏まで）。

第十七册　顯化身土六末下（外題化身土卷末末）、三十八紙

「首楞嚴經ニノタマハク」（卷六ノ十二紙の文）より末尾に至る。（寛永本ノ六末二十丁裏より末尾三十七丁まで）。

十一　西本願寺室內部所藏本

西本願寺室內部に御延書一本を藏し、紙質、楮紙、粘葉綴、調卷十七帖、表紙は藍色で「釋成信」の名字がある。その奧書に曰く。

延文五歲庚子　正月二十二日書終之記。書寫中無障碍。終其功奉渡之條冥慮之所致歟本望無極者也耳　釋子俊玄。

奧書中の俊玄は第四世善如上人の諱で、延文五歲（二〇二〇）は正しく正人二十八歲、存覺上人七十一歲で、六要鈔選述の年である。標紙の釋成信のことは慕歸繪詞十（五紙）に出でゝある。江州崇光寺成信所望によつて、覺如上人が曆應三年九月に願々鈔を製作し玊ふたのであるが、願々鈔所望の成信が則ち今の成信であつて、覺師の聞法血脉の門弟で、「袖日記」の中、覺師葬送の記事にもその名を列してゐる。（此項中井氏敎行信證校訂本に據る所多し）。

十二　龍谷大學所藏本二種

龍谷大學に延書本二本を藏す。一は文化元年甲子（二四六四）の筆錄にかゝり、凡て十七帖より成る。化土卷の奧書は卽ち延文五年の善如上人の奧と同じもので、室內部の延文本の轉寫なることが知らるゝ。他の一つは、亦、調卷及び內容全く前と同じで、筆寫の年代は恐らく德川中期を下らないものだが、その原本は天文二十二年（二二一三）の筆寫に成れることは奧書に依て知らるゝ。化土卷の奧書に、

此書存覺聖人ノ御筆ヲ以テ寫申候、但四卷目二卷、同五卷目二卷合テ四卷ハ乘専ノ筆也此内四卷メノ本ロヨリ十丁目一面迄ハ存覺聖人ノ御筆也、

天文二十二年癸丑七月十二日相調候畢、とあり、

又た眞佛土卷の終に、

本云　寛元五年二月五日以善信聖人御眞筆秘本加書寫校合訖、文義字訓等重委註畢

隱倫　尊蓮六十六歲

今年聖人七十五歲也。

本云　康永二歲癸未五月十七日以漢字之眞本延寫于和字授與之、願主　乘智、

とある。此二所の奥は、御延書の起原若しくは流傳史上缺くべからざるもので、察するに康永二年（二〇〇三）存覺師五十四歲の時、覺師の弟子乘智の所望によつて延書せられたものが康永の原本であつて、其後十七年、延文五年（二〇二〇）に善如上人俊玄の是を書寫せられたものが謂ゆる延文本であつて、そして更に百九十三年を經て天文二十二年（二二一三）に何人かの手によつて書寫されたものが卽ち天文本である。康永本の所在は不明であるが、要するに御本書の延書は、その一本は恐らく存覺上人の手に成れるものを以て嚆矢といふべきである（御延書に二本あることは後に於て論ずる）。

十三　貝塚願泉寺本

和泉國泉南郡貝塚願泉寺に藏する一本で、德川時代に書寫せられたる十七帖本である。延文本の傳寫であることは奥書によつて明らかである。

敎卷の見返しの識語に曰く。

「敎一、行二、行中、行下、信三本上、信本下、信末上、信末下、證四本、證末、眞佛土五本、眞佛土末、化身土六本、化身土本中、化身土本下、化身土末上、化身土末下、已上十七帖

右一部述書如斯、彼正本常ノ正敎紙ニテ、表紙梨地外題ナシニ當中ヨリ顯淨土眞實敎文類一ト以御筆被遊訖、有子細令頓寫之間如此馳早筆而已有恐々々

以後可奉直書寫者也、袋草帋之時者紙數一部之分六百七十九枚也、」

化身土卷末の下の奥書に曰く。

本云　延文五歲乃至中略　釋子俊玄、

右於此寫本者江州長澤福田寺所持本也、然間越前宇坂明珍依所望令書寫之訖、仍可爲彼所持之本者也而已、

于時　享德三季七月八日　釋　蓮（マヽ）

　　　　焉者御筆也

願以書寫力、速成二世願、隨願得往生、利益衆生界、雖爲惡筆依圓金ノ所望ニ如形書寫畢、與隆佛法之志、哀而一返廻向於奉憑所也　　南無阿彌陀佛

于時　文正元年丙戌　七月八日

　　　　右筆當卿　住侶　西玉坊春秋　四十五歳

越前宇坂ヨリ兵庫鄕染田圓金相傳

これによると、延文本が享德三年（二一一四）、蓮如上人四十歳の時、一度傳寫せられ、續いてそれより十二年後文正元年（二一二六）に、西玉坊なるものによつて書寫せらるゝに至つたのである。これも寫傳史料の一として重要とせねばならぬ。

十四　願入寺本並に妙琳坊本

常陸國東茨城郡磯濱町內祝町願入寺（大谷派）に藏すること「遺德法輪集」六ノ三十に出づる。卽ち「この御本書は延書にて十七卷あり、綽如上人の御筆なり」といへるもの是れであつて、有無不明に付き當寺住職大網濱昭氏に紹介したが今や泯亡して傳はらないといふ。尙又た大阪市東區北久太郎町四丁目妙琳坊に、第六世巧如上人の眞筆にかゝる眞佛土卷延書、一帖を所藏せりといふことだが、これは幸にも眼福の機會をえた。紹介は口繪の解說にゆづる。而してこの第五世綽如本も第六世巧如本も恐らく存覺師延書本の傳寫であらう。

十五　三河專修坊本等三本

三河國碧海郡高濱町高取專修坊に傳へらるゝもので、遺德法輪集四の十丁に「蓮如上人の延書に遊ばされ十七卷にかき給へり」とあるもの卽ちこれである。予昨年夏親しく同寺に於て拜見したところを記せば、調卷の十七帖なることは現流本と同じで、敎一、行上中下三、信本末上下四、證本末二、眞本末二、北本上中下、化末上下五であつて奥書も識語もない。本書は、直ちに蓮師の眞蹟と斷定することを得ないが、恐らくその轉寫本に外ならぬと思ふ。

その他、大阪府北河內郡甲可村大字鞆屋本泉寺（若松）にも傳蓮師眞蹟の御延書一本を藏し、播州姬路の本德寺には同國魚崎新邑圓明寺文正の寫した所の廣略二本の延書を藏せりといふが、（延書諸本校合記丹山著）、これは皆調卷十七帖本であるとのことである。

十六　井波瑞泉寺本

越中國東礪波郡井波別院瑞泉寺に傳ふるもので、寺傳では實如上人の眞蹟といふが、恐らくその時代のものであらう。原寸は竪八寸五分、横五寸六分で調巻十七帖の粘葉本である。標紙は海老茶色で、紙質は鳥の子で雲母引きである。一紙半面五行、一行十三字乃至十七字詰である。紙數並に調巻を煩をいとわず列擧すれば左の如くである。

敎一之卷	十六葉	行二之卷	六十七葉
行三之卷	六十八葉	行四之卷	五十葉
信五之卷	五十一葉	信六之卷	五十九葉
信七之卷	七十四葉	信八之卷	七十一葉
證九之卷	三十九葉	證十之卷	四十四葉
眞十一之卷	五十八葉	眞十二之卷	四十四葉
化十三之卷	四十九葉	化十四之卷	五十二葉
化十五之卷	七十三葉	化十六之卷	五十四葉
化十七之卷	五十八葉	合	九百四十九葉

瑞泉寺本から直接に、一行一字一格も忽緒にせず臨寫した一本を京都本願寺舊臣粟津家に藏してゐる。同家の先代、粟津大進法眼入眞元隅が、元祿二年（二三四九）正月元日から同二月二十日までかゝつて入念に筆寫したもので、先人がいかに敬虔な態度を以て御聖敎書寫に對つたかは、その奥書により歷然たる痕跡が見ゆるやうである。奥に曰く。

右此御本書（仰者者）、眞宗秘寳、而越中國井波瑞泉寺所有之物也。（傳云）實如上人眞蹟幸得拜讀　而遂請手自奉書寫之。其一行一字不違焉。自元祿己巳歲閏正月朔。至同二月二十日畢其功也。謹以依祖德之高恩。而信佛智之大悲。而慶喜及感涙矣。然則製于家兒言。苟不憚冥慮。而有令自他妄拜見者。不可免罪者也。

粟津大進法橋入眞敬白、

十七　そ　の　他

その他、近江國蒲生郡南津田村眞念寺（大谷派）には本泉寺法印權大僧都蓮悟の眞蹟と傳ふる十七帖本延書（但し、奥なし）が所藏せられてあり、能登珠洲大坊村正福寺には傳實如上人眞蹟の殘缺本六

帖が藏せられてある。また龍谷大學敎授禿氏祐祥氏所藏の零本半帖も、此の十七帖本の信卷之二の初であつて、表紙の一隅に「眞實信文類三本下、敎口」の十文字がある。その下の花押を見ると恰も一見、敎如上人の花押に似通つてゐるが、本文の筆格と運筆とを子細に檢すると、敎如上人の眞筆でないことは明らかである。

尙又た、大阪市東區德井町本覺寺には「江州金堂弘誓寺」の朱印ある、天保頃の筆寫にかゝる一本を所藏されてゐるが、此亦、瑞泉寺本と同じく十七帖本である。只彼れと異なる點は、(一)信卷別序に撰號あること。(二)標擧の所在は別序の餘白に置くこと。(三)化土卷を本末に分つこと、以上三點のみであつて、他は皆同じである。

尙又た三河碧海郡野寺本證寺には宣如上人の眞蹟殘缺二帖を藏せりとのことだが未だ福眼を得ないから陳述するを得ない。

十八　版　本

御延書版本として傳へらるゝは、萬延二年(二五二一)に大谷派本山にて印刻されたのがそも〳〵の最初で、十七帖本が玆に小本四冊に縮刷されたのである。明治十四年九月に大高文進氏校訂の一本があらはれ、京都丁字屋また萬延本を翻刻するに至つた。近くは眞宗聖敎大全、眞宗聖典にも編入されたのである。

十九　結論の一

上來煩を厭はず、現存若しくは有無不詳の古寫本を雜然として陳列したが、翻つて御本書延書の創作者並にその種類を考究すべきことゝなつた。

前述せる如き二十有余種の御延書が、詮ずるところ果して原本それ〴〵異つた種類のものであらうか、將た又た原本は唯一種で、その原本より幾つにも展轉傳寫せしめられたものであらうか。考察すべきは此の問題である。

龍谷大學所藏の一本に現はれた、康永二年の奧書と、「此書存覺聖人ノ御筆ヲ以テ寫申候。云々」の天文二十二年の奧書とを基調として推測する時は、確かに康永二年に於て存覺師の手に成れるものを以て嚆矢と言はねばならぬ。而して後世、世に流布せる諸本は皆その傳寫本と思はれるのである。果して然らば存覺上人創始の御延書唯維れ一種であつて、他は皆その傳寫本に外ならぬであらうか？

予は上來縷々說き來つた諸本を逐次比較對照したが、或は獨斷であるかは知らぬが恐らく御本書延書本には二種の原型の存在するてふ結論に到着したのである。無論、極微細なる部分まで檢尋すればそれ〴〵皆相異する點を發見するが、大體上、左の二系統に歸着すると思ふ。

一は覺如上人延書――（多くは二十帖若くは十九帖本のもの）

二は存覺上人延書――（多くは十七帖本のもの）

前者に就ては弘誓寺本、勝福寺本、本山內事局本、傳覺信尼公本、金森善立寺本等は、調卷、內容、假名遣等に於ては殆ど同一種であり、同一系統と信ずる。是れを古來の傳說に從つて、予は覺如上人御延書であるまいかと思ふ。「淨土眞宗聖敎目錄先啓」の中に「敎行信證六卷、……眞蹟在ニ報恩寺及專修寺寶庫ニ有ニ搨書二本ニ一本者覺如上人一本者蓮如上人拜寫」といふが如く、覺如宗主と蓮如師との二本の展書を擧げてゐるが、今はその前者の一本である。

後者に就ては、西本願寺所藏の延文五年本は未だ眼福を得ないが、康永二年の跋書ある佛敎大學本を初めとして、その他の調卷十七帖を有する現存の諸本とを逐次比較對照する時は、此等の諸本は殆ど內容、形式、例へば撰號の位置、標擧の所在、信卷及化土卷を本末に分つ分たざる等の些小事に至るまで大體上一致する點を發見する。これその原型の同一種なる所以で、是れが卽ち存覺上人延書本である。願入寺本（綽如）、妙琳坊本（巧如本）、專修坊本（蓮如本）、瑞泉寺本正福寺本（實如本）眞念寺本（蓮悟本）を初め、萬延刊行本に至るまでの十七帖延書本は皆な存覺上人本と言ひうる。「淨土眞宗聖敎目錄」に擧ぐる所の展書二本の中、後の一本「蓮如上人拜寫」と稱するものは、とりもなほさず存覺師延書の傳寫なること申すまでもない。茲に延書本の原型に二種の存在することを立證し得たのであるが、今その二系統を圖示すれば左の如くである。

（一）傳覺如上人延書本

眞筆本――□□□――本山內事局本、傳覺信尼公延書本、勝福寺本、弘誓寺本、善立寺本等、

（二）存覺上人延書本

眞筆本――尊蓮本――存覺延書本――善如延書本――綽如延書本――巧如延書本――存如延書本

――蓮如延書――實如延書
　　　　　　　蓮悟延書等、

二〇　結論の二

人或は說をなして「存覺師の延書製作は康永二年の奧書によりて動かすことは出きないが、東奔西走日猶少なき覺如上人にして、而も老年に及び眼疾に苦しみ玉ふ折柄〃どうして敎行信證一部六

軸の御延書が出きやうか」と言ふけれども、しかし單に是のみを以て覺如上人創作の延書なきことを立證することは出きぬ。

抑々、覺如上人の事蹟を考ふるに、西本願寺所藏の「鏡御影」裏書にも、「應長元歳辛亥五月九日、於二越州一敎行證講談之次記レ之」といひ、同じく「存覺上人一期記」の中、存師二十二歳の條下にも「二十余日御居住、大町如道許レ奉二受敎行證一候間、依二御與奪一予大略授レ之了」といふ如く、覺師は越前の化道に於て、宗祖の敎行信證を講本とし以て、講筵を開き玉ふた點に就て見るも、或は又た最須敬重繪詞七左九丁に「申請ケル輩ニハ一紙ノウチ片時ノ程ナトニイト思案ニモオヨハス、タヽ率爾ニ筆ヲソメラルヽ事著述アマタアリ、後ニソノ名ヲ題セラレテ執持鈔、願々鈔、最要鈔、本願鈔ナト號セラル、コレミナ所被ノ輩ノツタナキヲサキトシテ漢字ノ筆體ノマヨヒヤスキヲサシヲキ、所望ノ族ノオロカナルヲ本トシテ和字ノ製作ノコヽロエヤスキヲモチヰラルヽ所ナリ」とあるが如く、恐らく這うした愚族の讀み易からしめんがための故に、覺師の殊更に、延書し玉ふ所と思ふ。敎行信證御延書が、前後二回までもありとするは少しく疑議すべき點なきにしもあらずであるが、此亦前例の存することで、例へば淨土文類聚鈔一巻が願主の所望避れ難く、暦應三年四月（二〇〇〇）と康永三年三月（二〇〇四）との前後二回、原本から延書せられたことによつて見るも容易く首肯し得ることと思ふ。

要するに「敎行信證延書」は存覺上人の創始であつて、その他は皆この傳寫本に過ぎない」といふのが、最近、眞宗史學者の唱へる有力なる一説であるが、予は現存せる幾多の古寫御延書を參照して、存覺上人延書以外に、他の一つの延書本の存在せることを見、そうしてその延書本たるや、恐らく覺如上人延書に非らずやと推定いたしたいのである。素より、是を立證する文献殊にその第一史科の發見さるゝまでは、しばらく幾分の疑ひを存しておく。

擱筆するにのぞみ、內事局所藏本並に金堂弘誓寺本（覺如上人延書）と、井波瑞泉寺本（存覺上人延書）とを比較對照して、一目その相異點を見易からしめ、かくて相互の徵細に亙る異同等に關する煩雜なる考證に付ては一切是を省略することとする。

二十一　三本延書調卷幷に布列對照表

內事局本（舊敎行寺本）十九册	弘誓寺本二十册	瑞泉寺本十七册
（第一册）	（第一册敎之卷）	（第一册）

顯淨土眞實敎行證文類ノ序
愚禿釋親鸞述
ヒソカニ乃至嘆スルナリ
顯眞實敎一
・
乃至　三
顯化身土六
顯淨土眞實敎文類一
愚禿釋親鸞集
大無量壽經（眞實之敎 淨土眞宗）
ツシンテ―（本文中略）―眞敎ナ
リシルヘシト
顯淨土眞實敎文類一
（第二冊）
顯淨土眞實行文類ノ二

同
（第二冊行之卷上）

顯淨土眞實敎行證文類序
撰號ナシ
ヒソカニ乃至嘆スルナリ
大無量壽經（淨土眞宗 眞實ノ敎）
眞實ノ敎ヲアラハス一
乃至
化身土ヲアラハス　六
顯淨土眞實敎文類一
愚禿釋ノ親鸞ノ集
ツシンテ―（本文中略）―眞敎ナ
リシルヘシ
題號ナシ
（第二冊）
顯淨土眞實行文類ノ二

愚禿釋ノ親鸞集
諸佛稱名ノ願（淨土眞實ノ行 選擇本願ノ行）
ツシンテ―（本文中略）―往生セ
シメタマヘルナリト抄出
（第三冊）
安樂集ニイハク―（本文中略）―
三昧王トイフト巳上
（第四冊）
往生要集ニイハク―（本文中略）
―信スヘシト
六十行ステニオハリヌ一百
二十句ナリ
顯淨土眞實行文類二

同
（第三冊行之卷中）
同
（第四冊行之卷下）
往生要集ニイハク―（本文中略）
信スヘシト
六十行己畢一百二十句也
顯淨土眞實行文類二

愚禿釋ノ親鸞ノ集
諸佛稱名ノ願（淨土眞實ノ行 選擇本願ノ行）
ツシンテ―（本文中略）―易行道
ニヨラサランヤ巳上
（第三冊）
光明寺ノ和尙ノノタマハク
―（本文中略）―專心專念トイヘ
リ巳上
（第四冊）
智昇師ノ集諸經禮懺儀ノ一卷ニ
イハク―（本文中略）―信スヘシ
六十行ステニオハンヌ一百二
十句
顯淨土眞實敎行證文類

(第五冊)	(第五冊信之卷本上)	(第五冊)
顯淨土眞實信文類ノ序 愚禿釋ノ親鸞述ス ソレオモンミレハ乃至毀謗ヲ生 スルコトナカレト 顯淨土眞實信文類ノ三(サムO)ノ本(ホン) 愚禿釋ノ親鸞集(シフ) 至心信樂ノ願　正定聚ノ機 ツシンテ—(本文中略)—他ノ因 ノアルニハアラサルナリトシル ヘシ	……………毀謗(ツシリソシルコト) 三(サンO)ノ本 集(アツムOOO) ツシンテ—(本文中略)—益ヲウ レハナリト 顯淨土眞實信文類三序本上	顯淨土眞實信文類序 愚禿釋ノ親鸞ノ集 ソレオモンミレハ乃至毀謗ヲ生 スルコトナカレ 顯淨土眞實信文類三 至心信樂ノ願　正定聚ノ機 ツシンテ—(本文中略)—發起セ シメタマヘリ已上
	(第六冊信之卷本中)	
無	マタ一切往生人等ニ—(本文中 略)—信不具足トストイヘリ已上抄出	無

	顯淨土眞實信文類三本中	
(第六冊)	(第七冊信之卷本下)	(第六冊)
トフ如來ノ本願ステニ—(本文 中略)—攝取シタマフ必然ノ理 ナリ已上 顯淨土眞實信文類三本下	華嚴經ニノタマハク—(本文中 略)—攝持(ヲサメタモチ)シタマフ必然(カナラスシカラシムル)ノコト ハリナリ已上 顯淨土眞實信文類三本下	貞元ノ新定釋敎ノ目錄卷 第十一ニイハク—(本文中略)— 必然ノ理ナリ已上
(第七冊)	(第八冊信之卷末上)	(第七冊)
ソレ眞實信樂ヲ按スルニ—(本 文中略)—三菩提心ヲ發セシム ルコトアタハスト已上	顯淨土眞實信文類ノ三ノ末 愚禿釋ノ親鸞集 ソレ眞實信樂ヲ案スルニ—(本 文中略)—三菩提心ヲ發セシム ルコトアタハスト已上 顯淨土眞實信文類三末上	ソレ眞實信樂ヲ案スルニ—(本 文中略)—六加維鳩馱迦旃延

(第八冊)	(第九冊信之卷末中)	
マタノタマハク―(本文中略)―辭退シテミヤニカヘリニキト巳上抄出	マタノタマハク―(本文中略)―辭退シテミヤニカヘリニキト巳上抄出 顯淨土眞實信文類三末中	無
(第九冊)	(第一〇冊信之卷末下)	(第八冊)
マタノタマハク―(本文中略)―コレ虚誑語ナリ略出 顯淨土眞實信文類三	(前同) 顯淨土眞實信文類三末下	マタイハク善男子―(本文中略)―コレ虚誑語ナリ略出 顯淨土眞實信文類ノ三
(第一〇冊)	(第十一冊證之卷上)	(第九冊)
顯淨土眞實證文類ノ四 愚禿釋親鸞集 必至滅度之願 難思議往生	顯淨土眞實證文類ノ四 愚禿釋ノ親鸞集 必至滅度之願 難思議往生	(必至滅度ノ願 難思議往生) 顯淨土眞實證文類ノ四 愚禿釋ノ親鸞ノ集

ツシンテ眞實證ヲアラハサハ―(本文中略)―因ナクシテ他ノ因ノアルニハアラストナリ。	ツシンテ眞實ノ證ヲアラハサハ―(本文中略)―因ナクシテ他ノ因ノアルニハアラストシ。ルヘシトナリ	ツシンテ―(本文中略)―アルコトナキコトヲアカス(ナリ)
	顯淨土眞實證文類四本	
(第十一冊)	(第十二冊證之卷下)	(第十冊)
略シテ入一法句―(本文中略)―コトニ頂戴スヘシト 顯淨土眞實證文類ノ四	略シテ入一法句―(本文中略)―マコトニ頂戴スヘシト 顯淨土眞實證文類ノ四末	肇公ノイハク法身ハ―(本文中略)―コトニ頂戴スヘシト 顯淨土眞實證文類ノ四
(第十二冊)	(第十三冊眞佛土卷上)	(第十一冊)
顯淨土眞佛土文類ノ五 愚禿釋ノ親鸞集 光明無量ノ願 壽命無量ノ願ツ	顯淨土眞佛土文類ノ五 愚禿釋ノ親鸞集 光明無量ノ願 壽命無量ノ願ツ	同

ツシンテ眞佛土ヲ按スレハ―（本文中略）― 第一義諦トスト略出	シンデ眞佛土ヲ按スレハ―（本文中略）―コレヲ聞見トナツク略出	
（第十三冊）	（第十四冊眞佛土卷下）	（第十二冊）
マタノタマハク迦葉マタイハク―（本文中略）―アフイ○テ敬信スヘシコトニ奉持（タモチタテマツル）スヘキナリシルヘシトナリ	浄土論ニイハク―（本文中略）―アフビ○テ敬信スヘシコトニ奉持（ウケタマハリタモツヘキナリ）スヘキナリシルヘシトナリ	浄土論ニイハク―（本文中略）―奉持（ウケタマハリタモツヘシ）ス○ヘ○シ○シルヘシトナリ
顯浄土眞佛土文類五	顯浄土眞佛土文類五	顯浄土眞佛土文類 五
（第十四冊）	（第十五冊化身土卷本上）	（第十三冊）
顯浄土方便化身土文類、六、本○ 愚禿釋親鸞集（アツムル） 至心發願ノ願（邪定聚ノ機 雙樹林下往生 無量壽佛觀經ノコ、ロナリ）	……本○ノ字ナシ 同	同
至心廻向ノ願（不定聚ノ機 難思往生 阿彌陀經ノコ、ロナリ） ツシンテ化身土ヲアラハサハ佛○ト○イ○フ○ハ○―（本文中略）―不實ノ功德トナツクト巳上	ツシンテ化身土ヲアラハサハ―（本文中略）―不實ノ（マコトナラサル）功德トナツクト巳上	
（第十五冊）	（第十六冊化身土卷本中）	（第十四冊）
安樂集ニイハク大集經ノ月藏分ヲヒキテノ○タ○マ○ハ○ク○―（本文中略）― コノ義ヲモテノユヘニ善知識トナツク抄出	安樂集ニイハク大集經ノ月藏分ヲヒキテイ○ハ○ク○―（本文中略）―大師ノ恩ヲ報セント巳上 顯浄土方便化身土文類、六本中	シカルニイマ大本ニヨルニ―（本文中略）―善知識トナツク抄出
（第十六冊）	（第十七冊化身土卷本下）	（第十五冊）
「華嚴經ニノタマハク」―（本文中畧）― マタ仁王經ニイフカコ	光明寺ノ和尚ノイ○ハ○ク○―（本文中略）― マタ仁王經ニイフカコ	華嚴經ニノタマハク―（本文中略）― マタ仁王經ニノ○タ○マ○ハ○ク○

トシ乃至巳上略抄 顯淨土方便化身土文類ノ六ノ本	トシ巳上略抄 顯淨土方便化身土文類六本下	乃至巳上略抄
(第十七冊)	(第十八冊化身土卷末上)	(第十六冊)
顯淨土方便化身土文類ノ六ノ末 愚禿釋ノ親鸞ノ集(シフ) ソレモロ〳〵ノ修多羅ニヨリテ ―(本文中略)―護持養育スヘシ ナシ	顯淨土方便化身土文類六末上 同　集(アツム)	ナシ ソレモロ〳〵ノ修多羅ニヨリテ ―(本文中略)―罪福ノ因緣ヲ信スヘシ抄出 ナシ
(第十八冊)	(第十九冊化身土卷末中)	
ソノトキニ世尊マタ ―(本文中略)― 世間ノ名利恭敬ニ貪着(トム)(ムサボリツク)スルカユヘナリト巳上	ソノトキニ世尊マタ ―本文中略)― 世間ノ名利恭敬ニ貪着(トン)スルカユヘナリト巳上	無
後題ナシ	顯淨土眞實敎行證文類六末中	
(第十九冊)	(第二十冊化身土卷末下)	(第十七冊)
辨正論法琳(リム)撰 ニイハク十喩九箴篇 ―(本文中略)―菩薩ミナ攝取ス 巳上	辨正論法琳(リン)撰 ニイハク十喩九箴篇 ―(本文中略)―菩薩ミナ攝取ス ト巳上	首楞嚴經ニノタマハク ―(本文中略)― 菩薩ミナ攝取ス巳上
顯淨土眞實敎行證文類ノ六	顯淨土眞實敎行證文類ノ六末下	顯淨土眞實敎行證文類ノ六

右の對照表は、三本延書に就て、たゞ本文のみを中略して、他の一を順序のまゝ書きたてたのであるから、一見するところ圖表としては煩雜であるかも知れないが、三本の重要なる處の相異を抜萃して指的するよりも、却つてこの方が調卷、布列等の相異が一層明瞭に知らるゝと考へたから敢へてかくの如く對照せしめたのである。調卷の形式、首尾題號の有無、撰號の位置、標擧の所在、假名の同異等によりて、內事局本と弘誓寺本とは同一系統に屬することゝ、瑞泉寺本は是と別種なることの二事實を明白にすることを得れば本圖の意義は足るのである(完)。

教行信證大綱要覽

序文

【總序】
彌陀教利益……1
教興由緣……1
行信勝德……1
易往易修之教……1
聞法宿緣……1
疑惑之失……2
製作由致……2

教卷

【開章】
眞宗大綱……3
【正釋】
〔直明〕
大經大意……3
大經宗體……3
〔引證〕
{經說}
五德瑞相……3
出世本懷……4
佛世難値……4
唐譯出世本懷文……5
漢譯佛世難値文……6
{師釋}
五德瑞相釋……6
〔結嘆〕
眞實教六嘆釋……6

行卷

【標擧】
【正釋】
〔直明〕
大行之體……8
大行具德……8
十七願名……8
〔引證〕
{經說}
((本經))
十七願文……8
名聲普聞……8
功德廻施……9
常住說法……9
十七願成就文……9
諸佛讃嘆……9
聞名往生……9
唐譯重誓文……9
唐譯諸佛讃嘆文……10
吳譯十七十八兩願合說文……10
漢譯十七十八兩願合說文……10
聞名果遂……11
阿闍世太子聞法事緣……11
聞名之益……12
聞名授記……12
聞名入報……13
聞名宿善……13
釋迦視善……14
聞法勸進……14
((末經))
無諍念王聞名往生願……15
((私釋))
稱名破滿……15
稱名轉釋……15

{師釋}

《龍樹》

入初地相……15
世間道……16
出世間道……16
歡喜相狀……16
分毛取水譬……17
歡喜所由……18
念佛……18
念法……18
念必定菩薩……18
念希有行……19
歡喜差異……19
歡喜當得……19
轉輪聖子譬……20
定心釋……20
信力増長釋……20
初地心相……20
深行大悲釋……21
難易二道判……21
諸佛易行……21
彌陀易行……22
本願引釋……22
即入必定……23
信疑得失……23
乘船度海……23

《天親》

佛教相應……24
速滿寶海……24
二利成就……24

《曇鸞》

難行道五難……24
易行道……25
三經宗體……25
一心釋……26
禮拜門釋……26
歸命禮拜輕重……26
命字訓……26
讃嘆門釋……26
稱字訓……26
作願門答……27
無生問答……27
往生問答……28
三依釋……28
修多羅釋……28
不實功德……28
眞實功德……29
總持釋……29
願釋……29
相應釋……29
廻向門釋……29
往相廻向……29

《道綽》

念佛三昧德……30
念佛易修……30
伊蘭林及栴檀譬……30
轉惡成善……30
一念滅罪……31
獅筋譬……31
獅乳譬……31
翳身藥譬……32
諸障除滅……32
一念大利……33
聞名不退……33
流水草木譬……33
易往無人……33
無眼人無耳人……33

《善導》

一行三昧……34
觀稱難易問答……34
由字訓……34
境現一多問答……34
一佛專勤問答……35
諸佛所證平等……35
彌陀別願因緣……35
光號攝化……35
專修四德……36
光明攝化……36
名號攝化……36
念佛現益……37
滅罪緣……37
護念緣……37
攝生緣……38
本願引釋……38
證生緣……38
釋迦證誠……38
諸佛證誠……38
證誠護念……39
擁護護念……39
弘願釋……39
乘字訓……39
六字釋……39
攝生增上緣釋……40
本願引釋……40
證生增上緣釋……40
一念滅罪……40
釋迦恩德……40

《私釋》

歸命釋……40
發願廻向釋……41
即是其行釋……41
必得往生釋……41

(衡州其他諸師)

念佛無上門……41
二尊化益……42
名號攝化……42
名號流行……42
稱名往生……42
稱名滅罪……43
念佛成佛……44
念佛三昧……44
念佛成佛相……44
念佛急要……45
念佛生蓮……45
正値十事……46
極樂家鄉……47
萬機普益……47
瓦礫變金譬……47
稱名滅罪……48
無礙念佛……48
一念往生……49
大經結槃……49
如來淨土因果……49
衆生往生因果……50
淨土易往……51
淨土殊勝……51
淨土有緣……51
聞名不退……51
易行捷徑……51
佛名建立……52
一名一切名……52
稱名滅罪……52
淨土法門徧諸經……53
覺障問答……53
念佛三昧無覺事……54

彌陀十一力……54
名號最勝……55
全德施名……55
名號攝化……55
臨終勝益……56
念佛滅罪……56
念佛生善……56
念佛來迎……56
觀經兩譯……57
至德具足……57
彌陀諸佛功德互攝……58
念佛滅罪所由……58
稱名卽稱德……58
三昧王……59
((源信))
一向專念……59
別願念佛……59
稱名往生……59
諸佛六種功德……59
彌陀六種功德……60
念佛利益……60
波利質多譬……60
石汁譬……60
忍草譬……61
月利沙譬……61
((源空))
念佛爲本……61
三選之文……61
((私釋))
不廻向行……61
因一果一……62
行信所得益……62
兩重因緣……62
行一念釋……63
一念大利……63
乃至釋……64
大利無上釋……64
專心專念釋……64
一念轉釋……64
大行利益……64
十念釋……65
〔結嘆〕
大行四嘆釋……65
【追釋】
〔他力釋〕
本願力……65
自利因成就……66
利他因成就……66
菩提果成就……66
阿耨菩提譯名……67
驗求其本……68
他利利他……68
三願的證……68
十八願文……68
十一願文……68
二十二願文……69
自力他力相……69
自力此土證眞……70
他力彼土往生……70
〔一乘海釋〕
一乘義……70
誓願一佛乘……71
實諦……71
一道……71
分一說三……71
二種畢竟……72
一乘佛性……72
悉有佛性……72

非一非三……72
生死解脫一道……72
安養界裡妙證……72
海義……73
一味無差德……73
不宿死屍德……73
深廣無涯德……73
無量寶藏德……73
願力成就……74
菩薩藏……74
頓教……74
菩提藏……74
二教四十八對……75
絕對不二之教……75
二機十一對……75
絕對不二之機……75
一乘海德……76
二十八譬……76
【偈頌】
〔由敍〕
眞宗法門大綱……78
造偈所由……78
〔本偈〕
{依經分}
彌陀成佛因果……79
衆生往生因果……80
釋迦出世本懷……80
不斷得證……80
平等一味……81
心光照護……81
信智明朗……81
橫截五趣……81
諸佛稱讚……81
念佛難信……82
{依釋分}
七祖功勳……82
龍樹行化……82
龍樹教語……83
天親行化……83
天親教語……83
曇鸞行化……84
曇鸞教語……84
道綽行化……85
道綽教語……85
善導行化……85
善導教語……85
源信行化……86
源信教語……86
源空行化……86
源空教語……87
七祖恩德……87
奥書……87

信卷本

【別序】
他力宗致……91
自力迷執……91
述作意趣……91
【標擧】
【正釋】
〔直明〕
大信十二嘆釋……92
十八願名……92
信樂難獲……92
獲信利益……92
〔引證〕
{經說}
十八願文……93

唐譯十八願文……93
十八願成就文……93
唐譯十八願成就文……94
大信利益……94
善親友……94
大威德者……94
諸尊重愛……95

{師釋}

光明破闇……95
名號破滿……96
不如實修行相……96
不知二身……96
三種不相應……96
如實修行相……96
信心相狀……97
本佛自在攝化……97
所化機相……97
三心正因……98
(一)至誠心釋……98
不實機相……98
虛假雜毒之行……98
雜毒不生之所由……99
自利眞實……99
利他眞實……99
(二)深心釋……99
機深信……99
法深信……99
觀經深信……99
小經深信……99
就人立信……100
唯信佛語……100
因人不了果人了義……100
諸佛同道……101
就行立信……102
正助二業……102
雜行……103
(三)廻向發願心釋……103
念佛往生得不問答……103
敎益多門……104
隨緣起行……104
學解學行……105
二河白道譬……105
合法……107
廻向心相……109
還相廻向……109
善巧攝化……110
機受信相……110
聞名信喜……111
大信利益……111
諸覺不障益……111
不沒生死益……111
煩惱不壞益……111
大悲照護益……111

〔總結〕

願力廻向行信……112

【問答】

〔三心字訓釋〕

至心字訓……112
信樂字訓……112
欲生字訓……112
疑蓋無雜一心……113

〔三心實義釋〕

{至心釋}

本分機相……113
法體成就至心……114
廻施至心……114
至心之體……114
因行修相……114

廻施來行……115
果德成就……115
雜毒不生……115
佛眞實行……116
利他眞實……116
眞實釋……116
內外明闇釋……117

{信樂釋}

信樂之體……117
本分機相……117
法體成就信樂……118
信樂正因……118
廻施信樂……118
機受一心……118
四無量心佛性……118
信心佛性……119
一子地佛性……119
信心正因……120
信不具足……120
與諸如來等……120
佛力斷疑……120
信心勝德……120
信中所具行……121
信中所具行位……122
如實修行相應一心……123
信爲能入……124

{欲生釋}

欲生之體……124
本分機相……124
法體成就欲生……124
廻施欲生心……124
他力廻向……124
機受欲生……124
二種廻向……125
願心莊嚴……126
還相攝化相……126
如實願生心……126
白道四五寸釋……127
能生願心釋……127
他力廻向金剛心……127
厭離穢土忻求淨土……127

{三心結釋}

三心卽一心……128
信心必具名號……128
大信嘆德……128
四不十四非……128
阿伽陀藥譬……129

{菩提心義}

自力菩提心……129
他力中自力菩提心……129
他力菩提心……129
正邪眞僞得失……130
發菩提心……130
爲樂願生不可得……130
廻向名義……130
惡世成佛難……130
惡世說法難……131
剎那成佛法……131
轉凡成聖法……131
淨土法門難信……132
別願不共攝益……132

信卷末

{信一念釋}

聞信一念……133
聞不具足……133
聞釋……134
信心釋……134

歡喜釋 …… 134
乃至釋 …… 134
一念釋 …… 134
現生十益 …… 134
專念專心釋 …… 135
一念轉釋 …… 135
佛智所生信 …… 135
四等具足信 …… 135
是心卽佛 …… 136
〔總結〕
【追釋】
〔菩提心名〕
〔橫超斷四流釋〕
橫超釋 …… 137
二雙四重 …… 137
因領超 …… 137
名聲超 …… 137
斷證超 …… 137
斷釋 …… 138
四流釋 …… 138
厭忻利益 …… 139
策勵報恩 …… 139
〔眞佛弟子釋〕
觸光柔軟願 …… 140
聞名得忍願 …… 140
唐譯觸光柔軟願 …… 140
善親友 …… 141
福智具足 …… 141
廣大勝解者 …… 141
大威德者 …… 141
分陀利華 …… 141
設聽方軌 …… 141
諸佛護念 …… 142
法王法臣 …… 142
念佛報恩 …… 143
念佛滅罪 …… 143
發心度脫 …… 143
常行大悲 …… 144
彌陀招喚恩 …… 144
釋迦發遣恩 …… 144
教化報恩 …… 145
光明攝取 …… 145
十地究竟 …… 145
心光攝護 …… 145
歡喜得忍 …… 145
念佛超勝 …… 146
芬陀利譬 …… 146
五種嘉譽 …… 147
觀音勢至常隨影護 …… 147
生諸佛家 …… 147
聞名不退 …… 147
便同彌勒 …… 147
次如彌勒 …… 148
宿善不退 …… 148
一切衆生授記 …… 148
橫超大益 …… 148
典韋提等 …… 148
願生西方事例 …… 149
假釋 …… 149
僞釋 …… 150
悲歎述懷 …… 150
【逆謗攝取釋】
〔直辯〕
{總標}
難化三機 …… 150
{機相}
阿闍世興逆受報 …… 151
阿闍世滅罪惡緣 …… 152

(一)月稱緣 …… 152
(二)藏德緣 …… 153
(三)實德緣 …… 155
(四)悉知義緣 …… 156
(五)吉德緣 …… 158
(六)無所畏緣 …… 160
阿闍世滅罪善緣 …… 160
(一)耆婆緣 …… 160
(二)頻婆娑羅緣 …… 162
六臣六師列名 …… 163
{佛德}
不入涅槃 …… 163
密語解說 …… 163
阿闍世得益 …… 164
放光治身 …… 164
病子偏愛譬 …… 165
月愛三昧 …… 166
說法治心 …… 166
菩提近因 …… 166
毘瑠璃王事緣 …… 167
瞿伽離比丘事緣 …… 167
須那刹多事緣 …… 167
約殺父因緣破執情 …… 167
重罪輕罪 …… 167
頻婆娑羅事緣 …… 168
約造罪心地破執情 …… 169
四種狂惑 …… 170
幻師譬 …… 170
谷響譬 …… 170
怨敵譬 …… 170
鏡像譬 …… 171
熱炎譬 …… 171
乾城譬 …… 171
夢欲譬 …… 171
約見解不同破執情 …… 172
{得益}
阿闍世發心 …… 173
伊蘭子生栴檀譬 …… 173
無根信 …… 173
阿闍世供養讃嘆 …… 174
口業功德讃嘆 …… 175
意業功德讃嘆 …… 176
身業功德讃嘆 …… 176
廻向發願 …… 176
阿闍世過去發心 …… 177
{重明}
阿闍世興逆因緣 …… 178
阿闍世滅罪因緣 …… 182
如來入滅不入滅 …… 183
{結成}
法藥治病 …… 184
〔問答〕
逆謗除取問答 …… 184
(一)逆謗攝不 …… 184
(二)謗法不生 …… 185
(三)謗法罪相 …… 186
(四)逆謗本末 …… 186
(五)念佛業道輕重 …… 187
重者先牽難 …… 187
有漏業繫難 …… 187
三在釋 …… 188
(六)十念相狀 …… 189
(七)十念記數 …… 189
攝抑二門 …… 190
未造抑止 …… 190
已造攝取 …… 191
華內三障 …… 191
廻心攝取 …… 192

〔追釋〕
五逆罪相……………………………… 192
三乘五逆……………………………… 192
大乘五逆……………………………… 193
近無間罪……………………………… 193

證卷

【標擧】
【正釋】
〔直明〕
證果之體……………………………… 197
十一願名……………………………… 197
往相因果……………………………… 197
示現身相……………………………… 197
〔引證〕
{經說}
十一願文……………………………… 197
唐譯十一願文………………………… 198
十一願成就文………………………… 198
滅度相狀……………………………… 198
唐譯十一願成就文…………………… 198
{師釋}
正定分齊……………………………… 19)
正定通二土…………………………… 199
彼土正定……………………………… 199
不朽藥譬……………………………… 199
此土正定……………………………… 200
證果一味……………………………… 200
不斷得證……………………………… 201
嘆歸西方……………………………… 201
乘願得生……………………………… 201
二尊遣喚……………………………… 202
證果體用……………………………… 202
捨此往彼……………………………… 202
〔結釋〕
願力廻向因果………………………… 203
【還相釋】
〔直明〕
二十二願名…………………………… 203
〔引證〕
還來度生相…………………………… 203
還相名義……………………………… 203
見佛超證……………………………… 204
平等法身釋…………………………… 204
寂滅平等釋…………………………… 204
報生三昧……………………………… 204
未證淨心釋…………………………… 205
漸進超證問答………………………… 205
畢竟平等……………………………… 205
七地沈空難…………………………… 206
淨土超證實義………………………… 206
二十二願文…………………………… 206
十地階次施設………………………… 207
好堅樹譬……………………………… 207
頓悟卽證事例………………………… 207
主伴差別相…………………………… 208
主功德成就…………………………… 208
菩薩功德成就………………………… 209
四種正修行…………………………… 209
(一)不動徧至德……………………… 209
無垢輪釋……………………………… 210
淤泥華釋……………………………… 210
(二)一念徧至德……………………… 210
(三)供讚自在德……………………… 211
(四 興隆三寶德……………………… 211
淨入願心……………………………… 212
願心莊嚴……………………………… 212
廣略相入……………………………… 212

二種法身……………………………… 212
三名轉入……………………………… 213
眞智法身釋…………………………… 213
二種淸淨……………………………… 214
人天淸淨……………………………… 215
善巧攝化……………………………… 216
柔軟心………………………………… 216
如實知………………………………… 216
巧方便廻向…………………………… 216
發菩提心……………………………… 217
住持樂………………………………… 217
廻向名義……………………………… 217
巧方便釋……………………………… 217
火𣔻譬………………………………… 218
離菩提門……………………………… 218
貪着自身心…………………………… 218
無安衆生心…………………………… 219
供養自身心…………………………… 219
順菩提門……………………………… 219
無染淸淨心…………………………… 219
安淸淨心……………………………… 219
樂淸淨心……………………………… 220
名義攝對……………………………… 220
般若方便……………………………… 220
權實二智……………………………… 220
諸法障礙相…………………………… 221
妙樂勝眞心…………………………… 222
三種樂………………………………… 222
願事成就……………………………… 222
四心…………………………………… 222
五業…………………………………… 223
利行滿足……………………………… 223
五果門………………………………… 223
五念五果對配………………………… 224
法味樂………………………………… 225
遊戲釋………………………………… 225
【總結】

眞佛土卷

【標擧】
【正釋】
〔直明〕
身土標定……………………………… 229
誓願酬報……………………………… 229
〔引證〕
{經說}
(本經)
十二願文……………………………… 229
十三願文……………………………… 229
十二願成就文………………………… 229
十二光佛……………………………… 229
人天遇光益…………………………… 230
三塗見光益…………………………… 230
光德普聞……………………………… 2C0
諸聖讚嘆……………………………… 230
聞光往生……………………………… 230
十三願成就文………………………… 231
唐譯十二願成就文…………………… 231
十五光佛……………………………… 231
無量光明土…………………………… 232
吳譯十二願成就文…………………… 232
光照遠近……………………………… 232
所願大小……………………………… 232
十一光德……………………………… 233
光明力用……………………………… 233
諸聖讚嘆……………………………… 234
聞名讚光……………………………… 234
(末經)

壽命無量…… 234
涅槃果德…… 234
(一)眞解脫德…… 235
無上上…… 235
無愛無疑…… 235
(二)三寶一體德…… 235
名一義異…… 235
名義俱異…… 236
(三)智光最勝德…… 236
(四)無爲常住德…… 236
(五)最上醍醐德…… 236
五味相生譬…… 236
(六)常樂我淨德…… 237
三法常住…… 237
三法無相…… 238
斷受樂…… 238
寂靜樂…… 239
覺知樂…… 239
不壞樂…… 239
果清淨…… 240
因清淨…… 240
身清淨…… 240
心清淨…… 240
智慧無礙…… 241
常住不變…… 241
衆生佛性…… 241
佛性未來義…… 242
未來身清淨…… 242
悉有佛性…… 242
佛性常住…… 242
闡提無善…… 243
如來知根力…… 243
根性不定…… 243
善星出家因緣…… 244
闡提有佛性…… 245
如來自在說…… 245
一名無量名…… 246
涅槃異名…… 246
無量義無量名…… 246
如來異名…… 246
一義無量名…… 247
陰異名…… 247
廣略互攝…… 248
眞俗互說…… 248
生身有爲說…… 248
法身無爲說…… 248
隨他意說…… 249
少見佛性…… 249
隨自意說…… 249
悉有佛性…… 249
隨自他意說…… 249
不見佛性…… 249
眼見佛性…… 250
聞見佛性…… 250
眼見心相…… 250
聞見心相…… 250
{師釋}
眞佛眞土…… 251
眞土德…… 252
業繫不牽…… 252
性四義…… 252
正道釋…… 253
三種慈悲…… 253
聲聞得生…… 254
佛土不可思議…… 254
五種不可思議…… 254
因力所成…… 255
果力所攝…… 255

二利圓滿莊嚴…… 255
眞佛德…… 255
不虛作住持…… 255
力願互成相符…… 256
十二光名義…… 256
龍樹願生…… 258
曇鸞自歸…… 258
同乘一如…… 258
一佛一切佛…… 259
是報非化…… 259
四十八願酬報身…… 259
報應名義…… 260
報身入滅會通…… 260
一切法如化…… 261
生滅法如化…… 262
不生滅法非化…… 262
如化非化隨機異說…… 262
五乘齊入…… 263
別願所成土…… 263
寂靜無爲樂…… 264
無爲涅槃界…… 264
自然…… 265
無爲法性身…… 265
無上涅槃…… 265
十二光名義…… 265
〔結成〕
此土不見佛性…… 266
彼土必顯佛性…… 266
彼土無念妙證…… 266
【對辯】
願海眞假…… 267
眞報佛土…… 267
眞土往生…… 267
假報佛土…… 267
眞宗正意…… 268

化土卷本

【標擧】
【正釋】
〔直明〕
方便身土…… 271
〔要門釋〕
{總明}
要門興由…… 271
十九願名…… 271
{引證}
((經說))
十九願文…… 272
無諍念王臨終現前願…… 272
十九願成就文…… 272
化土相狀…… 272
道場樹相…… 272
見樹得忍…… 273
講堂相…… 273
胎生相…… 273
胎生之因…… 274
胎生之果…… 274
胎化勝劣…… 274
七寶牢獄譬…… 274
爲失大利…… 275
胎化分別…… 275
含華未出…… 276
小行菩薩往生…… 276
((師釋))
邊地胎宮名義同異…… 276
懈慢界…… 277
專雜執心淺深…… 277
報化往生多少…… 277

{勸誡}
本願念佛……278
〔問答〕
{大觀三心一異}
((隱顯))
觀經顯說……278
觀經隱彰……278
隱彰十三文……278
((引證))
要弘二門……280
定散二善……230
念觀兩宗……280
觀經教攝……280
如是釋……280
定散法益無謬……281
定散契機……281
定散契法……281
定散二機……282
要門三心……282
(一)至誠心釋……282
厭離眞實……282
忻求眞實……282
(二)深心釋……283
觀經深信……283
自心建立信……283
就行立信……283
五種正行……283
正助二業……284
雜行……284
正雜得失……284
(三)廻向發願心釋……284
三心得生……285
聖道二利……285
淨土二利……285
要門九失……286
三品懺悔……286
懺悔滅罪……287
雜修不照……287
聖道隨宜方便……287
聖淨漸頓……288
淨土易往……288
不實機相……288
聖淨難易……288
聖道難證……289
((眞假))
三經外假……289
觀經方便……289
要門四法……289
觀經眞實……290
三經眞實……290
定散難成……291
觀法難成……291
門餘釋……291
一代教判……291
聖淨二門……291
正助雜釋……292
横超釋……292
雜行釋……292
雜行之體……292
雜行修相……292
正助釋……293
專修專心……293
雜修雜心……293
雜行異名……293
((結示))
{大觀三心小經一心一異}
眞門四法……294
准知隱顯……294

小經隱彰……294
執持釋……295
一心釋……295
無問自說經……295
列祖弘傳……295
三經大綱……295
信心最要……296
〔眞門釋〕
{總明}
眞門行信……296
雜心釋……296
專心釋……296
善本釋……296
德本釋……297
眞門興由……297
二十願名……297
{引證}
((正引))
(經說)
二十願文……297
機情失……297
果遂益……298
唐譯二十願文……298
付屬持名……298
念佛諸善廢立……299
(師釋)
念佛廣讚……299
念佛得生……299
諸佛勸讚……299
諸佛證誠……300
稱名要益……301
專稱佛名……301
念佛選說……301
念佛難信……302
念佛最勝……302
眞門勸勵……302
專雜得失……303
餘行少善……303
念佛多善……303
襄陽石經文……303
執持釋……304
((別引))
(經說)
弘願難信……304
善知識梵行因……304
邪見惡行因……304
信心菩提因……305
信不具足……305
信求對……305
聞思對……305
人法對……305
正邪對……305
信不具足過失……305
善因惡果……306
三種涅槃……306
戒不具足……307
聞不具足……307
善知識德相……307
三種善語……307
應病與藥……308
能度苦海……308
善知識恩德……309
(師釋)
知恩報德……309
彌陀恩……309
釋迦恩……309
化他報恩……310
{結示}

眞門四失…………………………311
悲歎述懐…………………………311
自力念佛失………………………311
三願轉入…………………………311
知恩造書…………………………312
〔結釋〕
聖淨通塞…………………………312
設人差別…………………………312
四依釋……………………………312
【因論】
〔聖淨眞假〕
{二門通塞}
聖道難證…………………………314
聖道時機不相應…………………314
攅木求火譬………………………314
折薪求水譬………………………315
五箇五百年說……………………315
淨土時機相應……………………315
衆經住滅…………………………315
唯一通路…………………………316
{三時開遮}
年時勘決…………………………316
二王化風…………………………316
二諦相資…………………………317
王法嚴制…………………………317
時機差別…………………………317
三時分際…………………………317
佛滅後行相變遷…………………318
五箇五百年說……………………319
佛滅年時…………………………319
周異記說…………………………319
晉春秋說…………………………320
末法無行證………………………320
名字僧眞寶………………………321
八無價寶…………………………321
破戒制許隨時不同………………322
正法時制法………………………323
像初行相…………………………324
毀破旬所說………………………324
像季行相…………………………325
破戒善知識………………………325
末法行相…………………………326
無戒得涅槃………………………327
末世導師…………………………328
末法制法罪………………………328
末法衰運…………………………328

化土巻末

〔內外邪正〕
{總明}
眞僞勸誡…………………………329
{別顯}
佉盧虱吒緣………………………329
年時分別…………………………330
星宿布置…………………………330
地居四天王安置…………………331
鬼神安置…………………………332
伽力伽緣…………………………332
魔女歸佛緣………………………333
歸佛者無魔害……………………333
念佛方軌…………………………334
魔王歸佛緣………………………335
邪見遠離十種益…………………336
正見隨順難………………………337
邪信惡報…………………………337
空居四天王護持四洲……………337
四王鬼神護持四洲………………338
星宿護持四洲……………………338

四王別護閻浮提…………………340
新生鬼神護持……………………341
賢劫四佛付屬護持………………342
梵天帝釋護持……………………346
三寶熾然…………………………347
精氣增長…………………………347
鬪諍飢饉休息……………………347
惡行衆生遮止……………………348
行法衆生護持……………………348
施主五利增長……………………349
說偈重說…………………………350
魔衆護持誓約……………………352
天衆護持誓約……………………353
日月護持…………………………353
四王護持誓約……………………354
正法護持福報……………………354
出家迫害惡報……………………354
鬼衆護持誓約……………………355
占相遠離…………………………356
末法魔障…………………………356
善神護念…………………………256
吉凶妄執遠離……………………357
吉凶妄執之罪……………………357
邪信禍害…………………………357
出家不禮鬼神……………………358
迦葉捨邪歸正……………………358
修道魔障…………………………359
釋老優劣…………………………361
左右勝劣…………………………361
化緣廣狹…………………………362
化迹先後…………………………363
遷謝顯晦…………………………363
出生勝劣…………………………364
德位高卑…………………………365
法門漸頓…………………………366
周世無機…………………………367
建造像塔…………………………369
敎爲治本…………………………370
大道君所居國……………………371
道敎經論…………………………372
捨邪歸正…………………………373
淸信佛弟子………………………373
諸佛舒舌證誠意…………………374
邪信炎禍…………………………374
三歸………………………………374
祭祀擢方…………………………374
餓鬼相狀…………………………375
餓鬼名義…………………………375
鬼神所屬…………………………375
三種魔……………………………376
世出世魔障………………………376
不事鬼神…………………………376
【後序】
聖淨盛衰…………………………376
道俗昏迷…………………………376
興福寺議奏………………………376
師資受刑…………………………376
勅免歸洛…………………………377
師主入滅…………………………377
捨雜歸正…………………………377
選擇集付屬………………………377
眞影恩許…………………………377
選擇集讃嘆………………………378
感荷恩德…………………………378
造書報恩…………………………378
【奥書】